

第一部 中国雲南ラフ族

1. 雲南ラフ族の「佛」信仰

1997年7月、筆者は北タイのキリスト教徒村落で自分にとって初めてのフィールドワークをしていた。ラフ語の初歩的な運用能力しかなかった筆者は、標準タイ語が上手な調査村のラフ人中学生をともなって、自称65歳のある老人を訪ねた。老人のライフヒストリーについてインタビューするつもりだったが、事前に筆者が話を聞きに来ることを知らされていた老人は、テープレコーダーの前でラフ族の伝承を語り始めた。途中で筆者や助手が質問を挟んだりしたが、より短くまとめると以下のような話だった。

昔ラフの国があったそう。中国にあった。ラフの王は「ポウル」(Po, -Lu) だった。ラフの国は「ムメミメ」(Mvuh Meh Mi, Meh) といったそう。それを漢人が奪おうとしたんで戦争になったそう。戦争になって、ラフが漢人に勝った。漢人は洞窟に逃げ込んだそう。ラフは攻められない。3年と6カ月待った。待ったけど出て来ない。もう待ち切れない。もう死んだのだろうと思ってラフはもう見張りをしない。ラフには弩の留め金と引き金があった。留め金は籠9つ分、引き金は箕9つ分あったそう。ラフは7段の罟を仕掛けた。漢人が出て来たら、罟にかかって死ぬように。そしてラフは狩りに行った。7人のラフの女が漢人をこっそり覗きにきた。漢人は口琴を作って待った。漢人は瓢箪笙を作って待った。瓢箪笙を吹くときれいな音色だったんだって。口琴を吹くとまたきれいな音色だったんだって。ラフの女は心がとろけた。漢人が「ほらあげる」と言うので、取りに行ったそう。ひとり取りに行って、罟にかかって死んだ。ふたり行って罟にかかって死んだ。3人行って罟にかかって死んだ。7人みんな死んじゃったそう。漢人が出てきた。漢人が出てきて弩の留め金を奪った。ポウルの家を、ムメミメをね、町をな、いまの郡の町のように、それを、留め金籠9つ分と引き金箕9つ分とを組み立ててラフを追い撃ちしたそう。ラフを追い撃ちしたんでラフの国はなくなった。な

い。得られない。逃げてしまった。漢人が取っちゃまった、この国を。そういう訳でこんにちラフの国はない。ラフの国がない。国がないので、瓢箪笙、あれは年中行事のラフの正月に一年一回懐かしむために、瓢箪笙をラフは作ったのだそう。ラフの瓢箪笙。ラフの国はない。そう、瓢箪笙を吹いて正月の踊りを踊る。それは、ラフが一年に一回懐かしむ機会に使うもの。年中行事だ。瓢箪笙を吹くのだそう。そして、現在ラフが瓢箪笙を吹くと、どう聞こえるかという、ムメミメ、ムメミメとばかり聞こえるのだそう。ムメミメが懐かしいのだそう。ムメミメを懐かしんで。ムメミメはラフの国、ラフの国だ。ムメミメ。そして、口琴の方を吹くと、どう吹くかという、ラフは「ジュエレ」cu'e leh (考え足らずで)、考え足らずでと言うのだそう。考え足らずで、昔考え足らずだったんで。口琴を吹くと「ジュエレ」(考え足らずで)と言うのだ、現在。……「ジュエヴェ」cu'e ve (考え足らず)なので、今では口琴を吹くと「ジュエレ、ジュエレ」と聞こえるのはそこから来ているのだ。そういう訳でラフの国はない。そういう訳で「森」(hch pui' hk'aw) にばかり住んでいる、ラフってやつは。グシャ (G'ui, sha, 神) は彼に教えた。グシャは彼に教えたそう。「ラフはまるで栄えてない。今日ラフは他人の奴隷になってしまった。さあラフも文字／本を取りにこい」。シャン人にも授けた。シャンは棕櫚の葉をもってきたので、棕櫚の葉に書いてあげた。どの民族にもあげた。白人に文字／本をあげたのは、白米を搗いて、白米を搗いたのもって来たのだそう。白人は。それでそれに書いてあげた。ラフは何ももたなかった。ラフは餅を搗いて食べながらやってきた。食べようとやってきたところ文字／本をくれるというのを聞いてもらいにきた。どこに書くのか、グシャのくれる文字／本を。ない、書くところが。「ここに」、手のひらに書いてと言ったのだそう。「だめだ」と言われたのだそう。「[そんなところに書いたのでは] なくなっ

てしまう」と言われたので、それなら餅に書けばいいと言ったのだそうだ。餅をもってきていると言ったのだそうだ、餅を。餅に書いて持ち帰るといので、餅の上にラフには書いてあげたのだそうだ、グシャは。「聖なる文字／本」(li. hpu htan^ˈ hpu) を書いてあげたのだそうだ。書いてくれたんだけど、家に帰ろうとして家まで着かない。お腹が空いたんだそう。炙って齧ってしまった。心で思い出そうと言って。心で思い出そうと言って、炙って齧ってしまったんだそう。ラフは。そういう訳でラフってやつは、赤ラフでも、何ラフでも、「思い出そう、心で」と言って、祈りの祈詞 (bon ku. bon k'a) も心で思い出してばかりいたそう。ラフはこうなってしまった。それではグシャも気に入らない。グシャも不満なので「ラフは」再び祝福 (bon) を求めた。祝福を求めている時、アテフジュ (A^ˈ Te Fu. Cu^ˈ) というやつが現れた。このアテフジュが祝福を求めるといったら、毎日毎日祝福を求めるといって、毎年毎年祝福を求めた。[木を]削って杖を作って求めたそう。でも得られない。捨ててまた一本削って作って求めたが、祝福は得られず、捨てた、杖を。アテフジュは削った杖を集めて結んでみた。結んでみると9束あったそう。9束。……でも祝福は見つからない。大丈夫。グシャは再びくれた、彼に。そしてアテフジュは「人々に」言った。「祝福というものは求めても得られない。いつかグシャが我々にくださるものだ。あの南の国の地の果ての白い雲に現れ、我々が国に入ると、聖なる文字／本をもたらしだそうとさ。聖なる文字／本は地の果ての白い雲から駆けてくる。グシャの権威 (kan^ˈ pa^ˈ)、飛行機と言うよね、飛行機。……そう、飛行機。それがやって来ると、白や黒の雲から我らのところに来ると、我々に文字／本をくれるということだ。グシャの 때가満ちるんだそう。その時になれば、グシャの顔や目を見ることが出来るだろうということだ。グシャの声も聞くことが出来るだろうということだ。」そしてアテフジュはそう言って、「この世に、遮る山があっても山から山へ飛び、川が遮ろうと川から川へ飛び、橋を掛け、車を駆り、聖なる文字／本を抱え、道路を作り、やって来るとさ。その日が来たら、昔アテフジュのあの杖9束を集めて束にして「ペコシャコ」(peh^ˈ hk^ˈaw^ˈ sha hk^ˈaw^ˈ) にし、[火を] 点して待てとさ。その日に聖なる文字／本が

届いたらそれと交換せよ」とさ。いまや成就した。いまや現実になった。ラフの国はないが、実現した。そして今日ラフには、グシャの 때가満ちた。「グシャの教えに従い、グシャの 때가満ちてグシャの教えに従えば、祝福を求めれば、ラフの国も油柑の葉ほど [の小さなものが] あれば、……そのくらいの小さなものができる」と言うのだ。先祖の言葉だね、ラフの言い伝え、アテフジュの教えがそう教えているんだ。ラフの、ラフの国はない。だからラフにグシャの 때가満ちるその日、ラフの国を、文字 (li. meh^ˈ htan^ˈ meh^ˈ) を、グシャの教えに従えば、知恵 (cu^ˈ yi. ma. yi.) を求めれば、ラフの国も一日の明け方ぐらいの間は統治できよう。一朝の間あるとさ、ラフの国、油柑の葉ぐらいが。ラフが「王」jaw^ˈ maw^ˈ できるのも一朝の間ぐらいあるということだ。その日に一朝の間あるとさ。そしてラフが国を得る日、油柑ぐらいの日は、一日足らずあるという。ラフの国を得る、ラフが王となる。それをいまグシャの 때가満ちると、だんだんだんだんと近づいてきているんだ。(筆者;「いつ来るんだい」)。やってくるさ。少しづつやってきているんだよ。2000年が満ちたらやって来るんだらうかねえ。(1997年7月19日に北タイのキリスト教徒調査村で録音した物語)

この口承の物語に表れているとおり、キリスト教徒ラフ族のあいだで「アテフジュ A^ˈ Teh Fu. Cu^ˈ」(「アシャフジュ A^ˈ Sha Fu. Cu^ˈ」とも呼ばれる) は、ラフ族のかつての偉大な指導者であり、民族へキリスト教がもたらされることを預言した人物とされている。民族が苦境にあった時代にアテフジュは、やがて真の神についての教えがラフ族のもとにもたらされるだろうという預言を残したが、その教え通りにラフ族のところへキリスト教宣教師がやって来た結果、我々はキリスト教徒となったと語られるのである。

筆者は1996～1997年のフィールドワークの成果(Nishimoto 2000)において、この伝承を神話として、アテフジュをラフ族の文化英雄として扱ったが、片岡樹(1998, 2007等)やWalker(2003)などの研究が、「アテフジュ」と呼ばれる指導者についての史実を明らかにしてきた。「アシャフジュ」は18世紀雲南のラフ族における、仏教を基盤とした宗教・政治的な指導者であった。

現在、中国のラフ族の大部分は雲南省最南西部の瀾

滄県と孟連県のミャンマーとの国境に近い瀾滄江西岸に居住している。しかし、清代半ばにはラフ族は瀾滄江西岸地域（現在の中国雲南省臨滄県）に多く居住していた一方、より雲南中央部に近い瀾滄江東岸地域（現在の景東、鎮沅、景谷、普洱の各県）にも多く住んでいた。これらのラフ族の多くは、政治的には雲南地方のシャン族領主の支配下であり（《拉祜族簡史》編写組 1986：29-34）、伝統的な経済構造においては、ミャンマー・シャン州と深い関係をもっていた雲南南部の交易地域に属していた。

雲南のラフ族には 18 世紀初めの雍正年間（1722-1735 年）に大理鷄足山から来た僧侶（《拉祜族簡史》編写組（1986：35）には「楊徳淵」という名が挙げられている）によって大乘仏教が伝えられた。鷄足山系の仏教はラフ族の従来の信仰体系と結合し、双江、瀾滄地域のラフ族居住区において自律的な宗教政治的中心地を生むことになった。この独特の政教合一の統治制度においては、各村には仏寺（「佛房」）が建てられ、「佛主」によって管理された。その上に数段階の位階者において、「大佛爺」等と呼ばれる神秘的な力を有した僧でもある最高政治指導者が傘下の諸村落を統治するヒエラルキーを形成していた。

18 世紀から 20 世紀初頭にかけての雲南におけるラフ族の歴史は、拡大する清朝による直接統治に対する反乱と敗北の繰り返しであったが、これらの反乱において仏教が人々を動員する上で大きな役割を果たした。中国による地方制圧は辺境地帯への軍事遠征をも含み、特に 1886 年にイギリス植民勢力が上ミャンマーを併合した後は、国境地帯の支配権確保のためにさらに激しさを増した。ラフ族によって何度も起こされた反乱は、最終的には全て鎮圧され、清代末には仏教を土台にしたラフ族の自律的な宗教政治統合は解体へと向かった（《拉祜族簡史》編写組編 1986:35-36、《民族問題五種叢書》雲南省編輯委員会編 1982：52-56、72、雲南省瀾滄拉祜族自治県志編纂委員会編 1996：152-153）。反乱失敗の度にラフ族の一部は中国政府の支配下に入るとともに、他の一部は中央による支配の及ばない辺境である雲南南部や、ミャンマー、ラオスへと逃れるというパターンが繰り返された。

18 世紀雲南ラフ族の仏教指導者を中心とした自律的な宗教政治制度下の部落のうち特に有力であった壩卡、南柵、東朗、東主、邦蔵（壩卡は現在の双江県にあり、残りの 4 つは現在の瀾滄県にある）は「五佛之地」と呼ばれる中心地で、戦時においては強固な戦争

集落となった。

しかし「五佛之地」に数えられる集落名については、文献によってまちまちである。雲南省瀾滄拉祜族自治県志編纂委員会編（1996：152）は「“五佛”之地」を南柵、文東、東朗、竹塘、拉巴としている一方、《民族問題五種叢書》雲南省編輯委員会編（1982：72）は、「“五佛”之地」は南柵を中心とし、南柵、東朗、拉巴、竹塘（これらは現在の瀾滄県在）、西盟（現在の西盟県在）だとしている。しかしこれは単なる文献間の記述の不一致であるよりも、ラフ族の「佛」が仏像ではなく影響力を持つ仏教指導者を指していたことから、戦乱の進展によって「“五佛”の地」が移動していたためと考えられる（片岡樹氏による教示）。

筆者の雲南での「跨境民族と宗教変容」研究は、この「佛」信仰について、「五佛之地」として文献に記載された集落のうち、場所が特定できるところをできるだけ訪ね、かつての佛房跡を見るときともに、当該集落での現在の「佛」に関する信仰と祭祀のあり方を明らかにすることを目的とした。本書の中国雲南はその報告であり、フィールドワークで得られたデータをできるだけそのままの形で報告することを目指している。

各地の「佛」信仰・祭祀については後の各章にゆずるが、まず「佛」一般について得られたデータを本章の最後に提示しておく。

資料 1-1(インタビュー) 阿永村在住のラフ族男性(50 歳代?)、瀾滄県東回郷阿永村にて、2012 年 03 月 07 日

<佛><李光華>

この村に「佛」fū- はいない。この辺に「佛」はいない。……（瀾滄県長を 30 年以上つとめた）李光華は「佛祖」fū- cũ だ。（西盟の勐卡佛の管理者の末裔だという意味―注）

資料 1-2 (インタビュー) 阿永村の祭司（「焼香者」sha tũ pa-）（男性、蛇歳生れ 47 歳）、瀾滄県東回郷阿永村にて、2012 年 03 月 08 日

<佛><李光華>

李光華は「佛祖」fū- cũ だ。「佛祖」とは「焼香者」sha tũ pa- のことだ。（中国のラフ族の多くは線香を燃やすことを宗教的な実践の中心とする。「焼香者」とは祭司の呼び名のひとつである―注）

資料 1-3(インタビュー) 瀾滄県民族宗教事務局局長・董氏 (男性、50 歳代?)、瀾滄県勐朗鎮のラフ料理レストランにて、2012 年 08 月 03 日

<文化振興>

ラフ族の村で作られている「焼香所」 sha tũ kuĩ などは、村人が自分で作っているもので、民宗局 (民族宗教事務局) は、お金を出していない。

<佛>

昔、「安康」 Ã Hkã や「南柵」 Na Cã には「佛」 fũ がいて「フイエ」 fũ yeh̃ (佛房) があった。一番大きなものは、南柵のものだった。

2. 双江県

双江県には2012年04月24～26日と6月04～05日の二度訪問した。一度目は「双江県拉祜族研究会」の設立式に参加するため、そこで多くの県の幹部たちと話すことができ、自分で付近のキリスト教徒ラフ族村と傣族寺院を訪ねることができたが、かつての佛^{fu}の居地や佛祭祀を行なう村に行くことは出来なかった。二度目の訪問では、県幹部にかつての佛の居地に連れて行ってくれるよう要請したが、許可が出なかった。

『双江拉祜族佤族布朗族傣族自治县志』(1995: 853-854)などの文献によると、現在の双江県一帯は、ラフ族仏教が勢力をほこった場所である。特に大きな「佛房」があった場所として、忙糯、滾崗、細些、壩卡、富王の名が挙げられている。

また双江県の幹部たちの話や文献などから、瀾滄県と違って、双江ではラフ族の清朝に対する闘争を詳しく語る傾向がある(臨滄地区民族宗教事務局編 2003: 81、191-194、264-265、羅滿英 2010: 48-63)。文献の多くでは、ラフ族の闘争は、当地の領主の人民への搾取に対する反抗と意味づけられている。

資料 2-1 (インタビュー) 双江県勐勐鎮の路上で話したラフ族青年(男性、10代後半?) 2012年04月24日

<佛><現在の祭祀>

壩卡(中国語の名称は「双嗎卡」あるいは「双勐卡」という)にはフイエ^{fu. yeh.}(佛房)がある。今もさかんに祭祀活動をおこなっている。

資料 2-2 (インタビュー) いずれも双江県幹部の李A(ラフ族、女性、50歳代?)、李B(ラフ族、男性、50歳代?)、文姓幹部(ラフ族、男性、50歳代?) 2012年04月24日

<佛><毛沢東>

文姓幹部が「グシャは「毛主席」になった、グシャと「毛主席」は同一人物だとラフの「老百姓」は言う」と語った。李Aと李Bはおかしそうに笑った。

資料 2-3 (インタビュー) 双江県幹部の李A(ラフ族、女性、50歳代?) 2012年04月24日

<佛><漢族との戦争><歴史><民族の分裂>

ラフ族反抗の指導者は「鉄大人」(この漢字は李Aに書いて教えてもらったものであるが、羅滿英『双江拉祜族文化風韻』2010年、48ページでは「鉄大人」と表記されている一注)。ラフはヘパ^{Heh⁻ Pa.}(漢族、ここでは清朝政府のこと一注)と戦って、負けた。この人物がラフ族のジョモ^{jaw[˘] maw[˘]}(王、主)だった。

双江はラフ族の本当の起源^{aw. hkui⁻ pui}の地だ。ラフナ^{La[˘] Hu. Na[˘]}(黒ラフ族)もいるしラフシ^{La[˘] Hu. Shi}(黄ラフ族)もいる。ムメミメ^{Mvuh[˘] Meh[˘] Mi. Meh[˘]}(ラフ族の故地として語られる場所一注)とは、ここだ。

ムメミメに住んでいた時、ラフ族はまだ分れていなかった。ヘパ^{Heh⁻ Pa.}(漢族)に敗れて、南下して、川を挟んで東西別々の方向へと去っていった(東側に去った集団が黄ラフ族となり、西側に去った集団が黒ラフ族となったと含意されている一注)。

資料 2-4 (インタビュー) 双江県幹部の李A(ラフ族、女性、50歳代?) 2012年04月24日

<佛><歴史>

「ムムン」^{Meun[˘] Meun[˘]}とは現在の「双江」で、「ムメミメ」^{Mvuh[˘] Meh[˘] Mi. Meh[˘]}は「臨滄」だ。

双江県では、漢族との戦争が、瀾滄よりもはっきりと語られる

資料 2-5 (インタビュー) 何A(ラフ族の医者、女性、30歳代?)、李C(ラフ族の牧師、男性、30歳代?)

2012年04月26日

<日本><漢族との戦争>

何A; ラフと「ズブ」(日本人)は、親戚同士^{aw. vi⁻ aw. nyi}だ。「演变」だ。ラフと「ズブ」は、かつて割腹自殺する風習があったところが似ている。

李C; 昔のラフも切腹していた。

何A; 昔ヘパ^{Heh⁻ Pa.}(漢族)と戦って勝てず、切腹していた。

資料 2-6 (インタビュー) 双江県幹部の李 A (ラフ族、女性、50 歳代?) 2012 年 06 月 04 日

<佛>

かつての佛 fu. の拠点であった「壩卡」とは、(インターネットの地図にある) 大文郷の「壩卡」ではなく、(双江の北にあり、現在茶の産地として有名な)「勐庫」のことだろう。

資料 2-7 (観察) 双江バスターミナルの地図より
2012 年 06 月 05 日

<佛>

前日の李 A の話を裏付けるものとして、双江のバスターミナルに掲げられた双江県地図には、「勐庫」(勐庫)の少し北に「坝卡」(壩卡)の地名が見える。

資料 2-8 (文献) 羅満英 (2010 : 50)

<佛><毛沢東>

人民を保護するためにグシャによって派遣された「天神」が、「裸足で、全身から光を放ち、あごに黒茶色のほくろのある長老だった」と描かれている。あごのほくろは、毛沢東にもあり、天神と毛沢東との繋がりを示唆しているように見える。西盟県勐卡三佛祖山の祭司が、毛沢東はグシャの転生だと述べて、その証左として、両者ともにあごにほくろがあると述べたことも参照(本書「15. 勐卡佛」の章を参照のこと)。

羅満英『双江拉祜族文化風韻』(2010)に記された話は、双江県各所のラフ族長老が語ったものを合わせて編集したのだという(李 A による教示、2012 年 06 月 04 日)。

資料 2-9 (文献) 羅満英 (2010 : 58、60)

<伝承><漢族との戦争>

ラフ族と漢族とが戦いになり、漢族はラフ族をなかなか打ち負かすことができなかった。漢族官軍は、ラフ族女性が刺繍で衣服やショルダーバッグを作るのが好きなのを知って、四川から色とりどりのきれいな糸を持ってきて、ラフ族の男たちが狩猟に出ている留守に、ラフ族の女たちのところへ売りに行った。糸の代金としてお金は取らず、代わりにラフ族の弩の部品をもらった。そのためにラフ族の弩は重要な部品を欠くことになった。部品は麻袋七袋分の多さにのぼり、官軍はそれらを馬で運んだほどだった。

後に、四川の「陸大人」が指揮する漢族官軍が攻めてきたとき、ラフ族の弩は使い物にならず、ラフは敗

北した。

以上の伝承が記されている。タイなどで聞かれる伝承においては、刺繍糸の代わりに口琴を欲しがったラフ族の女たちが、弩の部品を漢族に渡してしまうとになっていることが多い。しかし細部の違いにかかわらず、伝承の基本形は同じである。

資料 2-10 (文献) 羅満英 (2010 : 61)

<佛><超自然的な力>

ラフ族の指導者の一人であった「楊和尚」が漢族官軍に殺されたときに起こった不思議な出来事について記されている。

資料 2-11 (文献) 羅満英 (2010 : 61-62)

<佛><漢族との戦争><移動><タイ>

漢族との戦いに敗れたラフ族指導者と一行は、最後には「泰國」にたどり着いたといわれていると記されている。



写真 2-1 双江県ラフ族研究会の設立会議 2012 年 04 月 25 日

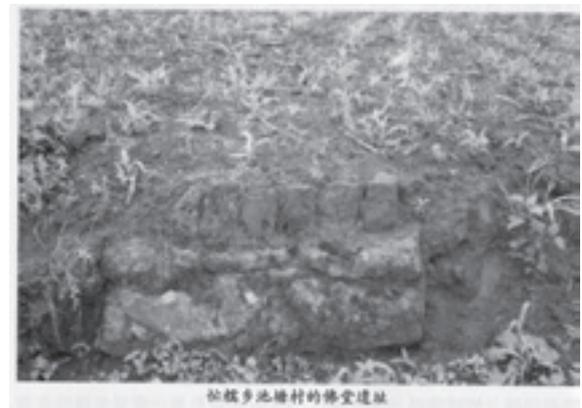


写真 2-2 双江県忙糯郷池塘村の佛堂遺址 『双江拉祜族文化風韻』(2010 : 54) より



写真 2-3 双江县忙糯乡池塘村的佛堂遗址の「石香炉」『双江拉祜族文化風韻』(2010: 61) より



写真 2-4 双江县忙糯乡池塘村的「龙潭」『双江拉祜族文化風韻』(2010: 51) より

3. 南柵佛

瀾滄県で「佛」*fu* について話を聞くと、「南柵」が最大の佛で、そこから各所に信仰が広まった中心地だとされることがしばしばあった。思茅行署民族事務委員会編『思茅拉祜族传统文化調査』（1993）などの文献も、このようにとらえ方をしている。実際に南柵がラフ族に仏教が伝わった最初の場所かどうかは分からないが、かつて大きな勢力を誇った場所だということは間違いない。

私は2012年4月20～21日に南柵村佛房寨および南柵大寨を訪ねた。4月20日の朝に瀾滄のホテルと出るとき、フロントの若い女性に安康へ行き方を聞いてみた。女性は、行ったことはないそうで、逆に私は、何をしに行くのだと聞き返された。「拜佛」（佛に参りに行く）と答えると、「佛があるのは聞いたことがある」と女性は答えた。

女性の言った「佛」が南柵佛のことだとは限らないが、半年弱の調査中、他所で「南柵」や「安康」の佛について聞くと、その場所になじみのない人でも、その「佛」については聞いたことがあるという人が意外に多くいた。

18時40分ぐらいにようやく佛房寨に到着した。腕時計の高度計で計ると、海拔高度は1875メートルだった。



写真 3-1 南柵佛房寨 2012年04月20日



写真 3-2 南柵佛房寨 2012年04月20日



写真 3-3 南柵佛房寨の生活 2012年04月20日

資料 3-1（観察とインタビュー） 森林保護担当の村幹部（南柵佛房寨在住、男性、40歳代？）、青年（南柵佛房寨在住、男性、18歳）の話 2012年04月20日
 <現在の祭祀>

（村の上方の祭祀場で行なわれる共同体の守護祭祀について）飯は供えるが、建物はない（*yeh. maˊ caw.*、祠は作られていないということ一注）。（木の下が祭祀場所になっていて）木の下に供えるのだ。

正月には、肉を食べる。豚を食べる。上方（祭祀場のある場所一注）では食べない。上方では豚を屠ったりしない（*va. maˊ daw.*、祭祀場では殺生を行わず、また肉を持ち込まないということ一注）。上方には豆汁（*naw. gˊui.*）のみ供える。飯と豆汁を供える。線香



写真 3-4 南柵佛房寨の森林保護担当の幹部の家の「焼香所」
2012年04月20日



写真 3-5 南柵佛房寨の森林保護担当の幹部の家の「焼香所」
に供えられたご飯と水 2012年04月20日



写真 3-6 南柵佛房寨の森林保護担当の幹部の家の「焼香所」
の焼香筒。他家と異なり3つ設けられている。
2012年04月20日

と蠟燭を点す。

(月々の) 線香／蠟燭を点す日は決まっていない。
あまり点さない。本来は虎日 (la^h nyi) だけでも。

<現在の祭祀><ワ族><キリスト教>

焼香場 (sha tu^h kui.) は各家にある。虎日に限らず、

病気の人がいると(線香を)点す。……虎日には点
蠟燭焼香して、家に留まり、畑仕事はしない (a^h hk^haw
chch^h ve, heh ma^h te)。○○(不明)はワ族 (A^h Va.) の
ようにしている。ワ族は一週間に一度休む(周辺のワ
族にはキリスト教徒が多いため、「ワ族」という言い
方で、クリスチャンを指している一注)。彼はラフだ
けど、ワのようにしている。ラフならば虎日ごとに点
蠟燭焼香して過ごしている。(家族に)病人がいれば家
長 (yeh. sheh. hpa^h) が(線香を)点す (tu^h ve)。モー
パ (maw^h pa.)、呪医はいない。あまりいない。老人
(chaw maw^h) (のモーパ) がない。若者 (ya^h neh.)
のモーパでないといない。(若者のモーパは)呪文 (aw.
hkaw^h) を少し唱えられるだけで、それで(儀礼を) やっ
てしまう(本来、儀礼には複雑で長い呪文が必要であ
る一注)。

<現在の祭祀>

(森林担当の村幹部の家の「焼香所」を見せてもらう)

3つずつ線香または蠟燭を点す場所を作る。他家で
はひとつだけだ。下方で線香を点し、上方で蠟燭を点
す。ここは(と言いながら「焼香所」の台を指す一注)
ご飯 (aw.) と水 (i^h ka^h) を供える。

<現在の祭祀>

カウー(村の上方にある村の守護祭壇一注)を置く
こと (hk^ha^h u^h teh ve) は「ンゴー」ngaw. と呼ぶ。二月
に行なう。

<現在の祭祀><佛>

正月に上方(の祭壇)に登る ta^h-e ve することを「カ
ジシュ」と言う。フイエ fu. yeh. の下の方(に登る)。
……一番上の祭祀場が「カシュ hk^ha^h sheu.」(村神)、
そのしたが「ホイエ haw^h yeh.」、その下が「パイェ
hpa. yeh.」だ。3つある。

祭祀場の管理者 guan pa. はいない、今は。昔何人い
たかは知らない。管理者がいなくなって久しい。何年
になるか分からない。

<佛><文字>

(18歳の青年に村の上方にある祭祀場に連れて行って
もらう)

(途中の道の脇に露出している遺物を指して)昔ホ
イエの屋根にしていたものだ。すごく古いものだ。パ
イエとホイエの屋根にしていた。内側には「ズメ」
tzuch^h meh. (字) が書かれている。漢語 Heh^h Pa. li. だ。
昔グシャ G^hui. sha が作ったものだろう。

<佛><文化振興><漢族>

(遺物は)たくさんある。古いものだ。道を掘って



写真 3-7 南柵佛房寨の村内の道の脇に露出している遺物
2012年04月20日



写真 3-8 南柵佛房寨の村内の道の脇に露出している遺物
2012年04月20日



写真 3-9 村から林に入るところにある祭祀場パイェ
2012年04月20日



写真 3-10 村から林に入るところにある祭祀場パイェの焼
香所 2012年04月20日

いて出てきた。へパ（漢族）の「ジョモ jaw^ˇ maw^ˇ」（お偉いさんたち、県からやって来た人たちが、先年 a-nyí hk^ˈaw, 調査にやってきた。本を書くというので、昔、建物 yeh, を作ったものなのだろう。俺たちは若者 ya^ˈ neh, だから知らないけど。ずっと昔のものだ。昔パイェがあったのだ。

<佛>

ここにパイェがあった。これが柱の跡だ。あそこで点蠟焼香 peh^ˈ tu^ˈ sha tu^ˈ する。

これがパイェだ。2カ所作ってある。点蠟焼香する。向こうのホイェの方に行こう。こっちがパイェで、向こうがホイェだ。

<佛>

向こうのホイェは大きかったそうだ。30、40、50階建てだった。石で建物 yeh, を作っていた。木もあった。柱などの跡がある。

（こういうことは）チョモ chaw maw^ˈ（老人）が教え

てくれた。チョモはいない、今は。死んでしまった。

向こうに○○（不明）がある。写真を撮りに行こう。○○がある。「唱歌」（歌を歌う）ところが。昔も「唱歌」していたのだ（宗教祭祀の際に言葉を唱えながら踊っていた広場について述べている一注）。

<佛>

これがホイェの柱の跡。ホイェの土台だ。柱の跡だ。

<佛><現在の祭祀><禁忌>

（この場所は）今も使っている。ここで点蠟焼香している。（筆者が近づこうとすると）ここは写真を撮ってはいけない。蠟燭をくっつけてある。柱にしてある。石で立派に作ってある。「ウシュ」（意味不明）がある。

<佛><池>

池 (g^ˈui, po, i^ˈ ka^ˈ g^ˈui, po) がある。昔（ここで）何をしてたか知らない。

<佛>

これは昔の○○（不明）。3カ所に祭壇がある。昔はここに犬の像、石の像があった。池の中に落ちてし



写真 3-11 村から林に入るところにある祭祀場パイェの焼香所。石に模様が彫られている。 2012年04月20日



写真 3-12 柱の礎石 2012年04月20日



写真 3-13 ホイエの跡 2012年04月20日



写真 3-14 2つ並べて作られたホイエの焼香所 2012年04月20日



写真 3-15 ホイエの焼香所 2012年04月20日



写真 3-16 ホイエの跡。石版に模様が見える。近づいて写真を撮ることは禁じられた。 2012年04月20日

まって、今は見えない。…… グシャが作ったものだろう。一体だけあった。

<佛><現在の祭祀><禁忌>

ここでは線香のみ点す（蠟燭は点さない一注）。蠟

燭を点すのは上の方だ。女は入ってはいけない。

戒日 shin`nyi は虎日だ。戒日にも精白をしてもいいと思う（ラフ族の集団によっては、米の精白をしない



写真 3-17 ホイエの柱の礎石 2012年04月20日



写真 3-18 ホイエの柱の礎石 2012年04月20日



写真 3-19 南柵佛房寨の佛房跡にある池 2012年04月20日



写真 3-20 南柵佛房寨の佛房跡にある池。池の縁に焼香する場所がある。 2012年04月20日



写真 3-21 南柵佛房寨の佛房跡にある池。池の縁に焼香する場所がある。 2012年04月20日



写真 3-22 南柵佛房寨の佛房跡にある池。池の縁に祭壇跡のような石組みが見える。 2012年04月20日

ことが戒日の戒めのひとつとなっていることがある一注)。チョモ(老人)に聞くべきだ。俺は知らない。

<佛><文字>

..とても大きな石があった。とても長い。ズメ(字)

もあったそうだ。

<佛><禁忌>

先年、俺たちが道を作ろうとしたが、出来なかった。道を掘ろうとすると、空が暗くなり、雷が鳴り始



写真 3-23 グシャが植えたという木。木が大きくなったら戻ってくるとグシャが言い残したと伝えられる。 2012年04月20日

めた。掘ることが出来なかった。(天候の急変が、超自然的な存在による禁止のしるしと考えられたのである一注)。

<佛><伝承><大理>

チョモ(老人)によると、大理から来た人が、建物 yeh. を作った。焼香する建物 yeh. を作ったそう。…… グシャがズメ(字)を書いて、漢語 Hch⁻ Pa-hkaw⁻ は「イジュネ」と言うけれど、「信」(手紙)を書いて、代理の人たちのところに送って、招いたのだ。チョモが知っている。

資料 3-2 (インタビュー) 森林保護担当の村幹部(南柵佛房寨在住、男性、40歳代?)、青年(南柵佛房寨在住、男性、18歳)の話 2012年04月20日

<現在の祭祀>

(この村には)カウー hk'a⁻ u⁻ (村の上方の祭祀場)はない。サーシュ sa⁻ sheu. (山神)はずっと上の方にある。

<佛><伝承><予言>

(グシャの木 G'ui, sha suh⁻ cch. というのは)大木が3~4本立っている。グシャは植えた後、去った。木が大きくなったら戻ってくるとグシャが言ったという。

資料 3-3 (インタビュー) 森林保護担当の村幹部(南柵佛房寨在住、男性、40歳代?)、青年(南柵佛房寨在住、男性、18歳)の話 2012年04月20日

<民族><ワ族><キリスト教>

ワ族にもボイエ (bon yeh., 教会)がある。彼らはボヤ bon ya⁻ (キリスト教徒)だ。

ラバー(拉巴)村はボヤ(キリスト教徒)だ(拉巴という地名は瀾滄県に多く存在するが、キリスト教徒だと言っているところから木戛郷拉巴村のことを指すと考えられる一注)。

<佛>

(筆者;ここに住んでいた「パ」 hpa. (僧侶)はアシャフジュ A⁻ Sha Fu. Cu⁻ か?)知らない。名前は知らない。俺は年少者だから知らない。

パイエ hpa. yeh. (佛房)には Ca. Cu⁻ hpa. (僧のジャジュ)が住んでいた。「大仏爺」だ。妻はなかったが、後で娶った。ヘマク(漢族女)を娶った。娘が1人いた。

(南柵)大寨には Ca. La⁻ Hk⁻ e という老人 chaw maw⁻ がいる。80歳に近いだろう。(老人なので昔のことをよく知っているだろうという意味一注)。

ジャジュ僧 Ca. Cu⁻ hpa. は「大仏爺」で、人を教える者 shu ma. pa. だった。李ジャジュという名前だ。僧 hpa. で、人を教えていた shu ma. ve. 他には、ジャコという僧 Ca. K'o hpa., 李ジャコがいた。…… 死の日のルーシー(漢語だというのが意味不明一注)、字(ズメ)を書く者のオリ aw. li⁻ (礼)を用いて yu. (意味不明)……。王 shu jaw⁻ maw⁻ のようなもの。ルーシーとは漢語だ。

<佛><時代変化><文化大革命><禁忌>

「文化大革命」(ラフ語でも「ウェンファーダグミ」と漢語借用で用いる一注)の前には、パイエはまだ壊されていなかった。「文化大革命」の時に壊された。……。

…… 大きな銅鑼 bo lo k'o. があつた。銅鑼は「文化大革命」の時にヘパが……して、なくなった。…… チャーマ(鉦)もあつた。(読経するときにも)ちゃんと言葉 aw. hkaw⁻ を唱えてから鳴らさないと、お腹が痛くなった。…… 女 aw. ma がひとつ男 aw. pa. がひとつ(ペアで)あつた。今もある「社」にある。

建物 yeh. は石で作られていた。…… (石も)どこかに残っているだろう。

「文化大革命」の時に「楊老師」(という人)がやって来た。ラフ語も漢語も知っている人だ。…… 牛の

像や蛇の像……など拝むなど命じた（文革中に民間信仰は「牛鬼邪神」とされ、禁止・弾圧された一注）。

資料 3-4 (インタビュー) 森林保護担当の村幹部（南柵佛房寨在住、男性、40 歳代？）ほか 2012 年 04 月 20 日

<佛><文化振興>

「大寨」（南柵大寨）にも、グシャの遺物 G'ui. sha maw が保管されている。「県長」らもやってきた。建物をひとつ建ててべきだ yeh. te' ma te と言われた。

「県長」が 50 万元（5 万元か？初めは婉曲に「5 元」と表現した）くれたが、建物 yeh. は出来ない（くれると言ったがくれずに、まだ建物は作れずにいるという意味か一注）。

資料 3-5 (インタビュー) 老人（南柵佛房寨在住、男性、60~70 歳代）ほか 2012 年 04 月 20 日

<佛>

李ジャジュ Ca. Cu' の後には僧 hpa. として李ジャコ Ca. K'o がいた。この老人の「阿叔」（父の弟）にあたる。李ジャジュと李ジャコは一緒に僧でいた時期もある。ジャコには妻子があった。子供は 3 人いた。僧でいる時から妻子はいたが、一緒には住めなかった。ジャコは 1984 年に亡くなった。

僧 hpa. は上（佛房）にいて、妻子たちは下（村の中）に住んでいた。

資料 3-6 (インタビュー) 老人（南柵佛房寨在住、男性、60~70 歳代）ほか 2012 年 04 月 20 日

<佛><時代変化><文化大革命>

最初にホイエ haw' yeh. が壊されて、パイエ hpa. yeh. のみになった。ジャジュ Ca. Cu'、ジャコ Ca. K'o の頃には、パイエだけしかなかった。

<佛><文字>

漢語 Heh' Pa. li. の本があり、僧 hpa. はそれを読んでいた。

他の村にはフイエ fu. yeh.（佛房という意味で、パイエと同じ物を指すと考えられる一注）はない。（佛の地として）最初の、本当のものはここ（南柵佛房寨）のものだ。

<佛><文化振興>

李グアンシー（李光華の聞き間違いか。李光華は 30 年以上瀾滄県長をつとめた故人一注）も、県長（調査当時に瀾滄県長であった石春雲のこと一注）の前に、

ここにやって来た。（佛房を）新築してやると言ったが、いまだ新築されないままだ。

資料 3-7 (インタビュー) 老人（南柵佛房寨在住、女性、60~70 歳代）ほか 2012 年 04 月 20 日

<佛><伝承>

昔、ジャジュ Ca. Cu' とジャコ Ca. K'o の前に、パモパ hpa. maw' pa. という僧 hpa. がいた。（パモパには）妻はなかったと思う。「ナタマ」という女が、家の屋根を葺いている yeh. beh ve 時に、火事をおこしてしまった。

<佛>

ジャワジャヌ Ca. Va. Ca. Nu'（という男）が、僧 hpa. の墓を、毎年毎年、三月の「清明」の時に掃除していた（中国のラフ族は旧暦二月に墓掃除をする一方、漢族は旧暦三月に行なう。ここで「三月」という「清明」は、ラフ族の墓掃除の時期か、漢族の墓掃除の時期か不明である一注）。

資料 3-8 (インタビュー) 老人（南柵佛房寨在住、男性、60~70 歳代）ほか 2012 年 04 月 20 日

<現在の祭祀><禁忌>

グシャは肉を食べない。祭祀の際に肉を食べるのは人間だけ。グシャには肉は捧げない。

資料 3-9 (インタビュー) 老人（南柵佛房寨在住、女性、60~70 歳代）ほか 2012 年 04 月 20 日

<佛><禁忌>

タースグ、ジャガブ Ca. G'a' Hpeu. という名の僧 hpa. がいた（?）。女に手を出して ya' mi' g'eu' leh 死んでしまった sub-e peu.（話の詳細は不明だが、僧に課せられた禁欲を破って、そのために罰が当たって死んでしまったという意味と思われる一注）。

<佛>

「パルーパ」という僧 hpa. もいた。傣族の僧のような黄衣でなく、長い衣を着ていた。ジャジュ Ca. Cu'、ジャコ Ca. K'o の前の僧 hpa. である。

ジャヌパ Ca. Nu' hpa. という僧 hpa. もいた。

ジャガブ Ca. G'a' Hpeu. という僧 hpa. もいた。

資料 3-10 (インタビュー) 老人（南柵佛房寨在住、男性、60~70 歳代）ほか 2012 年 04 月 20 日

<佛><伝承>

ジャコ Ca. K'o は「除夕」（中国の大晦日一注）の晩

に語った。その後は、一年間何も語らなかった。人々を集めて語った。話が終わるまで、黙って聞いていなければならなかった。

資料 3-11 (インタビュー) 老人 (南柵佛房寨在住、男性、60~70 歳代) ほか 2012 年 04 月 20 日

<佛><毛沢東>

(南柵にいたグシャも毛沢東も)「ペナス」*hpeh˥ na˥ shi˥* (ほくろ) が 2 人ともに、口の下にある。グシャはのちに「毛沢東」になったのだ。

<佛><池>

〇〇 (不明) に居所があった。ナシナロー池 *na shi˥ na law˥ g˥ui˥ po* とか、ナジャムコミコ (南柵の国) などと呼ばれる。

<佛><池><伝承>

グシャの言葉 *G˥ui˥ sha hkaw˥* によると、ナシナロー池に木を入れると、いろいろな動物になったという。動物の他に、虫や人間になったという。

資料 3-12 (インタビュー) 老人 (南柵佛房寨在住、男性、60~70 歳代) ほか 2012 年 04 月 20 日

<現在の祭祀>

カウーサーシュ *hk˥a˥ u˥ sa˥ sheu˥* (村の上方の山神) はこの村 (佛房寨) だけを司る *guan*。パイエ・ホイエ *hpa˥ yeh˥ haw˥ yeh˥* は、この村を含めた 5 村を司る *guan*。

資料 3-13 (インタビュー) 老人 (南柵佛房寨在住、男性、60~70 歳代) ほか 2012 年 04 月 20 日

<佛><伝承>

「北京南京」*Peu˥ Kin Na˥ Kin* とは、向こうにあるのではなく (遠くにあるのではなく一注)、ここのことだ。ナジャナトムミ *na ca˥ na taw˥ mvuh˥ mi˥* (南柵のこと。*Taw˥* は平らという意味で、とすれば南柵の地を平地と呼んでいることになり、興味深い。何故なら通常ラフ族は山地居住者とされるからである一注)。

資料 3-14 (インタビュー) 老人 (南柵佛房寨在住、男性、60~70 歳代) ほか 2012 年 04 月 20 日

<現在の祭祀><禁忌>

グシャは、水牛や牛の肉 *aw˥ k˥a˥ nu˥ sha˥* を嫌う。

資料 3-15 (インタビュー) 老人 (南柵佛房寨在住、男性、60~70 歳代) ほか 2012 年 04 月 20 日

<佛><池><伝承>

ホイエ *haw˥ yeh˥* の近くにある池の水が満ちないと、グシャはお腹が空いた *aw˥ meu˥ la˥* とされる。

資料 3-16 (インタビュー) 老人 (南柵佛房寨在住、男性、60~70 歳代) ほか 2012 年 04 月 20 日

<佛><文字>

李ジャコ *Ca˥ K˥o* は、「ズメ」(本/字)を見ながら語った。昔は「ズメ」(具体的には経典のことか一注)がたくさんあった。(今はないので)「森」*heh pui˥ hk˥aw* に隠したのかも知れない。

ジャコパ *Ca˥ K˥o hpa˥* は、晩に語ったら、翌朝また来いと言った。そして、どんな夢を見たかと聞いたものだった。

グシャの本 *G˥ui˥ sha li˥* はたくさんあった。開いて読むかたちのものだが、開くとずっと長いものだった。

<佛><禁忌>

ジャコ *Ca˥ K˥o* は、ラフの昔の服装をしていた。酒肉は摂らなかった。妻子は下方の村の中に住んでいた。(佛房を)世話する *guan* ときだけ上 (佛房) にいたのだろう (最後の部分のみ、張老大という 20 歳代男性の話)。

資料 3-17 (インタビュー) 老人 (男性、60~70 歳代) ほか 2012 年 04 月 20 日

<現在の祭祀>

(旧暦の)正月、二月、八月、「野桃が咲く月」*vu˥ nyi ha pa˥*、十月が年中儀礼の時期だ。

<現在の祭祀><禁忌>

正月には、焼香点蠟する *sha tu˥ peh˥ tu˥ ve˥*、ご飯と豆汁を捧げる *aw˥ teh naw˥ teh˥*、餅、水、茶、煙草を捧げる *aw˥ hpfu˥h˥ teh˥ i˥ ka˥ teh˥ la˥ teh˥ shu˥ teh˥*。捧げご飯は「ツノオ」(白の餅米)だ。カス *hk˥a˥ sheu˥* (村神) (?) のところには、犬肉を食べる者は行くことが出来ない。妻のいない男だけが行く。ただし妻帯者は、行く前にきれいに体を洗えば、行くことが出来る。昔は (生理のある) 女は行くことは出来なかった (この点については今はあまり厳しくない一注)。

<現在の祭祀>

二月の祭祀は、二月八日にする。木を修繕する *suh˥ gu ve˥*。豆 *naw˥* (豆汁のことだろう一注)、水 *i˥ ka˥*、飯 *aw˥* を捧げるために (佛房へ) 登る *ta˥-e ve˥*。うるち米 *ca˥ shi˥*、餅米 *ca˥ naw˥* を捧げるために登る。パイエ *hpa˥ yeh˥* に行き、ホイエ *haw˥ yeh˥* に行き、池 *haw˥ g˥ueu˥*

poに行くという順序だ。登っていく ta^ˆ-e ve のは2人だ。

(八月の祭祀は)「八月十五」pa yeh. shui vu^ˆ と呼ばれ、新米を食べる ca. suh^ˆ ca^ˆ ve (食新米祭でもあるという意味一注)。新しい米 ca. shi^ˆ を少し持ってきて、料理して、供える teh ve。鶏や豚はつぶさない g'a^ˆ va. ma^ˆ ti^ˆ。豆やご飯を食べる naw. aw. ca^ˆ ve(菜食である一注)。

ヴニ vu^ˆ nyi の花の咲く頃に、祭祀をおこなう。ヴニとは漢語で「イェタオフア」(野桃花)という花だ。野桃花の咲く月の満月日 vu^ˆ nyi ha pa taw^ˆ におこなう。餅 aw. hpfuh^ˆ、豆 naw^ˆ、飯 aw^ˆ、水 i^ˆ ka^ˆ、茶 la^ˆ、煙草 shu^ˆ を捧げる。点蠟焼香する peh^ˆ tu^ˆ sha tu^ˆ te ve。(村の各家から)肉 sha^ˆ と玄米 ca. hk'a^ˆ をカシエ hk'a^ˆ sheh^ˆ (村長) の家に集めて一緒にする。それを、パイエ hpa. yeh^ˆ、ホイエ haw^ˆ yeh^ˆ、池 g'eu. po、山神 sha^ˆ sheu^ˆ に供える teh ve。点蠟焼香する peh^ˆ tu^ˆ sha tu^ˆ ve。カシエ(村長)でなく、役の者 ca te pa^ˆ。2人が(佛房へ)登って行く ta^ˆ-e ve。

資料 3-18 (観察とインタビュー) 佛房大寨 60 号の家の女性 (30 歳代?)、2012 年 04 月 21 日、家の「焼香所」 sha tu^ˆ kui^ˆ、<現代の祭祀>

<佛>

(家の「焼香所」 sha tu^ˆ kui^ˆ は) 3 ~ 4 日に一度、点す。(点す)日は決まっていない aw. nyi ma^ˆ ca (虎日とか龍日などと関係なく点すということ一注)。

実際に見てみると、木で2段の台を作った簡素な祭壇で、下の段の真ん中に焼香するための筒が取り付けられている。2段の台の上には、水とご飯を供えるらしい器が並んでいる。

資料 3-19 (観察とインタビュー) 南柵大寨の元祭司(「焼香者」 sha tu^ˆ pa^ˆ) (男性、60 歳?)、その息子 (40 歳代?)、2012 年 04 月 21 日

<現在の祭祀>

今は祭司をしていない。カウーサンシュ hk'a^ˆ u^ˆ sha^ˆ sheu^ˆ (村の上方の山神)は、村の下方に住む者が管理している。

<家の祭祀場を見せてもらう。元祭司の息子が同行>

飯、水を捧げる。(捧げる)日は決まっていない。病気 ma^ˆ cheh^ˆ sha の者がいると捧げる。

<現在の祭祀><禁忌>

(筆者が写真を撮ろうとすると)写真は撮ってはならない。(撮ったりすると)後であんたは病気になる a mui. naw. ma^ˆ cheh^ˆ sha la. ve。



写真 3-24 佛房大寨 60 号の家 (手前) 2012 年 04 月 21 日



写真 3-25 佛房大寨 60 号の家の「焼香所」 2012 年 04 月 21 日

資料 3-20 (インタビュー) ジャラ Ca. La^ˆ (南柵大寨在住、男性、60 歳代?)、南柵大寨の元祭司「焼香者」 sha tu^ˆ pa^ˆ と娘 (南柵大寨在住、女性、40 歳代?)

2012 年 04 月 21 日

<現在の祭祀><佛>

(焼香者 sha tu^ˆ pa^ˆ の仕事は) 病気でもう出来ない。.....「焼香者」とは、ジャコ僧 Ca. K'o hpa. のことを言うのだろう。ジャコ僧はもう亡くなった。妻は生きている。子供も 3 人いる。一緒に住んでいる。向こうの村 (南柵村佛房寨) に住んでいる。今も生きている。(ジャコ僧の子供は、) 兄が 1 人いて、弟が 2 人いる。

<佛><時代変化>

ジャコ僧は、畑で働いていて heh te ca. leh..... 畑で死んでしまった。(佛房寨の上方にある) 焼香所 sha tu^ˆ kui^ˆ がなくなって (僧として生活して行くことが出来ず)、畑仕事をしていて、畑をしている時に、畑でなくなったのだ。

<現在の祭祀><禁忌>

(村の祭祀場としての) 焼香所がないと、病気だったり、空腹だったりすると…… (不明)。

<現在の祭祀>

この老人(ジャラのこと)は、村の「山神」の方(の世話)をやっていた。「山神」は村の下の方にある。

この村には「社」が4つある。この大寨には。私達ちのは「四社」と言う。

<佛><民族><ワ族>

「パ」hpa. (僧)は、昔はラフもワもひとつだった(ラフ族もワ族も同じ僧を崇拜していた一注)。昔の「中国」Co Kaw. では。ジャコ僧 Ca. K'o hpa. だ。昔はワもラフも一緒に(信仰)していた。決まった日になると、焼香点蠟していた sha tu⁻ peh⁻ tu⁻ leh hk'e ca te la. ve le⁻。一緒だった。

<佛><時代変化><文化大革命>

そして、建物 yeh. (佛房) がなくなった後、「文化大革命」の時に壊してしまった後には、(そこにあった物を) 向こうに置いた。向こうに置けなくなると、…… 銅鑼でも何でも、ここに引き取って置いた(意味不明)。

今はないが、昔は銅鑼 bo lo k'o. があった。(今は)パイェ hpa. yeh. (佛房) もない。パイェも壊されてしまった。誰が壊したのか、ラフかワか漢族か、昔のことで知らない。信徒 (hpa. ya⁻、パ=僧の崇拜者という意味一注) もいない、今では。

あんた(筆者)は、向こう(佛房寨)に行って、焼香所 sha tu⁻ kui. は見なかったか?(筆者; あったのは石だけ。)それで(住もうにも)信徒の住むところもない hpa. ya. ca cheh⁻ kui. ka. ma⁻ caw. ve. beu. leh. もうない。

<佛><時代変化><文化大革命><文字>

パイェ(佛房)にはもうグアンパ(管理者)はいない、今は。ジャコ僧も死に、ジャジュ僧も死んだから。…… ズメ(本、経典のことを指すと考えられる一注)もないし。昔は、ズメ(本)があったそうだ。私達は見たことはないけれど。

「文化大革命」の時になくなってしまった。

瀾滄の方に持って行かれたそうだ…… もうない。…… ズメが漢語だったのかラフ語だったのか知らない。

ジャコの前にはジャジュ僧がいたそうだ。チョモ(老人)がそう言っている。私達は見たことがない。ジャジュ僧にも妻がいたそうだ。(ジャコ僧とジャジュ僧)

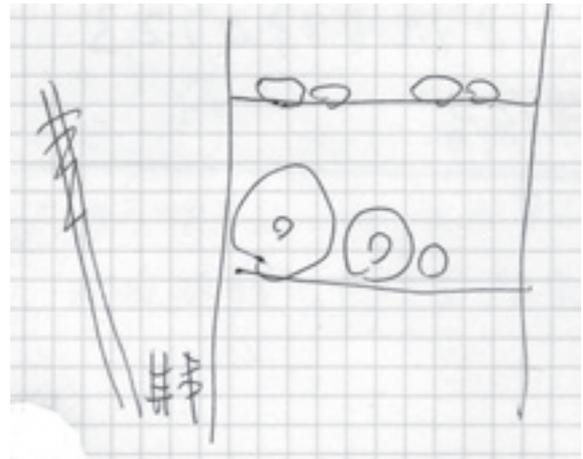


図 3-1 佛房大寨の元祭司の家の祭祀場。筆者手書き。

ふたりとも(妻が)いた。ジャコ僧の妻は今も生きています。私のような感じだ(同じくらいの年だ一注)。

<現在の祭祀>

今は村内 hk'a⁻ hk'aw のみ管理 guan している(村の祭司だけやっている一注)。木 suh⁻ と言っても、メファ(不明)だけだ。メファだけ点している tu⁻ ve. 「中国」Co Kaw. のものとも違う。

<ジャロ家の焼香所 sha tu⁻ kui. を見せてもらう>

<現在の祭祀><禁忌>

(ここにある)銅鑼は、昔のパイェ(佛房)のものではない。

写真を撮ってはならない。(撮ると)病気になる。

<現在の祭祀>

(長い鉄の棒について)あれは「ナローパ」と言う。詳しいことは知らない。

線香を点す sha tu⁻ ve は、虎日、龍日、新月、満月に関係なく、家の人が病気になると点す tu⁻ ve. (家の老人が)点す。

カシュ hk'a⁻ sheu. (村の神)については「グアンパ」(管理者)が別にいる。村の下の方に住んでいる。カシュは村の下の方にある。

資料 3-21 (観察とインタビュー) ラフ族女性(南柵村の村公所のある集落に在住、58 歳) 2012 年 04 月 21 日

<佛><時代変化>

昔、僧 hpa. がいた。昔の人の時代 chaw maw⁻ co-e には。建物 yeh. (佛房) も建ててあった。今は(僧は)いない。人々が養わなくなったので ma⁻ hk'aw. hu ve. 僧に妻子がいたかどうかは知らない。私が物心ついた時には僧



写真 3-26 南柵村七組。筆者が通りかかった時ちょうど豚がつぶされて儀礼の用意がされているところだった。 2012年04月21日



写真 3-27 南柵村七組。儀礼のホストの家の「焼香所」。木で作られた簡素なもので、二段の棚があり、上段にはご飯と水を捧げる容器が置かれている。 2012年04月21日



写真 3-28 安康郷の表通り 2012年04月21日



写真 3-29 安康郷政府。「安康佤族郷」だけあってワ族の水牛のシンボルが掲げられている。 2012年04月21日

はもういなかったから。「33代の僧」 hpa, 33 htai- と言うが、物心ついた時にはいなかった。..... 私は58歳だ。小さい時にはパイェ（佛房）もなかった。

<佛><キリスト教>

「拉巴」には「佛」があるだろう。安康（郷）でなく、木嘎（郷）の拉巴。（筆者；木嘎の拉巴はキリスト教徒村でないか？）。（拉巴には）昔、僧 hpa, がいたそうだ。

資料 3-22（インタビュー） ラフ族男性（南柵村七組在住、50歳代？） 2012年04月21日

<佛>

ラフのジャワ Ca, Va, という者が来たことがある。毛布も要らないと言って、寝袋に寝ていた。大きな男だ。..... パイェ hpa, yeh,（佛房跡）を見に来た。タイのラフだ。「大佛」を見に来た。豚肉は食わず、ノバー naw, ba-（豆腐乳のことかー注）だけ食べていた。

..... 一度だけ来た。政府の宿 ceu⁻ fu⁻ yeh, に泊まっていた。もう亡くなった。

昔「大佛」がいた。上の方に。..... 今は石が残っている。昔ここにいたのだ。グシャだそう。自分を見たことはない。「古代」のことだ（ずっと昔のことだー注）。

<佛><伝承><日本><国民党>

グシャは「北の地に去ったそう、漢族のところへ去ったそう」 aw, na mi, gui, ta⁻e ve ce⁻, Heh⁻ geh ta⁻e ve ce⁻. 今はどこにいるか分からない。..... 遠い「北の地」に去っていった。（この は）耐えられないと言って daw⁻ ma⁻ ta⁻ ce⁻. 「北京」に住んでいる。47、48年頃に、「南の地」 aw, haw⁻ mvuh⁻ mi, を「解放」して、向こうに行ってしまう、戻ってこない。47、48年頃、内戦の頃だ。「共産」と、「国民党」と「ズプ」（日本）。その頃に北に行き、戻ってこないそう。

建物 yeh, も八階建てだ。ホイエ haw^ˉ yeh, だ。ジョー (建物の材料を指すらしいが、何か不明一注) の建物 yeh, 。……44 階建て。ジョー (?) で作られていたのだろう。

<佛><時代変化><大理>

今ないのは、建物 yeh, を壊してしまったからだ。……大理の……グシャの手下、僧の家を建てる者 hpa, yeh, te pa- が大理からやって来た。

<文字>

老人 chaw maw[˘] は知っている。若者 a neh, ya[˘] は知らない。字がないから分からない (文字記録がないから分からない一注)。

<佛><文字>

パイェ hpa, yeh, (佛房) にも、本/文字があったかも知れないが、壊してしまったので、分からない。

<佛><時代変化>

自分の子供の頃にも、僧 hpa, はいなかった。

<老幹部>僧 hpa, の最初 (が誰だったか) は、知らない。「解放」で、佛房を壊してしまったので hpa, yeh, daw[˘] ba, she, leh, 知らない。

<佛><毛沢東>

「毛主席」は、グシャだったという。「毛主席」は、スターシャーヴェ (統治者という意味か一注)、統治者だ u^ˉ pui pa-, グシャだ。あらゆる地方を治める者だ。彼のような者はいない。……

資料 3-23 (インタビュー) 作朗八隊の村人たち (男性、30 ~ 60 歳代?)、瀾滄県富邦郷作朗村八隊にて、2012 年 07 月 15 日

<佛>

(かつての佛地には) 南柵もあった。大きかったものには (南柵もあった)。南柵には「九十九佛」あったそう (それほど勢力が大きかったという意味一注)。

4. 蛮大佛

蛮大佛（あるいは芒大佛）については『思茅拉祜族
伝統文化調査』（1993）に詳しい。蛮大はワ族居住地
であり、南柵で学んだワ族僧が蛮大の佛地を開いたと
いう。現文東郷の蛮大佛は、石人山にあったが、後に
蛮大後山（蛮大寨後方 200 メートルのところ）へ移っ
たという。

市販の地図やインターネット地図を見ると、現在「蛮
大」は「芒大」と表記される。前者は man da、後者は
mang da で、発音が似ている。「蛮」のもつ否定的な意
味を避けたいために漢字表記が変更されたのではない
かと推測される。そもそも現地で漢字表記される以前
に「マンダ」と現地で呼ばれていたものに、後世になっ
て漢字を当てたのだと考えられる。

筆者は 2012 年 05 月 22 日に蛮大佛房跡を訪ねた。
佛房跡は、ワ族集落の外れの藪の中にうち捨てられて
いた。現在も妻子の対象とされている様子はなく、案
内してくれたワ族住民が、佛房の遺物を足で踏んで歩
いているさまに驚くほどだった。

佛房跡 海拔高度 1990 メートル

夕方、芒大寨に着くことができた。村人に佛房跡が
あるかと尋ねると、やっとのことでこちらの言いたい
ことが伝わり、佛房跡があるということがわかったの
で、そこへ連れて行ってもらった。

佛房跡は、村外れの林の中にあるという。林の外で
は男たちが豚小屋を作る作業をしていた。佛房跡のあ
る林は、作業をしていた男たちのうち、赤いシャツを
着た男の家の土地だということだった。

まず案内を頼まずに、林の中の佛房跡にひとりで
行ってみた。

いろいろな遺物が残っていることが分かった。林の
外に出て、作業をしている人に、改めて案内を頼み、
もう一度、佛房跡を見ることになった。芒大寨はワ族
の村で、標準漢語（普通語）はかろうじて通じるぐら
いだった。作業をしていた男のうち、この土地の所有
者の家の者である赤いシャツをきた男が案内してく
れた。以下、その時のようすを、インタビュー資料と
写真を交えながら紹介する。



写真 4-1 文東郷の中心へ入る道にある門。文東はワ族郷な
ので水牛のシンボルが掲げられている。 2012
年 05 月 22 日



写真 4-2 文東郷の目抜き通り 2012 年 05 月 22 日



写真 4-3 佛房跡のある芒大寨 2012 年 05 月 22 日



写真 4-4 芒大寨の外れ。この奥の林に佛房跡がある。
2012年05月22日



写真 4-5 蛮大（芒大）佛房の遺物 2012年05月22日



写真 4-6 蛮大（芒大）佛房跡の木の根元にあった五角札。
後で案内してくれた村人は、今は拝む人もいない
と言っていたが、佛房後で祭祀を行なう人もいる
のかも知れない。 2012年05月22日



写真 4-7 蛮大（芒大）佛房の柱の礎石。 2012年05月
22日



写真 4-8 蛮大（芒大）佛房の遺物 2012年05月22日



写真 4-9 蛮大（芒大）佛房の遺物 2012年05月22日

資料 4-1（観察とインタビュー） ワ族男性（芒大在
在住、20歳代後半？）、2012年05月22日、芒大寨にて、
漢語での会話

＜佛＞＜現在の祭祀＞

今は（佛房を）「拜拜」（拜む）する人はいない。

＜民族＞＜ワ族＞

村にはワ族ばかりで、ラフ族は住んでいない。

これはワ族のものだ。昔の佛房だ。ワ族の佛房で、
ラフ族は拝まなかった（ラフ族との関係は全く考えら
れていないようだった一注）。



写真 4-10 蛮大(芒大) 佛房の遺物。模様が見える。
2012年05月22日



写真 4-11 蛮大(芒大)佛房の遺物。集められているようだ。
2012年05月22日



写真 4-12 蛮大(芒大) 佛房跡を案内してくれるワ族の村人
2012年05月22日



写真 4-13 蛮大(芒大) 佛房跡の遺物 2012年05月22日



写真 4-14 蛮大(芒大) 佛房跡の遺物 2012年05月22日

<佛>

これも遺物だ。昔はとても高い建物だった。
今は管理する者はない。モーパ(呪医)もいない。
この部分は何の跡か分からない。
ここにも昔の○○(不明)がある。

昔の(佛の)住居はとても大きかった。何人住んでいたのか知らない。

これらは「和尚」たちの墓だ。「佛爺」たちの墓だ。拝む人は今はいない。(墓碑の石には字が刻まれているが、読み取れない。)たくさん墓がある。

これは家(房子)の「スージャオ」(柱を載せる礎石)。1つだけだ。たくさんあったが、持って行かれた。

(少額の紙幣が一枚だけ地面にあったので、だれか参拝した跡かと聞いたが)知らない。

(佛房の建物は)自分が子供の頃も既になかった。

この木は彼ら(佛たち)が植えたものだ。

<文化振興>

瀾滄の人たちも一度来たことがある。見に来た。(佛房を修理したいのかどうかは)知らない。

ここは俺の家の土地だ。

『思茅拉祜族传统文化調査』(1990)などの文献によ



写真 4-15 蛮大(芒大) 佛房跡の遺物。昔は高い建物があったという。 2012年05月22日



写真 4-16 蛮大(芒大) 佛房に住んでいた「和尚」たちの墓(左側) 2012年05月22日



写真 4-17 蛮大(芒大) 佛房に住んでいた「和尚」たちの墓(右側) 2012年05月22日



写真 4-18 蛮大(芒大) 佛房に住んでいた「和尚」の墓標 2012年05月22日

ると、蛮大佛は、南柵で学んだワ族僧が蛮大にやってきて始めたものとされる。しかし案内人男性の言葉の通り、少なくとも現在ではラフ族との関係は意識されていないようである。

また芒大(蛮大)寨では、旧佛房では宗教祭祀は行なわれていないという。実際に案内人男性が筆者を案内してくれた際に、佛房の遺跡のかげらと思われる物が落ちていても、平気でそれらを踏んで歩いていたのには驚いた。それまで訪ねていた、西盟や南柵などの佛房は、現在でも多少なりとも焼香や祭祀が行なわれ

ており、畏怖の対象になっていたからである。佛房跡の特定部分の写真を撮ってはいけないとか、かつて佛房を壊した／壊そうとした人に超自然的な罰がくだったといった話も聞かれなかった。

しかし誰かがそこで何かの祭祀をしたらしいことを示す小額紙幣が佛房跡に落ちていたので、そこで個人的な祭祀をする人がいる可能性もある。

佛房をしない案内人がそう語るように、かつてそこには高い建物があり、何人もの「和尚」が住んでいた。「和尚」の墓の跡を見ることができたのはここだけで、



写真 4-19 蛮大（芒大）佛房に住んでいた「和尚」の墓標
2012年05月22日



写真 4-20 蛮大（芒大）佛の話をしてくれた退職教師夫妻
2012年05月22日

他所では見られなかった。

芒大寨での佛房跡見学をおえて、筆者は文東郷の中心に戻り、そこで唯一の宿と思えた雲仙賓館に投宿した。その日の夕方、賓館の女主人に佛房について聞いてみた。

資料 4-2（インタビュー） 文東郷の宿の女主人（漢族？、女性、50歳代？）、2012年05月22日、文東郷

の雲仙賓館にて、漢語での会話

<佛>

（日本人が）何をしに来たのかと聞くので、芒大佛廟に「拜拜」しにきた（参りに来た）と言うと、納得したような表情をした。）

<佛><民族><ワ族>

（筆者だけでなく、その場に居合わせた他の客にも向かって）ここにはワ族の昔の佛寺／佛廟がある。

雲仙賓館の女主人の言葉が示すとおり、佛房跡は、この辺では知られているのかも知れない。

文東郷で一泊した翌朝、近くの小学校に行ってみた。小学校の敷地内には家が並び、退職教師夫妻がいたので話をした。

資料 4-3（インタビュー） 文東郷小学校敷地に住む退職教師夫婦（夫、ワ族、68歳、安康郷出身；妻、漢族、60歳、富東郷出身）、2012年05月23日、文東郷小学にて、漢語での会話

<佛><時代変化><文化大革命>

（文東佛は）昔は最大、普洱（市）で最大だった。（佛房は）文化大革命の時に破壊された。昔は印章もあったが、誰かが持っていったのか、もうない。

（安康郷出身の夫）南柵にも「佛」があるが、詳しくは知らない。ここ（蛮大）のものが最大だ。

雲仙賓館の女主人と同様に、夫妻も文東の芒大佛房について知っていた。そればかりでなく、かつては普洱でも最大だったとまで話してくれた。『思茅拉祜族伝統文化調査』（1996）などの文献が伝えるとおり、文東の蛮大（芒大）佛は、南柵物を佛祖として仰いでいたのだが、夫妻は（安康郷出身の男性の方でさえも）南柵佛についてはよく知らず、蛮大（芒大）佛が最大のものだったと主張した。

他所の「佛」と同様に、蛮大（芒大）佛も「文化大革命」期に破壊の対象となり、印章を含めた貴重物もその時に失われたという。

5. 東河拉巴佛

現在の瀾滄県東河郷はかつてラフ族の「佛」の勢力が広がっていたことが、『拉祜族社会歴史調査（一）』（1982）や『思茅拉祜族传统文化調査』（1996）などの文献から分かる。

一方、『雲南少数民族社会歴史調査資料匯集（四）』（2009：44）は次のように述べ、現在ではかつての信仰がほとんど見られないと指摘している。

丫口土司統治時に、仏教が瀾滄に伝入した。伝えられるところでは、多衣林村に「王佛爺」が1人いて、土司に代わって人々を統治していたという……

仏教の影響は現在ではほとんど見られない。拉巴村はすでに仏教を信仰していない……

2012年05月31日に筆者は東河郷へ向かった。瀾滄からのバスは朝8時過ぎに出発し、10時40分頃に上允で30分以上の長い休憩した後再び出発し、東河郷には13時10分に到着した。途中でバスは故障して修理のために何度か停車したので、予定よりも遅れて着いたと考えられる。東河は小さな町で、郷政府の海拔高度は1850メートルだった。

『思茅拉祜族传统文化調査』（1996：60）には、かつての「佛殿」は現在の茶工場の近くにあったと書かれ

ている。バスに乗っていると、東河郷の中心に到る前に、茶工場のようなものが窓から見えた。しかしそこは東河街から数キロ離れたところで、初めての訪問でもあり、バスを降りるのはためられた。郷政府への挨拶もあり、バスの終点で降りることにした。

東河郷についてバスを降りた。東河の街は小さな町だった。バスの運転手に、拉巴大寨へ行くバイクを探してもらった。バイクタクシーはなく、近くのバイク修理店の主人を紹介された。拉巴大寨まで「百元」とふっかけられたが、他に手段がなかったので、「では行き50元、帰り50元」と言って、往復百元ということにした。

バイク修理店の主人はすぐに出発しそうになかったので、東河の街をぶらぶらした。話しかけたラフ人に、東河郷老佛房小寨からバイクの修理に来ていた夫婦（両者とも30歳代？）がいた。東河郷には「佛」にまつわる地名が多いが、「老佛房小寨」もそうである。

資料 5-1（インタビュー） かつての佛房について、ラフ族夫婦（老佛房小寨在住、両者とも30歳代？）2012年05月31日。

<佛>

（「老佛房小寨」はその名からも、かつて佛房があったと推測される一注）昔は佛房 fu. yeh. があったが、



写真 5-1 東河郷地図。瀾滄県作成の地図を撮影したもの。東河郷には「佛」にまつわる地名が多く見られる。2012年05月31日



写真 5-2 東河郷人民政府。ラフ族郷らしく瓢箪とそれを囓る鼠のシンボルがある。2012年05月31日

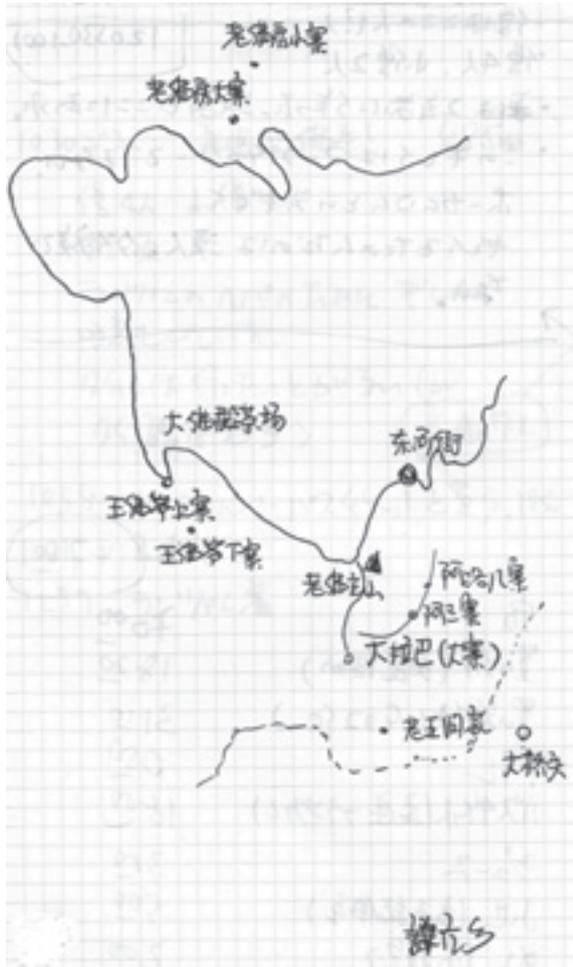


図 5-1 東河郷地図。筆者が手で写したもの。 2012年05月30日



写真 5-3 東河郷老佛房小寨からバイクの修理にやって来たラフ族夫婦。 2012年05月31日

今はもうない。

<現在の祭祀>

(村の祭祀については)今は何もしていない。各自の家で「新月」ha pa suh[˥]に蠟燭と線香を点す peh[˥] sha tu[˥] ve (線香だけでなく、蠟燭と線香の両方を点すよ

うである—注)。

モーパ (maw[˥] pa[˥]、呪医)は数人いて、招魂 aw[˥] ha hku ve する。老佛房小寨は、ここ(東河郷の中心)から33キロのところにある。

この後、村を訪問することを告げるために郷人民政府を訪ねたが、中国の長い昼休み時間中で、役所の扉も閉まり人もいなかった。バイク修理店にもどり、しばらく後にバイクでなく自動車で拉巴大寨に送ってもらった。

拉巴大寨に着き、村公所に行き、「カシェ」(hk[˥] a[˥] sheh[˥]、ラフ語で「村長」の意味だが、中国のラフ村では「幹部」の意味で使われることが多い—注)を探した。村公所にいた人たちの多くはラフ語を知らず、漢族だという老人男性がひとり知っているだけだった。後で分かったが、拉巴大寨は、上の漢族集落と下のラフ族集落からなり、村公所は漢族集落の中にあった。

ようやく老人の婿だという幹部(漢族)がやって来たが、幹部は筆者にいきなり「身分証」の提示を求めた。パスポートの他に調査許可書などのコピーを見せたが、しばらく待つようにと言われた。

驚いたことにしばらくして、車が2台やって来て、中から数人の男たちが降りてきた。郷から来た役人と公安で、その後一時間ほど村公所で質問を受けた。

筆者は東河郷に来る時に、瀾滄県民宗局長に電話して、郷政府に筆者の訪問を伝えていくるように頼んでおいたが、伝わっていなかった。

いずれにせよ一時間ほどの質問の後、ラフ族集落を見ることを許可された。ただし先述の漢族幹部が同行すること、写真撮影はだめなことを告げられた。

したがって以下の報告は、野帳のメモとスケッチに基づくものである。案内の最後には食事と瓢箪を福村人の撮影は許可されたが、他のものの撮影は禁じられた。

拉巴大寨のかつての「佛」信仰についての聞き取り、および現在の祭祀についての聞き取りに分けて報告する。

5-1. 拉巴大寨の「佛」信仰

資料 5-2(インタビュー) かつての「佛」信仰について、李姓男性(拉巴大寨在住、67歳)とその息子(拉巴大寨在住、男性、46歳) 2012年05月31日。

<佛>

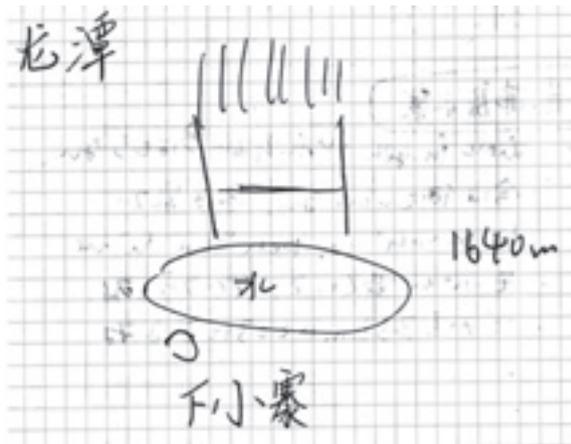


図 5-2 拉巴大寨の「龍潭」 2012 年 05 月 31 日

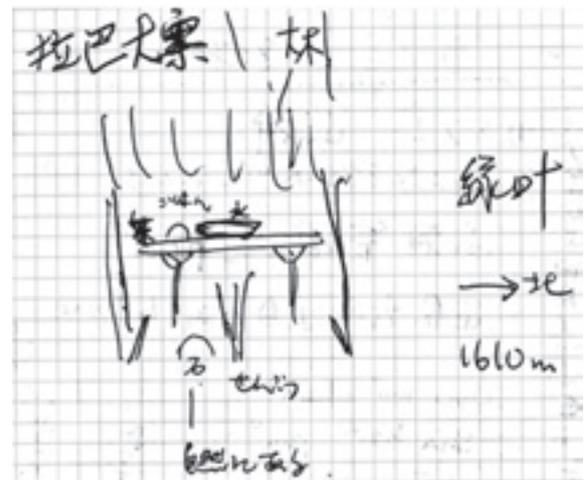


図 5-3 拉巴大寨の村の祭祀場「山神」 2012 年 05 月 31 日

(46 歳男性の) 祖父は、山神の管理者 sha⁻ sheu, guan hpa[˥] で、すごい人だった。大きな銅鑼 bo lo k'o⁻ が 2 つあったが、(67 歳の男が) 10 代後半ぐらいの時に、「ジェーフ」 ceu⁻ fu[˥] (政府) が壊してしまった(単純計算すると、約 50 年前で、1962 年頃のこととなる一注)。それまでは正月の踊りなど、とても盛大だった(宗教祭祀の面で盛んだった一注)。だからさっきあなた(筆者)に、大きな銅鑼をもっていたら寄付してくれないかと言ったんだ。

資料 5-3 (インタビュー) かつての「佛」の文化振興について、李姓男性(拉巴大寨在住、67 歳) 2012 年 05 月 31 日。

<文化振興>

(筆者; 南棚などでは、佛房跡を政府が「保護」しようとしているが、ここではそういったことはないか)。政府が「佛房」を「保護」bao hu⁻, ha, sha⁻ ve するような動きは全くない。

資料 5-4 (インタビュー) かつての「佛」信仰について、李姓男性の息子(拉巴大寨在住、46 歳) 2012 年 05 月 31 日。

<佛>

フイエ fu⁻ yeh⁻、ボイエ bon yeh⁻ はない。昔あったかどうかも知らない。自分が子供の時のもなかった。

5-2. 拉巴大寨の現在の祭祀

資料 5-5 (観察とインタビュー) 拉巴大寨の下小寨

集落の祭祀場について、漢族幹部(拉巴大寨在住、男性、30 歳代?) 2012 年 05 月 31 日。

<現在の祭祀>

拉巴大寨の下小寨集落へ向かう道端にあった祭壇図。道の横に水が落ちていて小さな滝と水だまりをなしているところがあった。案内してくれた漢族の幹部によると、村人が「龍潭」と呼んで信仰している場所である。水だまりの後ろには、竹で作られ茅で屋根を付けられた祭壇があった。腕時計の高度計では、海拔高度 1640 メートルだった(下図、「龙潭」と「下小寨」の字は、漢族幹部が書いたもの)。

資料 5-6(観察とインタビュー) 拉巴大寨の祭祀場「山神」sha⁻ sheu⁻ について、漢族幹部(拉巴大寨在住、男性、30 歳代?) 2012 年 05 月 31 日。

<現在の祭祀>

拉巴大寨の下集落はラフ族の村である。その村の上方に、大木があり、大木の前に祭祀場が作られていた。竹で祭壇が作られ、茅で屋根が付けられていた。祭壇の上には、供え物のご飯と水の碗がひとつずつあった。祭壇の前には線香が点された跡があった。

夕方に村から出るためにバイクに乗せられて通った時に見ると、線香と蠟燭が点されていた。腕時計で計った海拔高度は 1610 メートルだった。

資料 5-7 (インタビュー) 「山神」の祭祀について、李姓男性の息子(拉巴大寨在住、男性、46 歳) 2012 年 05 月 31 日。

<現在の祭祀>

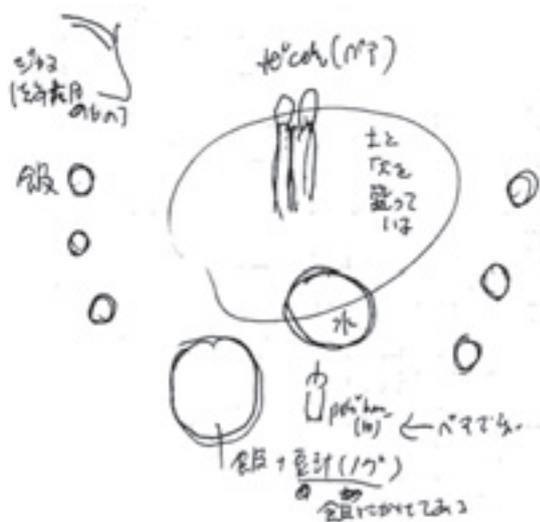


図 5-5 拉巴大寨の李姓男性家の家の祭壇 2012年 05月 31日



写真 5-4 拉巴大寨の李姓住民 (46 歳)。これがラフ族の文化だという漢族幹部に促されて、瓢箪笙を演奏してくれた。 2012年 05月 31日

て、李姓男性 (拉巴大寨在住、男性、67 歳) 2012 年 05 月 31 日。

<現在の祭祀>

李姓男性の家の祭祀場は、簡略で、祭壇は設けられていない。家の正面入口を入った先の床の上に、土と灰が盛られており、村真ん中で、一對の線香 (手作り)

を点す。さらに、土と灰をもったところの手前で、白い蠟燭 1 本を点す。

祭祀場の後方に稲穂 *ca. nu* があったのは、去年の「六月」(「六月二十四」の祭祀の時に一注)、捧げられた稲穂がそのまま残っているのだということだった。

(線香や蠟燭を) 点す *tuˊ ve* ののは、満月 *ha pa taw-* と新月 *ha pa che*、の日である。李姓男性は、満月と新月を「十五」「初一」とも言い換えた。

その他に、人が病気の時にも点す *chaw maˊ chehˊ sha htaˊ ka, tuˊ ve*。その際に、言葉は唱えない *aw, hkawˊ maˊ hkˊ ao-*。

筆者が訪れた日、李姓男性の家の祭祀場は、特別に供え物が多かった (次図の太丸部分)。この日は李姓男性の家が田植え (*ca, ti ve*、重要な農業過程である一注) を行なう日で、そのために普段は行なわない捧げものをしたということだった。

土と灰をもった焼香場の周りには、飯が 6 つ、水が 1 つ、飯に豆汁 *naw, gˊ eu* が掛けられたものが 1 つ捧げられていた。家の祭祀場で祭祀を行なう機会について聞くと、満月や新月の他、家に病人がいる場合がよく挙げられるが、その他にも、このように重要な日には祭祀が行なわれることがわかる。

資料 5-11 (インタビュー) 家の精霊の祭祀について、李姓男性 (拉巴大寨在住、男性、67 歳) とその息子 (拉巴大寨在住、男性、46 歳) 2012 年 05 月 31 日。

<現在の祭祀>

(家の正面入口の家にある竹編みの儀礼具は)「レオ・ガ」*lehˊ oˊ gˊ a*。(直訳では「追い払うためのレオ」一注)だ。「ジョーを追い払うのだ」*Jaw gˊ a, kui, ve* (ジョー *jaw* とは世帯に悪い影響を与えることがある精霊である。家の精霊 *yeh, neˊ* と言い換えられることもある一注)。(誰がやるかという) できる者、つまり、呪医 *mawˊ pa-* がやる。三年に一度行なうものだ (これは文字通り三年に一度行なうというより、あまり頻繁でないが時々行なうという意味だと考えられる一注)。(家の) 人が病気の時に行なう *chaw maˊ chehˊ sha htaˊ te ve*。レオは 2 つ作り、1 つは道の端に捨てる *ya, kˊ aw jaˊ lo ba, ve* (儀礼を終えたレオを家の外に捨てることによって、家におよんでいた災いを外に捨て去るという論理が働いている一注)。もう 1 つは家の戸口の上に貼る。

6. 木戛拉巴佛

木戛郷大拉巴村は、キリスト教徒が住民の大部分を占める村である。しかし、そこはかつて佛 *fu* の大きな拠点であったとされる。「拉巴佛」は「五佛」のひとつに数えられることが多い。佛 *fu* が移動していたためか、現在の瀾滄県の各地には「拉巴」という地名が各地に存在するが、複数のラフ族の住民たちからの聞き取りからも、木戛郷拉巴村の大拉巴塞には、かつて有力な佛 *fu* が暮らし、大きな佛房があったことが分かった。

現在のキリスト教徒住民は、かつての佛 *fu* を、キリスト教のラフ族への伝来を預言した偉大な民族の指導者「アシャフジュ」*A⁻Sha Fu- Cu[~]*だと理解している。「アシャフジュ」自身はキリスト教徒ではなかったが、前キリスト教徒時代の民族の偉大な指導者であり、グシャによってさまざまな預言をした人物として記憶されている (Nishimoto 2000)。

筆者は、当地を未訪問ながら、雲南滞在中にキリスト教徒のラフ人たちから、大拉巴にある「アシャフジュの品々」*A⁻Sha Fu- Cu[~] maw[~]*について、話を聞いた。

資料 6-1(インタビュー) 南柵村にすむラフ族女性(58歳) 南柵村の道にて、2012年04月21日
 <佛>

女性; ラバー(拉巴)には「佛」*fu*があるだろう。安康(郷)ではなく、木戛(郷)の拉巴だ。

筆者; 木戛(郷)の拉巴はキリスト教徒ではないのか?

女性; 昔は「パ」(*hpa*、僧)がいたそうだ。

資料 6-2(インタビュー) 大拉巴塞の牧師(男性、20歳代?)、雲南のキリスト教徒ラフ族を訪問中だったタイのラフ人牧師(男性、50歳代)、瀾滄県東回郷にて、2012年06月30日
 <佛>

アテフジュ *A⁻Teh Fu- Cu[~]*(アシャフジュの別称一注)の品々 *maw[~]*が木戛の拉巴村 *Law, Ba⁻hk'a[^]*(の隣の村)に残されている。

大拉巴塞の牧師; アテフジュは一カ所にいたので

はない。またいろいろな名前をもっていた。「佛」*fu*になる前には「アテ」*A⁻Teh*と言い、それから「アシャ」*A⁻Sha*と言い、「ジャボ」*Ca, Bon*と言い、「ジャボフジュ」*Ca, Bon Fu- Cu[~]*と言い、○○(不明)と言い、××(不明)と言った。

タイのラフ人牧師; アテフジュの品々 *maw[~]*は、「拉巴」*Law, Ba⁻*でなく、その近くの村にある。そこで保管されている。ヘパ *Heh⁻ Pa⁻*(漢族、ここでは政府の者を指す一注)がしたら、「博物館」(ピピッタパン(タイ語))にもってゆかれるので、こっそりもっている。

資料 6-2(インタビュー) 大拉巴塞の牧師(男性、20歳代?)、孟連県新乾河村にて、2012年07月01日
 <佛>

アテフジュの古い物があるのは「ラバ・ヴァピー村」だ。拉巴の周辺にいくつも村があるが、そのひとつだ。

そこはアテフジュの埋葬場所 *A⁻Teh Fu- Cu[~] tu⁻ ka⁻*だ。

そこには、踊る広場、住居、埋葬場の3つがあった(ある)。

自分も実際に行ったことがあり、(アテフジュの品々)の写真も撮ってきた。

資料 6-3(観察) 雲南のキリスト教徒ラフ族を訪問中だったタイのラフ人牧師(男性、50歳代)、孟連県新乾河村にて、2012年07月01日
 <佛><予言><文字>

タイのラフ人牧師は、最近一部がキリスト教徒に改宗した、孟連県内の新乾河寨の日曜礼拝で説教をおこなった。説教は、キリスト教徒になって間もない人々に対するものなので、わかりやすく話すと、タイのラフ人牧師自身が言った。説教には「アテフジュ」*A⁻Teh Fu- Cu[~]*の話も出てきた。

昔アテフジュが教えた(預言した一注)。「やがて白い人が、白い馬に乗って、あなた方のところへやって来る。そうしたら「ペプシャブ、ペコシャコ」*Peh⁻Peu, Sha Peu⁻, Peh⁻K'aw Sha K'aw*(蠟燭や線香を中心としたラフ族の伝統宗教の儀礼具一注)を「リプタプ」



写真 6-1 タイから瀾滄を訪れたラフ人牧師 瀾滄県東回郷東閣寨にて、2012年06月29日



写真 6-2 那得頭寨の日曜礼拝で説教をする班利村から来た牧師と寨内の教会世話人。2012年08月05日

Li[˥] Hpu Htan[˥] Hpu (文字通りには「白い本」つまり「神聖な本」という意味—注)と交換しなさい、と。アテフジュは(ミャンマーシャン州の)チェントウンに「リプタブ」をもらいに行った。「リプタブ」とは、今ここにある聖書だ。ラフの「ペプシャブ、ペコシャコ」のオリ aw, li[˥] (祭祀のやり方)も悪くない、よいものだ。しかし「リメタメ」Li, Meh[˥] Htan[˥] Meh[˥] (本/文字)に書いてあることは、途中で間違ふことなく伝えられる(その反面、口承の技能に頼る伝統宗教のやり方は、伝えられるうちに間違えがおこる、という含意がある—注)。しかし、もっとよいものがある。それをまだ知らない同胞のラフの人々に、そのことを述べ伝えなければならない(福音伝道しなければならない—注)。

(このタイのラフ人牧師による説教の後に行なわれた、夫人(女性、47歳)による説教は、女性は一家の主婦としての仕事をしっかりすべきだ、主婦の仕事は大変なので、夫もそれを手伝ってあげるべきだという、より一般的な話だった。—注)

資料 6-4 (インタビュー) 瀾滄県東回郷班利村の牧師のひとりで近所の那得頭寨へゆき日曜礼拝を司式していた男性 A (79歳)、那得頭寨内の教会世話人 B (男性、40歳代?)、瀾滄県東回郷班利村那得頭寨にて、2012年07月08日

<佛><伝承>

A; 木夏の大拉巴だ。アテフジュ A[˥] Teh Fu, Cu[˥] の品々 maw[˥] がある。大拉巴の「シマ村」Shui, Ma, にある。あの辺は小さな村が多い。……すべてキリスト教徒だ。アテフジュの品々は、大拉巴にある。ジャラという牧師 sa, la, が管理 ha, sha[˥] ve している。ジャラのところにある。父も牧師だったが死んで、子が牧師になっ

た。……(アテフジュの)パイプ shu[˥] hk[˥] u がある。石弓 hka[˥] がある。

B; 大きな玄米 ca, hk[˥] a があるそうだ。一粒がこんなに大きい。大拉巴にあるそうだ。

A; 人間がグシャ G[˥] ui, sha の言葉を聞かなかったので、米は小さくなった。(グシャがもともと大きかった米を)馬に踏ませて、小さくなったそうだ。グシャが(人間のおこないに対して)不満で(罰を与えたのだ)。でなければ二粒食べれば、満腹だったそうだ。ラフ語では「ジャジュペー」ca[˥] cu[˥] peh[˥] (粉のこと—注)と言う(昔の大きな米の粉が大拉巴に残っている—注)。

資料 6-5 (インタビュー) 作朗八隊の村人たち(男性、30~60歳代?)、瀾滄県富邦郷作朗村八隊にて、2012年07月15日

<佛>

拉巴はキリスト教徒 bon ya[˥] で、「佛」はいない。……昔は「パ」hpa, (僧)がいたが、今はキリスト教徒 bon ya[˥] だ。「パ」は点蠟焼香する peh[˥] tu[˥] sha tu[˥] ve yo,、キリスト教徒は焼香しない bon ya[˥] leh, sha ma[˥] tu[˥] ve。

資料 6-6 (観察とインタビュー) 瀾滄県東回郷班利村の牧師のひとりで近所の那得頭寨へゆき日曜礼拝を司式していた男性 A (79歳)、2012年08月05日

<佛><漢族との戦争>

那得頭寨のキリスト教徒村民たちによる「自宅祈禱会」の最中に「アテフジュ」A[˥] Teh Fu, Cu[˥] の話になった。筆者が「アテフジュは軍人 ma, baw[˥] pa, だったんだよね」と言うと、老牧師 A は、聖書に目を落としたまま、

声を出さずにうなずいた。

過去におけるラフ族の漢族との戦いは、知っていても、あまり公然と話すべき話題でないことを示していた。

資料 6-7 (インタビュー) 瀾滄県東回郷班利村の牧師のひとり A(男性、79 歳) 班利村の A 氏の自宅にて、2012 年 08 月 11 日

<佛><予言><文字><漢族との戦争>

A; (ポルー(破弄)にも「アシャフジュ」A[˥] Sha Fu. Cu[˥] の遺品があるという話から) その管理者 ha. sha[˥] pa. は豆汁しか食べず、肉は食べないそうだ。そこには「観音佛」もある。

A; 「ハニマ」(場所不明)の「拉巴」には「アシャフジュ」の石弓があるそうだ。

筆者; アシャフジュとアテフジュ A[˥] Teh Fu. Cu[˥] とは同じか?

A; そうだ。アシャフジュと言う人もいるし、アテフジュと言う人もいるが、たぶん同一人物だと思う。

筆者; 彼が死んでから長いかな?

B; 見たことがない(自分たちが生まれる前の人だということ一注)。彼が言った言葉は、この「白人の書」Ka[˥] La[˥] li.、つまり「聖書」Li. Hpu Li. Daw[˥] ができる前に言ったことだ。

A; アテフジュが言ったのは、「いつの日か、白い馬と白い象に乗って戻ってくるだろう」と言ったのだ Te[˥] nyi k'o. mvuh[˥] hpu haw hpu ci[˥] leh te[˥] paw[˥] hk'aw. hko. la. tu. yo. ma. k'o[˥] ve. 「白人のところで本をもらって、それを抱えて帰ってくる」と言った Ka[˥] La[˥] geh li. ca ta[˥] la ve k'o[˥] ve. 昔、妻子と別れ別れになったあのアシャフジュの人々だということだ。××(詩的表現で不明)と言ったそうだ。「聖書」を抱えて(北へ)登ってくるという意味なのだ。

筆者; アテ、アシャフジュはキリスト教徒ではないよね?

B; あの時代はキリスト教徒の時代じゃなかった。キリスト教ではなかった。まだ(キリスト教徒に)なっていない(時代だ)。

筆者; (アシャフジュは)佛 fu. だったのか?

A; そうだ。

筆者; 非キリスト教徒の祭司 paw hku[˥] のような者だったのか?

A; ああ。当時は全く(キリスト教の)宗教祭祀をしていなかったのだ。

筆者; 彼はへパ(Heh[˥] Pa.、漢族)と戦ったのか?

A; そう。軍人だった baw[˥] pa. te ve.

筆者; それで勝てなかった?

B; 勝てなかったから、彼らは逃げていったのだ hpaw k'ai ve.

筆者; 死んだのではなく、逃げた?

B; そう。

筆者; タイにいたときにも(アシャフジュの)話だけ聞いた aw. hkaw[˥] ceh. ti[˥] ka[˥] ve.

A; そうだ。話しか聞けない、ここでも(実際に目には)することはできない昔の人だということ一注。

7. 勳糯佛

筆者は勳糯 Meun̄ Neū 村を二度訪問した。1度目は2011年09月05日で、京都大学大学院生の堀江未央氏を伴っていた。2度目は2012年07月09日で、木夏郷の政府幹部たちに連れて行ってもらい、ムヌ村の幹部(男性、30歳代?)に案内してもらった。

「勳糯」の名は、かつての「佛地」として文献にもしばしば登場する。村の幹部の話からも、かつて「勳糯佛」が有力な佛のひとつだったことが分かる。他書と同様に勳糯村の佛房も文化大革命期に破壊されたが、現在は新しく再建中である。

現在の村の祭祀は、再建中の佛房よりもむしろ村の

上方に建てられた祭祀場(しばしば「焼香場」 sha tū kuī と呼ばれる)を中心としている。

李氏(村の幹部、男性、30歳代?)に、ムヌ村の村の祭祀場に案内してもらい、話を聞いた。

資料7-1(インタビュー) 李姓幹部(男性、30歳代?)、2011年09月05日

<村名><シャン族>

ムヌ村のラフ語の村名は「ムヌ」 Meun̄ Neū である。理由を聞くと、昔、拉巴(?)にシャン人 Pī Chaw̄ が1~2人住んでいて、あの村はお腹を空かしている



写真 7-1 木夏郷勳糯村 2011年09月05日



写真 7-2 勳糯村。村内に小学校がある。 2011年09月05日



写真 7-3 木夏郷勳糯村の「牡帕密帕伝承基地」 2011年09月05日



写真 7-4 再建中の「パイェ」。下方の広場と祭祀場。 2011年09月05日



写真 7-5 再建中の「パイェ」。下方の祭祀場。 2011年 09月 05日



写真 7-6 下方の祭祀場前の焼香場。 2011年 09月 05日



写真 7-7 下の祭祀場の広場に植えられた木。 2011年 09月 05日



写真 7-8 下方の祭祀場から上方の祭祀場に行く道 2011年 09月 05日

meu、と言ったという話があると、笑って話してくれた。

ムヌ村は 200 戸余りの大きな村で、6つの組 (hk'a) に分れている。

<現在の祭祀><文化振興>

ムヌ村は、村の祭祀場 hk'a u sha tu kui、を新しく作っているところである。村を見下ろす山の斜面が削られて何段か平らにされていた。上下に分れて2つの焼香所があった。上方の焼香所は今でも使っているという。オリ aw, li (祭祀) をするときには上方に祭司 (「焼

香者」 sha tu pa-) が登り、線香を点す。他の人が下の方の焼香所でも焼香する。このように2つ焼香所があるのは、李氏によると、昔からのオリ aw, li (祭祀の決まったやり方) である。

<時代変化><ワ族>

「ガイファン」 (「解放」) 前には、ワ族 A Va、がよく攻めてきた baw la ve。ムヌ (村) ばかりが戦っていたが、(ワ族には) ムヌ (村) しか勝てなかった。アヴァがよく首狩りにやってきた。ムヌ (村) と数ヶ村が、それに対して戦っていた。周辺のラフ族村の中に



写真 7-9 上方の祭祀場 2011年09月05日



写真 7-10 上の祭祀場の焼香跡 2011年09月05日

写真 7-11 上と下の祭祀場の間の森に捨てられた儀礼具。
北タイの赤ラフ族の儀礼具「コム」kaw mu[˥]と似ている。 2011年09月05日

は、ワ族と近く、親しくしていて、攻撃されない村もあったが、ムヌ（村）が中心になって戦った。

<昔の祭祀><佛><ワ族>

村の祭祀場（「焼香所」sha tu[˥] kui[˥]）で焼香していると、ワ族の弾に当たらなかった（神的に守られていたとい

うこと一注）。祭司（「焼香者」sha tu[˥] pa[˥]）はさかんに焼香し、他の者が戦っていた。

<佛><伝承>

ムヌ村には昔、鉄砲で撃たれても身体に弾が通らない人々がいた。例えば、祭司（「焼香者」sha tu[˥] pa[˥]）はそうだった。

<文化振興>

一年前から（換算すると、2010年から）、ムヌ村は、「ムパミパ伝承基地」になっている。

<時代変化><米国>

「ガイファン」（「解放」）前には、瀾滄に、アメリカ人の某という者がいた。悪いやつだ。ムヌ村はその一味と戦った。ムヌ村の者は「人肉を食べる」chaw sha ca[˥] ve[˥] といって恐れられていた。（実際そんなことはなかったが）そう言われるままにまかせて、恐れさせていた。

<佛><昔の祭祀>

ムヌには昔、佛 fu[˥] がいた。いくつかの周辺村は、正月、六月、八月に（?）、ムヌに参りに aw, li[˥] yu[˥] ve[˥] 来ていた。カラ（侏朗）、ナルー（南六）、パトー（漢語名不明）、ハフマ（哈卜吗）、タパレ（大邦利）の村々だ。

<現在の祭祀>

村の上方 hk'a[˥] u[˥] にある「焼香所」sha tu[˥] kui[˥] は、村を守るためのものである（村の繁栄と安寧を司る祭祀場だということ一注）。

村人が病気 ma[˥] cheh[˥] sha[˥] の時は、村の上方の「焼香所」（村の祭祀場）に行き、ご飯とごちそうを捧げる。

<佛><昔の祭祀>

ムヌは「大佛」で、カラ（侏朗）は「二佛」だった（佛 fu[˥] の地は複数あり、序列があった。それがこのように表現されていると考えられる一注）。

<時代変化><文化大革命>

ムヌイエコ Meun[˥] Neu[˥] Yeh[˥], hk'aw[˥]（山中のムヌ村という意味一注）という村が、（ムヌ村の）近くの北の方にある。ムヌ（村人）の中で、「少し持っている者」（金持ちという意味一注）が文革の時に、ヘパが殺しに来るといので、殺されるのを恐れて逃げた Heh[˥] Pa[˥] peh[˥], che[˥], la[˥] leh daw[˥] peh[˥], kaw[˥] leh hpaw-e[˥] ve[˥] ところだ。今、10 数戸が住んでいる。

<佛><時代変化><文化大革命><文字><禁忌>

ムヌイエコ村には、地主の人々がもっていた「本」aw, ben[˥]（漢語の「本」ben にラフ語の接頭辞 aw, を付けて用いている一注）がある。（佛 fu[˥] の）管理者で、牛肉を食べないとか、酒を飲まないとかいうオリ aw,

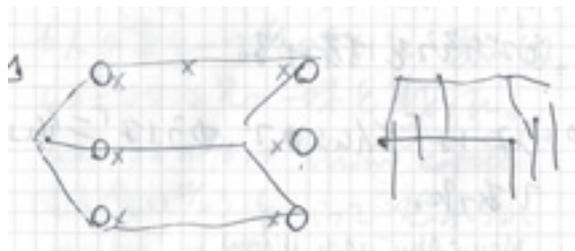


図 7-1 ムヌ村の祭祀場の2つある「焼香所」のうち上方のもの。×印は焼香の場所。 2011年09月05日

li (慣習、決まり、戒律一注) に反して、死んでしまった者が相次いだため、上の村から、パイエ (hpa, yeh、佛房) 再建に当たってここへもってこようとしたが、やめた。

<佛><昔の祭祀><文化振興>

(現在再建中の祭祀場の広場の) 真ん中にあった石は、昔パイエ hpa, yeh (佛房) があったときに、柱をのせていた礎石をもってきたものだ。

<現在の祭祀>

上の焼香所は、今も使っている。祭司(「焼香者」 sha tu pa) はいないが、「言葉」 aw, hkaw を知っている者は何人かいる(「言葉」とは、祭祀の際に唱える言葉である。村の正式な祭司でなくとも、「言葉」を知っていれば、祭司ができることを表現している一注)。

<現在の祭祀>

(村に) モーパ maw pa (呪医) はいる。モーパと祭司(「焼香者」 sha tu pa) は違う。

<佛><昔の祭祀><伝承>

(佛 fu がいて) 焼香していた sha tu ve 頃は、豚や鶏を飼っても va, hu g'a hu、それほど死ぬことはなかった(かつてきちんと祭祀を行っていた時代には、神力的な力の加護があり、災厄がなかったという意味一注)。

<佛><時代変化><文化大革命>

「ガイファン」(「解放」) 前にはパイエ hpa, yeh (佛房) があった。自分が物心のついた頃には、祭司(「焼香者」 sha tu pa) はもういなかった。(自分は) 見たことがない。「文化大革命」の時にパイエは叩きつぶされた。今年(2011年)からパイエの再建を始めた。チョモ chaw maw (年長者) の言うことを聞いて始めた。

<佛><現在の祭祀><文化振興>

「馬日」 mvuh nyi に焼香する sha tu ve。月に3回する。パイエ hpa, yeh (佛房) 再建の作業も馬日にしかやらない。(パイエの再建には) 「国家」から予算は出ない。村内の男たちだけが労働に出て、働いている。

<佛><昔の祭祀><伝承>

Yaw Ceh、という木を(2つあるうちの) 下方にある「焼香所」 sha tu kui の広場に並べて植えている。Yaw Ceh には、蛇が登っていたが、祭司(「焼香者」 sha tu pa) 焼香した sha tu ve ら、降りてきたという話がある(yaw ceh. ならば「竹の一種で、多くの人がそれに対してアレルギー反応を起こす」と Paul Lewis のラフ語辞典 (Lewis 1986: 360) にある一注)。

<佛><文化振興>

ムパミパ基地よりも、パイエ hpa, yeh (佛房) 再建の方が重要である。ムパミパ基地は、客が来たら、見て楽しむだけのものだ shu la, k'o, nyi g'eu ve ceh.。

<佛><昔の祭祀><伝承>

昔の人は「科学技術」 kaw shaw, la, meu を知らなかったもので、米に虫がついたら、パイエ hpa, yeh (佛房) に線香を点し、灰を持って帰って田んぼに撒いたら、虫がいなくなったそうだ。

<現在の祭祀>

「食新米祭」 Ca, suh ca ve は曆に関係なく ha pa ma ca ve、各自がよい日にやる。米が実った後に Ca, shi meh, la, hta にやる(村や地域によっては、米がほんの少し実り始めた頃にやるところも多い一注)。

1月15日 ha pa taw, te nyi (農曆一月の満月日) に、村の祭祀場(「焼香所」 sha tu kui) で祭祀 aw, li をする。

<現在の祭祀><文化振興><禁忌>

上の「焼香する祠」 sha tu kui, yeh には女は行くことが出来ない。

「焼香する祠」 sha tu kui, yeh は2つ作るものだ。

「老人(年長者)がお茶を飲むところ」 chaw maw la, ca daw, kui も作っている。

<現在の祭祀><伝承>

焼香 sha tu してその灰を少し田に撒くと、虫も去り、いなくなる peu meu ka, hpaw-e ve, ma hk'aw, cheh o.。

<移動><台湾>

近くの村に人で台湾に行き数十年ぶりに戻ってきた人が1人いる。1958年頃にお腹が空いて逃げて、軍人について台湾に行ったのだろう。

<移動><タイ>

ひとりタイに行って帰ってきた人がいる。老人でもう死んだ。

筆者は2012年07月09日に勳糯村を再訪した。今回は、郷政府の役人2人に付き添われ、村では30歳代と見られる男性幹部の案内を受けた。初めに村内の



写真 7-12 勐糯村のムパミパ伝承基地 2012年07月09日



写真 7-13 ムパミパ伝承基地前の広場。祭祀やイベントが行なわれる。 2012年07月09日



写真 7-14 ムパミパ伝承基地内の展示。中国の第一次国家級無形文化遺産リストに載せられたラフ族の口頭伝承「ムパミパ」のパネル。



写真 7-15 ムパミパ伝承基地内の展示。中国第二次国家級無形文化遺産リストに登録された「ラフ族の瓢箪笙踊り」のパネル。 2012年07月09日

「ムパミパ伝承基地」を見学し、次に再建中のパイェ（佛房）を見学した。前回と違い「ムパミパ伝承基地」の内部展示を詳しく見る事ができた。前回も見た再建中のパイェは、セメントが使用されるなど、再建が進んでいた。

以下は、男性幹部の案内にしたがって、ムパミパ伝承基地と再建中のパイェについて報告する。

資料 7-2 (インタビュー) 「ムパミパ伝承基地とムヌ村の祭祀場を見学、幹部(男性、30歳代?)の案内、2012年07月09日

ムヌ村 シャトウク 1,485メートル
 下方のシャトウク 1,520メートル
 上方のシャトウク 測り忘れ

<現在の祭祀>

幹部自身も村の祭祀場(「焼香所」 sha tu⁻ kui.)にきたことがなかったという。祭司でなければ、他の人が

村の祭祀場に来ることはまれなようである。

<村の概況><漢族>

ムヌ村にはへパ Heh⁻ Pa. (漢族)は住んでいない。

<佛><文化振興>

筆者が前年(2011年)に来た時に比べて、パイェ hpa, yeh. (佛房)再建中の場所には、セメントの建物などが新しくできている。再建作業は進んでいる。

<現在の祭祀>

下方の「焼香所」 sha tu⁻ kui.には、玄米 ca, hk'a、餅などを捧げる tan[~] ve. 上方の「焼香所」とは違う。下方の「焼香所」では、祭祀を行なう aw, li[~] te ve. 下方の「焼香所」が何という名前かは知らない。(上方も下方も)すべて「焼香所」 sha tu⁻ kui.と呼んでいるだけだ。

<現在の祭祀>

(「焼香所」 sha tu⁻ kui.)の祠の中には、木の祭壇と焼香の竹筒があるだけである。

<現在の祭祀>

(祭祀のやり方としては)線香を点す sha tu⁻ ve の



写真 7-16 勐糯村の祭祀場にいたる階段。前年は土の道だったが、セメントの階段が作られていた。



写真 7-17 勐糯村の祭祀場のうち下の部分。焼香所の前にふたつのあずまやがあり、広場がある。 2012年07月09日



写真 7-18 勐糯村の祭祀場のうち下の部分。ふたつの東屋の奥に、焼香所がある。 2012年07月09日



写真 7-19 勐糯村の祭祀場のうち下の焼香所。 2012年07月09日



写真 7-20 勐糯村の下の焼香所。内部は簡素で、木の祭壇と焼香の竹筒があるだけである。 2012年07月09日



写真 7-21 勐糯村の下の焼香所。焼香の跡が見える。 2012年07月09日

みで、蠟燭は点さない *peh⁵ ma² tu²* だという。「老人」*chaw ma²* がひとりいて、その人が「点す」*tu² ve*。馬日 *mvuh² nyi* に「老人」がここ(村の祭祀場)に来て、「点す」*tu² ve*。満月、新月 *ha pa taw² ha pa che²*、でなく、「一回り」*te² jaw* (ここでは12日が「一回り」である一注)

に一度だけ「点す」*tu² ve*。

<現在の祭祀><女性の禁忌>

上(上方の焼香所)には、女性は行くことが出来ない。

<現在の祭祀><禁忌>

(上方には)柱と屋根のみの「焼香所」*sha tu² kui²* が



写真 7-22 勳糯村の上方の焼香所。下方の焼香所と違い、セメントもなく、前年と変化ない。 2012年07月09日



写真 7-23 勳糯村の上方の焼香所。内部は祭壇も焼香壺もない簡素なものである。 2012年07月09日

ある。中に入ってよいかは（幹部にも）分からない。女性は来ることができない。「老人」chaw maw^ˇでなければ、ほとんどやって来ない。若者 ya^ˇ nch. は来ない。
 <現在の祭祀>

「老人」chaw maw^ˇでなければ、(祭祀場や祭祀の)「意思」(漢語の借用、「意味」という意味一注)は知らない。「老人」、祭司(「焼香者」sha tu^ˇ pa.)でなければ知らない。
 <現在の祭祀>

祭司(「焼香者」sha tu^ˇ pa.)はモーパ maw^ˇ pa. (呪医)ではない(祭司と呪医とは違う一注)。(実際には)ここ(ムヌ村)の祭司は、呪医もやっているが。

<現在の祭祀><禁忌>

(上方の)「焼香所」sha tu^ˇ kui. の近くなので、立ち小便してはならない。小便したいのなら、もっと下に行ってしまうべきだ。(とはいえ、下方の「焼香所」と同じぐらいの高さのところ、小便してよいと言われた)。

<佛><文化振興>

(パイェ hpa. yeh. (佛房)の再建のために)県(瀾滄県)が2~3千元助けてくれる。村人も出す。

資料 7-3 (インタビュー) 作朗八隊の村人たち(男性、30~60歳代?)、瀾滄県富邦郷作朗村八隊にて、2012年07月15日

その「パ」hpa. (僧)(かつて作朗にいたという「ジャファパ」Ca. Fa^ˆ hpa. 一注)以前には、代々長く「パ」がいたそう。 「ジャカーパ」Ca^ˆ K'a^ˆ hpa. とか、「ジャファ」Ca. Fa^ˆ とか……。作朗にひとりいた。東主、〇〇(不明)、××(不明)、ムヌ(勳糯)Meun^ˆ Neu^ˆ にもいた。ムヌが「兄」aw. u hpa^ˆ で、ここ(作朗)が

「妹」aw. nu^ˆ ma (オウパ aw. u hpa^ˆ とは実際には、自分の妻の兄または弟で、その姉または妹の守護者として、姉または妹の夫に対し優位な立場にある一注)……東主はここ(作朗)の言うことを聞いていた cho. ka. hkaw^ˆ ti^ˆ na ve. オリ aw. li^ˆ (重要な年中祭祀一注)の時には、ここ(作朗)に参りに来た。

8. 南六村

木戛郷南六村は、木戛鎮から 10 キロの北方にある村で、その下に 19 の村民小組がある。人口は 2,680 人で、そのうち農民は 2,545 人である。村の主要な生業は農業と牧畜である（云南省普洱澜沧拉祜族自治县木戛乡南六村数字乡村 -- 新农村建设信息网 <http://www.ynszxc.gov.cn-S1-S1098-S1195-S1206-S110973->、2012 年 12 月 07 日アクセス）。

資料 8-1（観察とインタビュー） 木戛郷勐糯村の《牡帕密帕》伝承基地に掲げられた写真、2012 年 07 月 09 日

木戛郷勐糯村の《牡帕密帕》伝承基地には、以下のような写真が掲げられている。写真の下には、「拉祜厄沙波」という説明が見えるが、これはラフ語に漢字を当てたもので、「ラフのグシャの池」La[˥] Hu. G[˥]ui. sha po という意味である。池の向こう側には、木で作られ茅で屋根を付けられた祠が見える。案内してくれた勐糯村の副村長（男性、40 歳代？）は、写真について、南六村のもので、南六村では「池」i[˥] ka[˥] g[˥]eu. po と「瓢箪笙作り」naw- te ve が保護単位になっていると説明してくれた。しかし、これまで南柵や安康で見たように、村外れに祭祀場が作られ、近くに神聖な池があることはよくあることである。「グシャの池」という説明が示すように、南六でこの祭祀場と池とがいまだに信仰の対象となっている可能性がある。



写真 8-1 木戛郷勐糯村の《牡帕密帕》伝承基地に展示されていた写真「拉祜厄沙波」 2012 年 07 月 09 日

9. 邦利村

9 邦利村は、木戛郷の町から近い村である。筆者はここを2012年07月10日に木戛郷の役人ふたりに連れられて訪れ、村で招魂儀礼を観察した後、村の祭祀場を案内され、最後に村公所で住人たちと1時間ほど歓談した。そのうち本章は、邦利村の村の祭祀場と現在の祭祀およびかつていたという「佛」*fu* について観察とインタビューから得られたデータの報告である。

邦利村にはかつて「佛」がいて佛房があったというが、「文化大革命」の時代に禁止され、今はもうない。

村の祭祀は、村の上方にある祭祀場を中心におこなわれる。村の祭祀場と隣接の広場は、最近セメント敷きされたが、幹部によれば、県政府の援助によるものである。

資料9-1(観察とインタビュー) 邦利村の若い幹部(男性、30歳代?)、老人幹部(男性、60歳代?)、2012年07月10日

<現在の祭祀>

(村の祭祀場の)階段を上ったところに、3つの建物がある。向かって右側は、「アミジエク」*a. mi je- kui* で、ここで線香に火を点けて、ここから火を点けた線香を、「焼香所」*sha tu- kui* にもってゆく。

下の建物は2部分に分れていて、下方は長太鼓の保存場所だった。その建物のふたつに分れた奥の部分に「焼香所」*sha tu- kui* がある。

長太鼓の保存場所と「焼香所」をもつ上記の建物のすぐ後ろには、地面に「焼香所」*sha tu- kui* がある。

その地面の「焼香所」の奥に、ひとつ建物があり、「焼香所」のみがある。

正月や六月(「六月二十四」)には、村の祭司(「焼香者」*sha tu- pa-*)がこの村の祭祀場に1人で「登り」*ta- e ve*、焼香する。蠟燭は点けない。

資料9-2(観察とインタビュー) 邦利村の若い幹部(男性、30歳代?)、老人幹部(男性、60歳代?)、2012年07月10日

<現在の祭祀> <村の祭祀場>

若幹部；ここは「墓場」*le. peh˘ teh kui* だ(若幹部の方は、村の祭祀場を「墓場」と呼び、そこで行なわれる村の祭司を「墓場を修繕する」*le. peh˘ gu ve* と呼んでいたが、老幹部はそのような呼び方をしなかった。若幹部の用法には、漢語あるいは漢族祭祀の影響

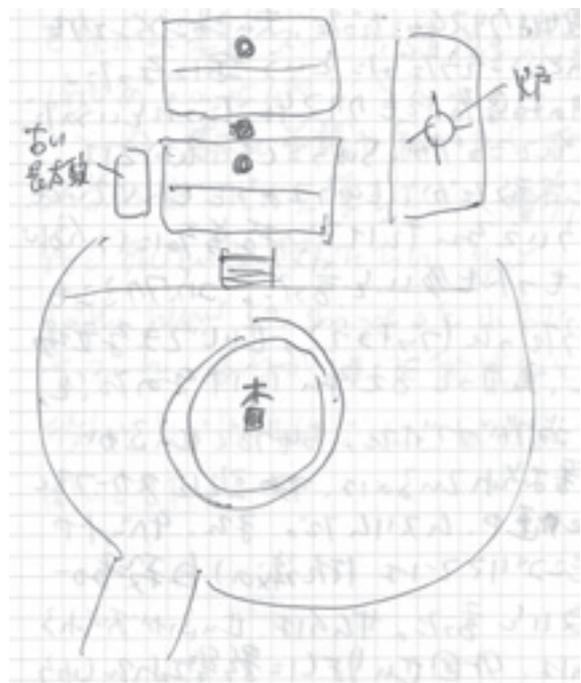


図9-1 邦利村の祭祀場。図中の黒丸3カ所ので焼香する。
筆者の手書き図、2012年07月10日



写真9-1 邦利村の祭祀場。広場の向こうに焼香所が見える。
広場とそこに到る道は、政府の援助でセメント敷きにされたという。2012年07月10日



写真 9-2 邦利村の祭祀場の物置になっている建物。
2012年07月10日



写真 9-3 邦利村の祭祀場。下方が物置、上方が焼香場になっている建物。 2012年07月10日



写真 9-4 邦利村の祭祀場。下部分が物置になっている建物の上部分に、焼香場がある。 2012年07月10日

があるのかも知れない一注)。

老幹部；「焼香場」*sha tu⁻ kui* は3カ所ある。(この建物の)中は物置になっている。あちらは火をおこす場所だ。これは(長太鼓を?)打つためのものだ。



写真 9-5 邦利村の祭祀場。うち捨てられた古い長太鼓。
2012年07月10日

昔ここに老いてあった。(その後、その建物の外にある古い長太鼓を示して)これが長太鼓だ。古い。もう使っていない。壊れている。

<現在の祭祀>

老幹部；(邦利村の祭祀では)線香のみを点す。

若幹部； 蠟燭は正月に、「墓祭祀をする時に」*le, peh⁻ te hta⁻* だけ、点す。

<現在の祭祀><禁忌>

若幹部； ここには女も来ることができる。来るとはできるが、(焼香する建物の)中には入ってはならず、外にいないなければならない。

<現在の祭祀>

正月と墓祭祀 *le, peh⁻* の時だけ、ここに来て(線香を)点す。(墓祭祀は)明後日(2012年07月12日)にやる。祭司(*sha tu⁻ pa⁻*、「焼香者」と村の人々がここに来る(しかし、後で見ると、上方にある焼香場)上がるのは、村の祭司のみである一注)。

若幹部； 墓祭祀 *le, peh⁻* とは、へパ (*Heh⁻ Pa⁻*、漢族)の「六月二十四」(の祭祀)のことだ。「火把節」だ。ラフ語では「墓祭祀」*le, peh⁻* と言う。村中の人たちがここに来て、ご飯を捧げる *aw- tan⁻ ve*。豚はつぶさない。ご飯だけだ。ご飯を捧げた後で、皆で共食する *peh, ca⁻ ve*。



写真 9-6 邦利村の祭祀場。火をおこしておく建物。
2012年07月10日



写真 9-7 邦利村の祭祀場。火をおこしておく建物の内部。
2012年07月10日



写真 9-8 邦利村の祭祀場。真ん中手前と奥の建物の間にある焼香場。 2012年07月10日

老幹部； 各人が玄米 *ca, hka* をひと皿ずつ捧げる。
(広場の) 木の脇に置く。

<現在の祭祀><禁忌>

両幹部； 肉は(村の祭祀場では) 食べない。

老幹部； (酒も) ここでは飲まない。家では飲む。
家では肉も食べる。

<現在の祭祀><神と精霊>

筆者； 何故？グシャの居所だと食べないのか？

両幹部； (笑い)。グシャは見ることはできない。昔、
チョモ (*chaw maw*、老人、祖先) のころからそうし
てきたのだ。

筆者； しかしこういう祭祀をするのは、グシャに
対してする (*G'ui, sha ca ve*、グシャを求めるが原義一
注) のではないのか？それとも精霊に対してする (*ne'*
ca ve、精霊を求めるが原義一注) のか？

老幹部； グシャに対してするに決まっている *G'ui,*
sha ca ve ti' yo。精霊祭祀は、ここですることはできな
い。向こうでやる。

若幹部； 道でやる、道端に(精霊を)捨てる *ba'*
ve law。

筆者； 祭祀 (*sha tu' pa*、「焼香者」とモーパ (*maw'*
pa、呪医) は別だよね。

両幹部； その通りだ。

<現在の祭祀><村の祭祀場>

ここは火をおこすところ。ここで線香に火を点けて、
向こうに持って行って点す。ここで火を点して、「山
神の焼香場」(*sha tu' shan' sheu*、「焼香山神」)に行く。

(3カ所ある焼香場のうち)まず上で(線香を)点し、
下に降りてまた点す。上の方から順々に点してゆく。

<現在の祭祀>

(真ん中手前と奥の建物間の地面に、焼香場が作ら
れている。)

老幹部； まず上(の建物の中の焼香場)で(線香
を)点し、次にここ(地面の焼香場)で点し、また下
に降りて(真ん中手前の建物の中の焼香場)点す(つ
まり、上から順々に3カ所で線香を点す一注)。

<現在の祭祀>

真ん中奥には木造で、茅葺きの「焼香所」*sha tu'*
*kui*がある。入口の扉から入ると、正面に木の祭壇が
ある。祭壇前の地面にも焼香の跡がある。

老幹部； 祭壇の上の2つの器には、ご飯を供え、
水を供える。茶は供えない。

老幹部； ここ(広場の上の焼香場)には祭司 (*sha*
tu' pa、「焼香者」)だけが来る。村人たちは下(の広場)
にいる。

老幹部； (祭壇横の竹筒について)これは水を汲
むもの。そして祭壇の器に水を注ぐ(そうやって水を
供えるということ一注)。

屋根の茅 *zuh* は毎年新しくする。「六月」(の祭祀
の時)に。ここで祭祀をする度に新しくする(とする



写真 9-9 邦利村の祭祀場。真ん中奥の建物。 2012年07月10日



写真 9-10 邦利村の祭祀場。真ん中奥の建物の内部。 2012年07月10日



写真 9-11 邦利村の祭祀場。真ん中奥の建物内部の祭壇。 2012年07月10日



写真 9-12 邦利村の祭祀場。真ん中奥の建物内部の祭壇。ご飯と水を供える器と線香が置かれている。 2012年07月10日

と、正月と「六月二十四」にこの村の祭祀場で祭祀が行なわれるので、それらの祭祀に際して、祭祀場が清掃され、茅が替えられるということになる一注)。

<現在の祭祀>

(「六月二十四」の祭祀について、) 明日 (2012年07月11日) は鶏日 g'a nyi なので、何もしない。明後日 (2012年07月12日) は犬日 hpeu nyi で、祭祀場の掃除をする。その次の日 (07月13日) は豚日 va nyi で、村人皆で (村の祭祀場でご飯を捧げた後)、皆でご飯を食べる。(07月14日の) 鼠日 fa nyi で、野良仕事を再開する heh hko te k'ai ve。

儀礼の名前は「六月二十四」と言う (ラフ語でも漢語借用で「六月二十四」と言う一注)。

「六月二十四」の祭祀では、松明は点さない a kui ma tu。 (他村と違ってここでは) 点さない (漢語で「火把節」とも呼ばれるように、ラフ族の「六月二十四」の祭祀では、松明を点す村も多い一注)。線香だけ点す sha ceh, tu ve。

「六月二十四」に、鶏や豚はつぶさない。ご飯だけ捧げる。各家が白米一杯を持ち寄って、それを集める。招魂儀礼はしない。ご飯を供えるのも、容器ひとつではない。各家が一對ずつ供える aw, te ceh, te ceh, teh ve。鶏や豚はつぶさない。よって鶏や豚による骨占いもすることはない。

(村の祭祀場の広場を指して) ここでは正月の時に輪踊りを踊る k'a hk'eu ve。

<現在の祭祀><文化振興>

(村の祭祀場(「焼香所」 sha tu kui,) 下方の広場とそれに続く村内の道は、) 「去年」(単純計算では2011年一注) セメント敷きにされた。「国家」 kaw, cia が「水泥」(セメントを意味する漢語一注) を援助してくれた。村人が労働を供して作った。

<佛><時代変化><文化大革命>

昔はこの村にも「佛」 fu がいた。「フイエ」 fu, yeh (佛房) もあったが、今はもうない。「文化大革命」のときに禁止された。



写真 9-13 邦利村の村内道路 2012年07月10日

10. 佻朗佛

「佻朗佛」の名は文献に出てくることは少ない。しかし、筆者が2012年07月15-16日に瀾滄県富邦郷佻朗村八隊を訪ねると、住民たちからかつてあった有力な佛房と「パ」hpa、(僧)について多くの話を聞くことができた(hpaは、シャン語で「仏教僧」を意味する「パ」に由来するラフ語一注)。

佻朗八隊の旧佛房は、セメント敷きされてバスケットボールコートが作られており、再建の途中であった。信仰の対象としてでなく、ラフ族の伝統文化の場所として再興されつつあった。

以下では、かつての「佛」fu、現在の祭祀、文化振興のテーマを中心に、佻朗村八隊で得たデータを報告する。

資料 10-1(インタビュー) 佻朗八隊の村人たち(男性、30～60歳代?)、瀾滄県富邦郷佻朗村八隊にて、2012年07月15日

<現在の祭祀>

オボが大きくなるように bon ui ha ui (より直訳的には、「オボが大きく、心が大きく」一注)、行なう。

招魂儀礼では、鶏骨占いをする。

招魂儀礼には、「ハズマ」と「ハトレ」の二種類がある。

<キリスト教>

ボヤ bon ya (キリスト教徒)は、線香を点さない、墓を直さない sha ma' tu', le. peh' ma' gu (後者は、清明節などの掃墓を含めた祖先崇拝を行なわないという意味一注)

<現在の祭祀>

蠟燭を点す peh' haw. tu' ve は、ボテヴェ bon te ve (善行をなす儀礼)、ハトレ(招魂儀礼の一種)、結婚式の時にのみ点す。(普段の実践では、線香を点すことが中心で、蠟燭は基本的に点さない一注)。しかし、「老人語」chaw maw' hkaw (慣習的な表現一注)では、焼香点蠟 sha tu' peh' tu' と言う。

<時代変化><文化大革命>

糯福のポル Paw' Lu' (キリスト教徒男性の名前、パウルのラフ語化一注)は、今はタイ国に住んでいる。昔、家の土地を売るといので、(中国に)戻ってきた。

..... 昔「文化大革命」の時に、ジャワ Ca. Va. (ラフの男性の名前、「豚男」という意味一注)は人に殴られて、追われて逃げた。「地主」だったので。それで逃げた。..... (中国国外に)逃げて、戻ってくる者も、来ない者もいる。昔の「地主」で(中国国内に)留まった者は、他の農民と同じように暮らしている。

<時代変化>

ここ(佻朗)では他よりたくさん土地を分けた。(一世帯に)10畝(中国の土地単位、1畝は6.667アール一注)ずつ分けた。

<現在の祭祀>

家の「焼香所」sha tu' kui. では、線香のみを点す。招魂 ha hku ve の時だけ、2種類点す。(ジョー祭祀で)ジョー jaw を追い出した後、招魂する aw. ha hku ve。ジョーを追い払わないと、招魂できない。ジョーとは「家の精霊」yeh. ne' だ。レオタ leh'-o' ta' を貼っている(家に入らないようにしている)やつだ。(ジョー祭祀で)ジョーは、村の外れに持って行って、そこに捨てる。

「祭祀が多い、ラフ族には」Te ma', La' Hu. chi. 「ネ」ne' (精霊)はたくさんいる。「森」heh pui' hk'aw にも、川にもいる。「コスネ」がいる。「ムテネ」がいる。(農曆)三月の新月の日 ha pa che. te' nyi には、○○(不明、祭祀の名前)する。

モーパ maw' pa. (呪医)は、たくさんいる。

<佛><時代変化><文化振興>

昔、「パ」hpa、(僧)がいた。建物 yeh. はこわされてもうないが、今、再建している。

大木がある。昔「パ」がいたが、死んでしまった。「大佛爺」だ(高僧に対する敬称一注)。昔は「パ」がいて、「森で積徳をしていたそうだ」heh pui' hk'aw bon te ve ce'. 「パ」は(殺されたのでなく)老いて亡くなった。

「大佛爺」がいた時には、村人が玄米 ca hk'a を捧げて、大佛爺にご飯を食べていた。毎日、当番の村があつて米を供し、「佛の管理者」fu. guan pa. がご飯を食べさせていた。「パ」hpa、(僧)は、農業をしなかった heh ma' te ve (仕事をしなかった一注)ので。

「パ」hpa、(僧)には妻もいなかった。結婚してはならなかった aw. mi' ma ka. ma' g'a ca. 「パ」は1人だ

けいた。自分が子供の頃に見た。背の高い男で、「ジャファパ」Ca, Fa^h hpa, (ジャファ僧)と言った。ラフ人だった。

「パ」hpa, (僧)は、毎日、読経して過ごしていた aw, hkaw^h yaw leh cheh^h ve。正午になると、長太鼓 ca, k'o- が叩かれた。時間が来ると(決まった時間に一注)、読経していた aw, hkaw^h yaw ve。(読んでいたお経は)ラフ語か漢語か分からない。彼(「パ」)は、字をよく知っていたそうだ Yaw^h tch, meh^h shi- ja^h ce^h (高い知識があったということ一注)。

人が亡くなると、「パ」hpa, (僧)が「読経して、(死者の)道案内をした」aw, hkaw^h yaw leh shi- hko- e pi^h ve。死の国へ連れて行ってあげた。

その「パ」hpa, (僧)が亡くなって、次の「パ」はいない(ジャファパが最後の「パ」だった一注)。今は「パ」はいない。

その「パ」hpa, (僧)(ジャファパ)以前には、代々長く「パ」がいたそうだ。「ジャカーパ」Ca^h K'a^h hpa, とか、「ジャファ」Ca, Fa^h とか……。作朗にひとりいた。東主、〇〇(不明)、××(不明)、ムヌ(勅糲) Meun^h Neu^h にもいた。ムヌが「兄」aw, u hpa^h で、ここが「妹」aw, nu^h ma (オウパ aw, u hpa^h とは実際には、自分の妻の兄または弟で、その姉または妹の守護者として、姉または妹の夫に対し優位な立場にある一注)……。東主はここ(作朗)の言うことを聞いていた cho, ka, hkaw^h ti^h na ve。オリ aw, li^h (重要な年中祭祀一注)の時には、ここに参ってきた。……。南柵もあった。(佛地として)主なものには、南柵には「99佛」あったそうだ。……。拉巴はキリスト教徒 bon ya^h で、「佛」はいない。……。昔は「パ」hpa, (僧)がいたが、今はキリスト教徒 bon ya^h だ。「パ」は点蠟焼香する peh^h tu^h sha tu^h ve yo、キリスト教徒は焼香しない bon ya^h leh, sha ma^h tu^h ve。

<文化振興><佛>

今は「パ」hpa, はない。建物 yeh, を作っている。「国家」kaw, ca が援助してくれて、作っている。……。今はまだその場所の土地がならされているだけだ。建物ができたら、「パ」を探すのではなく、踊りをしたり、バスケットボールをしたりするのだ。「パ」を探すことはできない。

<現在の祭祀>

焼香 sha tu^h ve のためには、山神の大祠 sha^h sheu, yeh, lon^h がある。……。「ジュース」(?)の時に(そこで線香を)点す。

<佛>

「ヨの木」yaw^h cch, が残っている(ルイスの辞書によれば、yaw^h cch, とは smooth bamboo の一種という(Lewis 1986: 360)一注)昔「パ」hpa, (僧)がもって来たものだ。昔「パ」が植えたものだ。(その佛房跡では佛房再建中だが)今はセメントで、地盤を作っているだけだ。

<佛>

昔は、(佛の)「管理者」guan pa- がいて……。 (不明)

<現在の祭祀>

「八月十五」には、踊り合う k'a hk^h'eu^h da, ve。

八月十五、正月 hk^h'aw, hta^h に「パ」に参る。……。それが終わると、野良仕事を始める heh hko^h k'ai ve。

<時代変化>

昔は「社」で一緒に食事していた。食べ物が多かった。

<佛><時代変化><文化大革命>

「パ」hpa, (僧を中心とした祭祀)をしていた時、「社」はなかった。Hpa, te hta^h leh, sheu^h ma^h te。「パ」をしていたのは、「ガイファン」(「解放」)前のこと。でも「パ」が亡くなって、間もない。……。「パ」だと(結婚できなかった)ので子供がなく、居所もなかった。昔の「一族の者」aw, vi^h aw, nyi が1人いて……

「パ」hpa, (僧)は亡くなって間もないので、見たことはある。俺の祖父は「佛の管理者」fu- guan pa- をしていた。「パ」にご飯を作って食べさせていた。(祖父は)「アテフグアン」A^h Teh Fu- Guan と言った。……。 (祖父は初めに)「シュージェ」というところにて、ここ(作朗)に婚入してきた。「ジャファパ」Ca, Fa^h hpa, と「アテフグアン」は一緒に住んでいた。時時間になると、ご飯を差し上げていた。

俺は58歳だから、「パ」hpa, (僧)がいたのは50年以上前のことだ。「パ」が亡くなったのは(19)80年、「カイファー」(「開放」つまり改革开放一注)の後のことだ。「大包乾」の頃だ。

「文化大革命」後も、「パ」はいた。年老いていたので(殺されたりせずに)放っておかれた。建物 yeh, (佛房)は壊れてしまった。「文化大革命」の時に、壊された。

「パ」hpa, (僧)の物は残っていない。……

「パ」hpa, (僧)の衣は、左前合わせの服だった。昔の色のない服で、ボタンも片方にひとつだけだった。綿で作ったラフの布の服だった。「パ」も村人も同じような服だった。「パ」が頭を剃っていたかどうか分からない。ラフの帽子をかぶっていた。ラフの帽子を。

モーパ maw^ˉ pa^ˉ (呪医) のような帽子だった。

「パ」 hpa^ˉ (僧) が「ズメ」(字) をどこで学んだのかは知らない。「パ」の偉い人 hpa^ˉ jaw^ˉ maw^ˉ のところだろう。

「パ」 hpa^ˉ (僧) は、「シャジュー」というところから来た。ここから遠くない。「兄」 aw^ˉ vi^ˉ pa^ˉ が「パ」と一緒に来たが、「兄」は犬肉を食べていた。「パ」は食べなかったが。

「パ」 hpa^ˉ (僧) は妻を持つことができず、子供もいなかった。

(作朗八隊の「パ」 hpa^ˉ (僧) の話には、他所と違い、不思議な話が出てこない)

資料 10-2 (インタビュー) 作朗八隊の住民 (男性、1963 年生れ 49 歳)、近所の男 (男性、40 歳代?)、2012 年 07 月 15 日

<時代変化>

自分は兔年生れだ。10 歳頃の時、食べ物が多かった (単純計算すると 1973 年の話一注)。

<結婚>

昔のラフは 16 歳で結婚した。

<佛>

「パイェ」 hpa^ˉ yeh^ˉ (佛房) は、自分が物心ついた頃はまだあったが、「解放軍」(人民解放軍) がやってきて壊してしまい、なくなった。その前はあった。

<佛><文化振興>

今は建物 yeh^ˉ はなく、土地をならして平地にしているだけ。今度、乾期に (建物を) 作る。

<政府・国家>

(村に新しく家を建てている場所がある。) 家を建てるのに 4 万元かかるが、そのうち 2 万元を国家が援助してくれる。260 軒建てるそうだ。毎年建てる。茅の家 (茅葺き竹作りのラフ族の伝統家屋一注) は、去年壊してしまった。

物を買う時にも国家から援助がある。バイクは 6~7 千元する。バイク、トラジ、テレビ、冷蔵庫、「太陽能」(太陽光温水設備) は、それぞれ価格の 13% の援助が国家からある。しかし、援助には期間が決まっている。

<現在の祭祀>

ラフはモーパ maw^ˉ pa^ˉ (呪医) を頼ると (病気などが) 治ることがある。「老人」 chaw maw^ˉ が死んだら、食べ物を捧げる ca^ˉ pi^ˉ ve。その後、招魂する aw^ˉ ha hku ve。「死人」chaw suh に食べ物を食べさせ ca^ˉ pi^ˉ ないと、「オハ」 aw^ˉ ha (魂) が戻ってこない。

「山神」の管理者 ha^ˉ sha^ˉ pa^ˉ はいない。前任者がしなくなったためだ。

「松明を燃やす」 a kui^ˉ tu^ˉ ve (火把節) の時、餅は供えない。「松明を燃やす」の時には、「ムシェパ」 meu^ˉ sheh^ˉ hpa^ˉ (餓鬼や貧乏神に似た存在一注) を追い払う。先日、犬日 hpeu^ˉ nyi に「松明を燃やす」をした。(農曆) 六月二十四だったので。この日は一年の半分 aw^ˉ k'aw^ˉ ji^ˉ ということで、「松明を燃やす」を行なう。「ムシェパ」を追い払う時には、唱えることができる人は、言葉を唱える。鎌 law^ˉ k'aw^ˉ を振り回し、水を撒いて、追い払う。(追い払った後で) 扉を閉める人もいる。

<現在の祭祀>

我々は線香を点す sha tu^ˉ が、蠟燭は点さない peh^ˉ ma^ˉ tu^ˉ。蠟燭は「ハズマ」(招魂儀礼の一種一注) や「ボテヴェ」 bon te ve の時にしか点さない。

<佛><時代変化><文化大革命>

昔は「パ」 hpa^ˉ (僧) がいた。言葉を唱え aw^ˉ hkaw^ˉ yaw ve、水を置いていた。……昔のことは覚えている。その「パ」は老いたために亡くなった。「パ」は働かなかった heh ka^ˉ ma^ˉ te。他の人たちが食べさせてあげていた (扶養していた一注)。「パ」は言葉を唱えるだけだった aw^ˉ hkaw^ˉ ceh^ˉ yaw ve。……「佛房」 yeh^ˉ は毎晩毎晩 (線香を) 点していた tu^ˉ ve。「パ」は妻を娶ってはならなかった。「大佛爺」は。彼らは言葉を唱えているだけだった Aw^ˉ hkaw^ˉ ceh^ˉ yaw ve le^ˉ, yaw^ˉ hui。人々が昼間に、玄米 ca^ˉ hk'a をもって (上方にある佛房に) 登って、献じていた。

「文化大革命」の時代になって、「パ」もできなくなった。建物 yeh^ˉ も壊されてしまった。

「パ」も (一般の人々と) 同じく、一日三回食事していた。自分の祖父が世話して guan、召使い aw^ˉ ce^ˉ をしていた。……正午になると、長太鼓 ci^ˉ k'o^ˉ を叩いた。長太鼓があった。外に置いてあった。それを叩くと、料理人 aw^ˉ te ca^ˉ hpa^ˉ が (「パ」に) 食事を食べさせた。

銅鑼 bo lo k'o^ˉ も大きなものが 2~3 個あった。鉦 hkaweh^ˉ Ma も 2~3 個あった。

<文化振興>

村公所のところに、昔のラフの物品が納められている。「ターリーチョ」 ta^ˉ li^ˉ chaw (?) が作ってくれた。……「ムパミパ伝承基地」 Mvuh^ˉ Hpa^ˉ Mi^ˉ Hpa^ˉ yeh^ˉ だ。ジャガ Ca^ˉ G'a^ˉ が鍵を管理している。

<移動><伝承><タイ>

(解放軍兵士経験者の男、40 歳代?) 「唱歌 hkaw^ˉ」(ラ

フ族の伝統歌一注)に〇〇(不明)がある。(その歌詞によると)伴朗を去った人々が99戸あったそうだ(多くの人々が伴朗を去ったという意味一注)。……ラフは昔「北京」Peu, Kinに住んでいて、(その後)伴朗にやって来て、(その後)ずっと向こうのタイ国まで行ってしまったのだそうだ。こうして今残っている我々は、Hkaˊ Laˊ shoˊ eˊ と呼ばれる。(伴朗に)残された人々という意味だ。ワ語 Aˊ Va, hkawˊ でも「オルーカラ」aw, leuˊ Hkaˊ Laˊ とする。

<民族関係>

(老女)我々ラフはへパと一緒にいるのに、漢語を知らない。Nga, hui Laˊ Huˊ, Hehˊ Paˊ geh chehˊ-a leh, Hehˊ Paˊ hkawˊ ka, maˊ shiˊ。

<政府・国家>

去年壊してしまって、「茅の家」はもうない。「国家」が壊して、煉瓦の家を作ってくれたので。……「国家」が各家に少しずつ援助してくれて。

<タイ国><キリスト教>

タイ国(のラフ族)は「ボヤ」bon yaˊ (キリスト教徒)ばかりだってね。……タイ国は豊かだってね。

<地震>

(19) 88年10月6日に地震があった。

<結婚>

「山東」には〇〇(不明)が2人住んでいる。へパ Hehˊ Paˊ (漢族)と結婚して住んでいる。ここにも2~3回帰ってきた。

<現在の祭祀>

故人の供養は七月にやる。八月は十五日の夜に、家の祭祀場に、ご飯を供して、仕事をせずに休んでいる。十五日の日は。

<佛>

昔は××(不明)が、我々の「伴朗佛」のところに参りに来た ca gˊeuˊ la, ve。昔、「パ」hpa, (僧)をしていた時には、他所の人々も参りに来た。ジャマボの人々も、マリブ(漢字表記は不明一注)も。「パーシャ」(半山)も来た。「玄米」ca, hkˊa を献じて、「パ」に食べ物を食べさせた ca ca, laˊ ve。ここにいた「パ」に。八月十五に参りに来た。

正月にもやって来た。年に2回参りに来た。正月には玄米 ca hkˊa を一碗ずつ持ち寄って、集めて一緒にした。そして「パ」に食べさせた。参りにやってきた aw, liˊ ca yu, la, ve。

「大佛爺」をして te ve,……「パの木を作った」hpa, ceh, te ve。(年中儀礼としては)「六月二十四過」、「八

月十五過」、「コ hkˊaw, 過」(新年を祝う)があった。……「八月十五」には「ナリカーシ」(不明)を作り、「ノシ」(不明)を作り、「十五の木 ceh,」を作り、長太鼓を叩き、〇〇(不明)していた。「ナリカーシ」とは(漢語で)「リグアン」のことだ。……「八月十五」には、今年も無病息災で、来る年も安寧であるようにと「パ」が「念経」(読経)して、長太鼓や鉦や銅鑼 bo lo kˊoˊ を叩いた。

<佛><時代変化><文化大革命>

後に「文化大革命」になって、「パ」を養うことができなくなった。

<佛>

「パ」hpa, (僧)がいた時には、正月、「八月十五」、「六月二十四」に、「パ」に参った。「六月二十四」には「パ」のところに行き、水 iˊ kaˊ を献じた。

我々は……病気になる、その家が「パ」のところに、玄米 ca, hkˊa 一碗を献じて、水を撒いた(?)ものだった。昔は〇〇(薬や医者のことか一注)

(男): 俺の祖父の「アテフ」Aˊ Teh Fuˊ が「パ」のところに(参りに来た人々を)集めた。……〇〇(不明)の人たちもやって来たそうだ。儀礼して帰るために aw, liˊ yu, hko, -e ve。

(老女): 参って来るひと尾てゃ、小さな布片をもってきて「パ」に献じた。それを吹き流し tuˊ にして、後でそれを合わせて、上着にした。綿で作った布片だ。……「パ」には妻はいなかった、八月に布を献じた。……長くつなげて、吹き流しにした後、上着にした。黒の上着も白の上着もあった。「パ」は帽子をかぶっていた。

「トトウ佛」(漢字表記不明)から始まり、向こう(の村)に住んだそうだ。「パ」hpa, (僧)も代々あったということだ……「ジャジャ僧」Ca, Caˊ hpa,、「ジャ僧」Ca, hpa, など、「ジャファ僧」Ca, Faˊ hpa, の前にも、「パ」がたくさんいた。

「パ」hpa, (僧)は犬肉を食べなかった。「パ」の親戚の者 aw, viˊ aw, nyi は食べていたが。

(老女): 「パ」hpa, (僧)は肉を食べなかった。「パ」は上方の「パイエ」hpa, yeh, (佛房)にいる時は、肉を食べなかった。でも、下方の村で肉がある時、降りてきて食べることはあった。鶏肉や豚肉は食べた。食べない肉もあった。

「パ」hpa, (僧)は、日とが死ぬと儀礼をしてくれた。そういう時、肉があると少し食べた。村の下方の方で。

「パ」hpa, (僧)は上(佛房)にいる時には肉を食

べられなかった。下方に来て食べることはあった。上方（パイェ）には、肉をも入れる（持ち込む）ことはできなかった。上で肉を料理して食べることはできなかった。

「パ」hpa.（僧）は酒も飲まなかった。牛肉、水牛肉も食べなかった。犬肉もだめ。下方に来ても食べなかった。豚肉のよいものしか食べなかった。

精霊祭祀に使った肉 ne⁷ te sha. も祖先供養に使った肉 chaw suh te sha. も食べなかった。招魂儀礼 ha hku ve の肉も食べなかった。

「パ」hpa.（僧）は字を知っていたが、（それが）何語だったか知らない。

<民族>

（解放軍経験のある男性、40歳代?）：昔、ヘパ Heh⁷ Pa.（漢族）はラフを「ローフ」と呼んだ。後になってヘパは「ローフ」（という呼び名）を禁じた。……「ローフ」は黒いという意味ではなく、強いという意味だ。

（老女）：もう67～68歳になる。

<日本>

（解放軍経験のある男性、40歳代?）：「ズブ」は「ジバ」と言う。（日本は）科学技術にすぐれている。……（解放軍に5年いたことのある男が、広い世界について知っている知識をひけらかす話が続く）

<漢族との戦い><移動>

ラフは昔「北京」Peu. Kinに住んでいた。ヘパ Heh⁷ Pa.（漢族）と戦ったが勝てず、瀾滄に流れてきた。「北京」は我らラフの国（La⁷ Hu. mvuh⁷ mi.）。戦いに敗れて、あちこちに住むようになった。我らは残された者たちだ。大集団99戸は遠いところに行って住んでいる。我々は9戸だけだ。向こうには人が多い。ワ族は「ルー」leu⁷と呼ぶ。我々は「シュイ」sho⁷ e⁷（捨てられたという意味—注）。タイ国の者たちは我々を「カラロー」Hka⁷ La⁷ lon⁷（大佯朗）と呼ぶ。向こう（タイ国）にも「カラ」

（佯朗という名の村）がある。

<時代変化><文化大革命>

俺の父も向こうにすんでいる。昔「逃げた」hpaw-e ve. 糯福に住んでいる。年老いて死んだ。「文化大革命」の時に逃げた。「兄」aw. vi⁷ pa. も向こうにいる。

<現在の祭祀>

（向こうに逃げた兄は）父の供養のために……（不明）。「リペテヴェ」li⁷ peh⁷ teh ve（「墓標を置く」、つまり、清明節などで掃墓すること—注）の時にやって来る。（掃墓の時には）一緒に楽しむ。

<現在の祭祀>

（住民）：（掃墓の時には）「老人」chaw maw⁷（ここでは、亡くなった年長の肉親のこと—注）にご飯を食べさせて（ご飯を捧げて）から、招魂 aw. ha hku ve をする。

資料 10-3（観察とインタビュー） 村の祭祀場（「焼香所」sha tu⁷ kui.）を見学、佯朗八隊の住民（男性、1963年生れ49歳）の案内、2012年07月16日



写真 10-1 佯朗村の村の祭祀場に到る道。 2012年07月16日



写真 10-2 佯朗村の村の祭祀場。四角く木で囲んだ中に建てられている。真っ直ぐに伸びる木を背にして立つ。 2012年07月16日



写真 10-3 佯朗村の村の祭祀場の内部。祭壇の前の地面に焼香の跡があり、祭壇の上に供え物を置く。
2012年07月16日



写真 10-4 佯朗村の村の祭祀場の内部。祭壇の上に供え物を置く。 2012年07月16日25日



写真 10-5 佯朗村の村の祭祀場の内部。祭壇前の地面で焼香する。 2012年07月16日

海拔高度 1,775 メートル

<現在の祭祀>

「焼香所」 sha tū kui. の下の平地は、別になんでもない。佯朗には「焼香所」はここ一カ所だけだ（村は大きく、行政的にはいくつもの「隊」に分れているが、

祭祀の面では、祭祀場はひとつということ一注）。他のムヌ Meun̄ Neū などの周辺村も、ここに依った cū したそうだ。「歴史」（つまり昔）には。

（「焼香所」 sha tū kui. は草ボウボウである）管理していないようだ chaw mā guan ve law. （囲いの中）で焼香する sha tū ve. 今年は「管理者」 guan pa- がいない（だから「焼香所」は管理されず、草ボウボウである）。

妻はできないそう、昔から Yaw̄ mi. ma mā g'a te ve cē, ō htā ka.。

（囲いの中には祠があり、茶、線香 sha、ご飯 aw-（餅米）、水、塩の供え物がある。）酔っぱらいは中に入てはいけないそう。祠の外では、線香を点さない sha mā tū。祭祀（「焼香者」 sha tū pa-）は酒を飲まない。餅米（ca. naw̄ aw-）などを正月に捧げる。他に、病気の人がいれば、茶や水を持ってきて、線香を持ってきて、ここに捧げるそう。

蠟燭はここでは点さない。蠟燭は家でのみ点す。招魂 aw. ha hku ve の「ハズマ」の時に点す。しかし（招魂儀礼でも）「ハトレ」の時には点さない。

（村の祭祀場である）「焼香所」 sha tū kui. は木の下に建てる。今の木は小さいが、昔は大木の下に作っていたそう。……それが「国家」の「社」（合作社）の米倉があった頃に、木が足りなくて、（米倉を）作るために木を伐ってしまった。その後は（「焼香所」周辺では）木を伐ってはならないそう。木を伐ると、病気になると言われている chaw na. lā cē。

資料 10-4（観察とインタビュー） 佛房跡を見学、佯朗八隊の住民（男性、1963年生れ49歳）の案内、2012年07月16日

海拔高度 1,770 メートル。

<佛><禁忌>

（佛の）管理者 guan pa- は酒を飲まない。牛肉、水牛肉も食べない。

<佛>

昔は（佛房の）「焼香所」 sha tu. kui. の下方に門があり、扉を閉めていたそう。昔は下方には、人は住んでいなかった。

<佛><禁忌>

「パ」 hpa.（僧）と「焼香者」 sha tu. pa- は、牛肉、水牛肉、犬肉は食べない。

<現在の祭祀>

「焼香所」 sha tū kui. に点すのは、「六月二十四」、「八月十五」、「初九」（正月九日）だけだ。先日の「六月



写真 10-6 佤朗村の佛房跡。現在はセメント敷きにされ再開発が進んでいる。 2012年07月16日



写真 10-7 佤朗村の佛房跡。パは、現在バスケットボールになっているところに住んでいた。バスケットボール後ろの木は、パがいた時代に植えられた古いものだという。 2012年07月16日



写真 10-8 佤朗村の「ムパミパ」伝承基地 2012年07月16日



写真 10-9 新築中の「ムパミパ」「瓢箪笙踊り」伝承基地 2012年07月16日



写真 10-10 中国の国家級無形文化遺産リストに登録されたラフ族の神話伝承「ムパミパ」と「瓢箪笙踊り」の展示パネル 2012年07月16日



写真 10-11 「佤朗村建設項目整合滙総表」 2012年07月16日

二十四」には点さなかった。「管理者」guan pa- がないので。

<佛>

ここに昔「パイェ」hpa, yeh. (佛房)があった。今はバスケットボールコートになっている。

この木は昔からあるものだ。大きくならないが。「パ」hpa, (僧)がいたときに植えたもので、何代になるかわからない。

<文化振興>

(新しい佛房は、政府が) 作ると言いながら、建設

が泊まったままだ。ここには、客人が来たら、飲食したり「芸術」(?)を楽しむ場所を作るそうだ。

建物 yeh. はどこに作るのか知らない。……「国家」、「瀾滄(県)」が援助してくれる。「水泥」(セメント)も援助だ。(援助の)金額は知らないが、100億という。よく知らない。ここに建物を建てるそうだ。

<佛>

後ろに竹藪があったところに、建物(佛房)があったわけではない。「パ」hpa. (僧)はひとりだけだったので、ここに住み、「老百姓」(一般の村人たち)は下方に住んでいた。「パ」は〇〇(不明)して、言葉 aw. hkaw[˥] を唱えて、「パ」をしていた。

<文化振興><佛>

向こうの両側の家は「芸術」(?)する時の控え室だ。

昔からの木は、この部分(セメントの低い丸囲いに囲まれた部分—注)だけだ。後ろの竹藪にあるがれきは、昔の物(遺物)ではない。昔の「パイェ」hpa. yeh. (佛房)は、木の前にあった。

資料 10-5 (観察とインタビュー) 《牡帕密帕》《拉祜族蘆笙舞》伝承基地を見学、佉朗八隊の住民(男性、1963年生れ49歳)の案内、2012年07月16日

<文化振興>

国家級非物質文化遺産であるラフ族の神話伝承「牡帕密帕」と舞踏「拉祜族蘆笙舞」の伝承基地があるが、鍵がかかっていて中は見られなかった。ラフ語で前者は、「ムパミパ」mvuh[˥] hpa- mi. hpa-、後者は「ノムポエテヴェ」naw. meu. paweh[˥] te ve と呼ばれる。意味はそれぞれ「天を創造し、地を創造する」および「瓢箪笙を吹いて踊る」である。

村公所の壁に、村で推進されているプロジェクト一覧が掲げられていた。中に「民宗局」(瀾滄県民族宗教局)による「少数民族伝統文化搶救保護項目」があり、「総投資」が10万元と示されていた。

11. 安康佛

安康佛は、通常「アカフ」A^ˋ Hka^ˋ Fu_L と呼ばれる。瀾滄県富邦郷平安村にある佛房である。文献では、現在の富邦郷や周辺にあったとされる佛房についての記載はあるが、「安康佛」あるいは「平安村」として記されたものはない。

しかし「アカフ」については、周辺の半山村や戦馬坡などで話を聞いた。それらの話によると、周辺の村々も帰依していた有力な佛地であった。

またインタビューによると、「1983年頃」に、佛房脇の池の水が満ちるとき漢族は滅びるという予言がなされ、県政府も後にそれを重く見て、対策を講じたという。

現在でも「アカフ」の佛房は、祭祀場として用いられているが、父であった前管理者の仕事を受け継いだ息子はアヘン中毒であり、「アカフ」の祭祀もかつてのような勢いはない。

筆者は2011年09月03日に、堀江未央氏（京都大学大学院生）とともに半山村を訪ね、半山村の幹部から「アカフ」を案内され、アヘン中毒の管理者から少し話を聞くことができた。また半山村や戦馬坡にて住民から「アカフ」についての話を聞いた。

資料 11-1 (インタビュー) 瀾滄県富邦郷半山村扎母奶三組の幹部（いずれも男性、40～50歳代か）、2011年09月03日

＜現在の祭祀＞

（この村では）安康佛 a^ˋ hka^ˋ fu_L のオリ aw, li^ˋ（祭祀のやり方）を用いている。

「過年」（正月）、「六月二十四」、「八月十五」（いずれも旧暦一注）が「節日」（祝日）だ。

＜佛＞＜昔の祭祀＞

「六月二十四」は行くか分からないが、「八月十五」には安康佛へお参りに行った aw, li^ˋ ca yu, ve（字義通りには「オリをもらいに行った」一注）。安康佛の庭で踊った。

「過年」には、村で餅を搗き、安康佛にも捧げた。

本当の大きな佛 fu_L は大理にあった。昔、大理からムメ Mvuh^ˋ Meh^ˋ（ムメミメ Mvuh^ˋ Meh^ˋ Mi, Meh^ˋ のこと

か。だとすれば現在の臨滄と比定されるラフ族の故地を指す一注）、南柵、安康佛、東主という風に、佛 fu_L は南下してきた。最後の3つが大きな佛 fu_L。シーターイェ Shi^ˋ Ta^ˋ Yeh_L（シー大爺、シーの漢字は不明一注）



写真 11-1 平安村のパイェ 2011年09月03日



写真 11-2 平安村のパイェの入口。入口の両脇の地面に焼香する。 2011年09月03日



写真 11-3 平安村パイェの中の祭壇。地面には焼香の跡がある。 2011年09月03日



写真 11-4 平安村パイェの祭壇。段の上にご飯、水、茶を供え、段の前面に点火した蠟燭をくつつける。 2011年09月03日



写真 11-5 平安村のパイェ。祭壇前の地面で焼香する。 2011年09月03日



写真 11-6 平安村のパイェの横にある池。かつて安康佛の管理者が「この池の水が満ちたとき漢族はいなくなる」と言ったという。 2011年09月03日

という佛が南柵にある(?)。昔のラフの大佛(偉大な指導者という意味一注)が8階建ての大きな建物 yeh. lon⁻ ma を建てたが、9階にひとつ足りなかったために、グシャ G⁻ui. sha になれなかった。

後に(佛 fu-)を、ヘパ Hch⁻ Pa- (漢族、この場合は政府をさすと考えられる一注)が捕まえて、殺してしまった。

<現在の祭祀><時代変化>

2003年に(村は)今の場所に移った。その際に国家から一戸4千円の補助金が出た。カウーシャトク hk'a⁻ u⁻ sha tu⁻ kui. (「村の上方の焼香所」という意味。村を守護する祭祀場のこと一注)はまだ作っていない。

「毛主席」のなくなった1977年の前の1976年に、(かつていた道路の向こうの村の下方から、いま村のある「森」heh pui hk'aw が上がってきた。その時はまだカウーシャトク(村の祭祀場)は作らなかった。「合作社」

をしていたから。集団化したときには、(道路向こうの)本村の下の方にいた。今は分れている3村は1村で、カウーシャトクもあった。

<時代変化>

集団化で食堂が作られて、皆一緒に食事した。「糧票」が配られて、お金は使わなかった。(米がなく)玉蜀黍のお粥などを食べていた。「ズプ・シャマ」tuh. peu⁻ sa. ma (「日本の玉蜀黍」という意味一注)という、一粒一粒が長い種類の玉蜀黍を、種が配給されて、植えていた。

(集団化が終り)食堂が廃止になる頃、リーダーがごちそう aw. chi⁻ を持ってきて、米をたくさん持ってきた。皆で、手を挙げて、「今日から先はもうお粥はたべないぞ」と言って、食べた。その後、少しずつ食べられるようになった(飢えなくなった一注)。



写真 11-7 平安村の村の祭祀場。 2011 年 09 月 03 日



写真 11-8 平安村の祭祀場の内部。簡単な祭壇があり、地面の各所に焼香の跡がある。 2011 年 09 月 03 日



写真 11-9 平安村の村の祭祀場内部の祭壇。 2011 年 09 月 03 日

資料 11-2 (観察とインタビュー) 安康佛を見学、半山村幹部(ラフ語を話す漢族男性、1968 年生れ)と故佛管理者 fu- guan pa- の息子(30 歳代?、麻薬中毒)の案内、2011 年 09 月 03 日

<佛><現在の祭祀>

パイェ hpa- yeh- (フイエ fu- yeh-) の中には、祭壇になっている木の棚があり、焼香した跡がある。パイェの中には女は入ってはいけない。戸口の前まではよい。男も戸口から中に入るときには、靴を脱いでから入らなければならない。祭壇の棚の上には、大きい碗が 3 つあり、それぞれ茶、水、飯を捧げるためのものだという。

<佛><池><時代変化><予言>

パイェの後方には、「僧池」hpa- g'ui- と呼ばれる池がある。この池にはラフ人が石を捧げる ha- pui shi- tan- ve (石をもってきて池の中に入れる一注)。へパ Heh- Pa- (漢族)はここに参ってはいけない。この池は、故佛管理者 fu- guan pa- が、1983 年頃に、この池の水

が満ちたら「へーメー」Heh- Meh- (漢族がいなくなるという意味一注)と言ったその池である。

安康佛には、周辺の村々が帰依していた。指導者が「へーメー」と言ったためか、「へパ」(漢族、ここでは政府の人々を指す一注)が調査にやってきた。その時に県長だった李光華も来たかも知れない。調査の後、大きな焼香壺 (sha lu- hkeh) と銅の仏像が盗まれた。これはへパ(漢族)が盗んだのか、シャトウパ (sha tu- pa-、佛管理者だった故人、麻薬中毒の案内人の父一注)がこっそり売ってしまったのか分からない。息子は麻薬中毒者。

資料 11-3 (インタビュー) 瀾滄県竹塘郷戦馬坡村在住の男性(40~50 歳代)、2011 年 09 月 03 日

<かつての祭祀><伝承>

安康佛に「ジュイー」cu- yi- があると噂になって、へパ Heh- Pa- (漢族)もラフも皆やって来た。「ジュイー」

とは、もっていれば鉄砲で撃たれてもあたらないというお守りだ。後でジュイーは、半山村の一村民の家の中に突然現れた。家の者はそのことを親戚 aw. vi⁻ aw. nyi 以外には教えなかった。家の焼香所 sha tu⁻ kui. の上に吊してあったが、その人が（宗教倫理的な）間違いを犯したため、しばらくはそこにあったが、なくなってしまった。

シャン族 Pi⁻ Chaw⁻ は昔（ラフから）「ジュイー」を騙し取った。シャン族はラフがそれを取り戻すのを怖れて、呪いの呪文を發した sha hpeh⁻ ve. その結果、雷が木に落ちて、木が枯れた。それが安康佛の池の浦にある林の木だ（この最後の一文のみ、半山村主任の劉友談）。

資料 11-4（インタビュー） 瀾滄県竹塘郷戦馬坡村在住の（男性、1941 年生れ）、2011 年 09 月 05 日

<佛>

1982 年に、逃げていたミャンマーから中国に帰ってきた。その時には、安康佛にはたくさん人がいた。

（昔政府が安康佛があまりに大きな影響をもっているのに懸念して、佛管理者を捕らえに来たと話については）「へパ」Heh⁻ Pa.（漢族、ここでは政府の意味一注）が、あまり線香ばかり点しているなど禁じたわけではなく、そんなに佛 fu. にばかり来ていずに、家で点せと、賢い県長だった李光華が言ったのだ。その後、皆少しおとなしくやるようになった。

資料 11-5（インタビュー） 瀾滄県竹塘郷戦馬坡村の食新米祭に来ていたラフ語を話す漢族商人（男性、50 歳代？）、瀾滄県竹塘郷戦馬坡村のラフ族住民（男性、35 歳）、2012 年 07 月 18 日

<佛><昔の祭祀>

商人； 昔、安康佛 a⁻ hka⁻ fu. に「パイエ」hpa. yeh. があった。しばらくへパ Heh⁻ Pa.（漢族、ここでは政府を指す一注）に禁じられて、祭祀ができなかった ma⁻ g'a te ve. へパと不和で Heh⁻ Pa. ma⁻ haw. da. で、（祭祀が）できなかった。なぜかと言うと、「[パ] hpa.（僧）は天国 mvuh⁻ naw ma を目指し、へパ（漢族の政府）は地上 mi. g'ui. を向いているから」。

<佛><文化振興>

ジャヘ； 今は新しいパイエ hpa. yeh.（佛房、ここでは祭祀場の意味一注）を作っている。

資料 11-6（インタビュー） 瀾滄県竹塘郷戦馬坡村在住の

の老人（男性、70 歳代）、2012 年 07 月 18 日

<佛><予言>

安康佛 a⁻ hka⁻ fu. の「パイエ」hpa. yeh.（佛房）の横に池 i⁻ ka⁻ g'ui. po がある。「佛の管理者」fu. guan pa. が、「池の水が満ちたら、漢族はいなくなるだろう Heh⁻ Pa. meh⁻ tu. ve yo.」と言ったので、へパ Heh⁻ Pa.（漢族、ここでは政府を指す一注）との間に問題ができて、「パ」ができなくなった hpa. ma⁻ g'a te ve（僧による祭祀ができなくなった一注）。（安康佛は、）俺がミャンマーから帰ってきて、2～3 年後に訪ねたことがある（別のインタビュー（資料 11-4）では、この男性がミャンマーから中国に戻ってきたのは 1982 年のことだと述べている一注）。

12. 賽罕佛

賽罕もかつて佛地として知られた場所である。

『雲南少数民族社会歴史調査資料滙集（四）』（2009：44、45）は賽罕について、次のように述べている。

漢族統治者が入って来る 200 余前には、伝えられるところによれば、宗教指導者が当地（瀾滄南嶺区第五村賽罕一注）の社会制度上の最高権力者で、人々は「佛牙額」（すなわち佛の人民）（標準中国語の発音では fo2ya2e2 となり、ラフ語の fu-ya、つまり「佛の子」だと推測される一注）と称し、佛爺の下には総管、新官、掌爺等がいて人民を管理していた。

南嶺区第五村の賽罕にはいまだ仏堂がひとつある。「老佛爺」が 1 人いて、普段はただ焼香、換水しているだけだ。「線香の火は盛んでない」が、依然として、焼香し求佛しに来る人はいる。（調査が行われた 1956 年頃の賽罕について述べたものと考えられる一注）

筆者は 2012 年 03 月 10 日に堀江未央氏（京都大学大学院生）とともに賽罕を初めて訪れ、その後同年 04 月 18 日にタイ人研究者とともに再訪した。いずれの回も、現在の佛房の管理者には話を聞くことができなかったが、長老や住民に話を聞き、佛房と村の祭祀場（カウーカシユ hk'a' u' hk'a' sheu.）と見ることができた。

賽罕はかつての有力な佛地の 1 つであるが、他地と同様に文化大革命時期に佛房は破壊された。しかし、現在では瀾滄県政府も関係した佛房再建と文化振興が進んでいる。佛房は、現在の村の祭祀でも使用されているという意味で、生きた信仰である。

話を聞いた長老によれば、かつて当地にいた佛 fu- は戦争はしなかったという。反対に「佛」は人々に仲良くしろと教えたという。他所で聞いても、「佛」が戦ったかどうかについての答えはまちまちでも、「佛」が人々に宥和を説いたという話では一致している。



写真 12-1 佛房から見た賽罕村大寨 2012 年 03 月 10 日

資料 12-1（インタビュー） 瀾滄県竹塘郷のラフ族住民（男性、1941 年生れ）に堀江未央（女性、28 歳）が聞いた話、2012 年 03 月 10 日に筆者に教示
 <佛><文字>

賽罕には昔「佛」がいた。「王佛爺」は「字を教える者」li. ma- pa- で「三佛祖」に字 li. を教えた。

資料 12-2（インタビュー） 賽罕村大寨の店の女性（40 歳代？、老緬族）、2012 年 03 月 10 日
 <佛><現在の祭祀>

村には「佛」fu- がある。カウーカシユ hk'a' u' hk'a. sheu.（村の上方にある村神の祠）もある。

龍の日 law' nyi に「焼香者」sha tu' pa- が焼香する sha tu' ve.

<佛><現在の祭祀><文化振興>

正月の「初九」の日には「カクヴェ」（k'a. hk'eu' ve、ラフ族伝統の正月の輪踊り）がある。初九には、県長（石春雲）や董理保（瀾滄県民族宗教局局長）を含めて、たくさん政府の人々がやって来た。

<佛><禁忌><現在の祭祀>

（「佛」の管理者について、この女性は「フトウパ」fu. tu' pa-（佛祭祀のために線香を点す者）として言及したが、あまり一般的な呼び名ではない一注。）

フトウパは牛肉を食べない。食べると「話が出来なくなる」na. u' ma' te k'ai ve. だからフトウパの家には



写真 12-2 佛房に到る賽罕村大寨の村内道路。道路が整備され、土産物店が並んでいる。 2012年03月10日



写真 12-3 賽罕村大寨の佛房。大規模な再建が行なわれている。 2012年03月10日



写真 12-4 賽罕村大寨の佛房。広場の脇に作られた建物。広場が文化イベントで使用される際に、休憩所として使われる建物と思われる。 2012年03月10日



写真 12-5 賽罕村大寨の佛房。広場にあった焼香の跡。 2012年03月10日



写真 12-6 賽罕村大寨の佛房。上部奥のふたつの建物。 2012年03月10日



写真 12-7 賽罕村大寨の佛房。上部奥のふたつの建物のうち向かって左側の建物。中に祭壇がある。 2012年03月10日



写真 12-8 賽罕村大寨の佛房。上部奥のふたつの建物のうち向かって左側の建物の祭壇。ご飯と水が供えられる容器が載せられ、前の地面で焼香された跡がある。 2012年03月10日



写真 12-10 賽罕村大寨の佛房。正面奥の建物のうち向かって右側の建物の内部。地面で焼香される。祭壇にはご飯と水を供える容器が置かれている。祭壇の両側に銅鑼が吊されている。 2012年03月10日



写真 12-9 賽罕村大寨の佛房。正面奥の建物のうち向かって右側の建物。入口の両脇の地面で焼香されている。 2012年03月10日



写真 12-11 賽罕村大寨の佛房。上部。建物が並ぶが、地面で焼香された跡があった。 2012年03月10日

牛肉を持ち込まない *ma[˥] keu ve*。(牛肉を食べられないのはフトゥパだけで) その子供たちなど(家族)は食べてもよい。

シャトゥパ(フトゥパと同じ者を指す一注)は代々同じ家系の人々だけがやってきたのではない。

ペトゥパ(フトゥパと同じ者を指す一注)も農業する(祭祀をして生きているのではなく、ふだんは普通の

農民である一注)。ペトゥパも酒を飲んでもよい。

祭祀としては、線香を点し、蠟燭を点す(線香と蠟燭の両方を点す一注)。

<佛><王佛爺>

「王佛爺」については聞いたことがない。

<佛><現在の祭祀>

焼香者 *sha tu[˥] pa-* (フトゥパ) の名前は、*Ca, La[˥] Na[˥]*



写真 12-12 賽罕村大寨の佛房。上部、向かって左側の建物。
2012年03月10日



写真 12-13 賽罕村大寨の佛房。上部、向かって左側の建物。ご飯と水が供えられた祭壇と地面の焼香跡。 2012年03月10日

Yaw、という。

<佛><時代変化>

昔はへパ Hch Pa (漢族、ここでは政府を指す)が、民族のオリ aw, li (伝統祭祀) をすると言った。今はやれと言う。文化大革命の時には「線香を点すな」 sha ta tu とわれ、「大包乾」(改革開放後の、農業請負制度の時代のこと一注) になったら、ラフ・オリ La Hu aw, li (ラフ族の民族伝統) をしっかりやれと言われるようになった。

<佛><文化振興>

(佛 fu の祭祀場の下方の道の脇には店が並んでいるが、) 店をやるために、国がセメント代をくれて、(店の) 建物は自分で建てた。

資料 12-3 (インタビュー) 賽罕村大寨の店にいた男 (40 歳代?)、2012 年 03 月 10 日

<佛><王佛爺>

「王佛爺」のことは聞いたことがない。

<佛><時代変化>

「合作社」の頃には、こんなこと (ラフ族の伝統祭祀のこと一注) すると言われた。「線香を点さなかった、怒られるから」 sha ma tu, de la ve。後になって、1~2 年前から、「ラフの伝統をしっかりと守れ」 La Hu aw, li haw yu、と言うようになった。「地震八八」(瀾滄県で大地震があった 1988 年一注) 以前は、「線香は点さない」 sha k'aw ma tu と言われた。「大包乾」の後になって……。

資料 12-4 (インタビュー) 賽罕の新しく作られた佛房広場を見ていたときに通りかかった老人 (60 歳代?、女性) の話 2012 年 03 月 10 日

<佛><王佛爺>

チョモ chaw maw (先祖) の時代には「佛」がいた。私は見たことがない。……「王佛爺」のことも知らない。

<現在の祭祀>

賽罕村大寨の佛房の広場から脇の道を登ってゆくと、村の祭祀場である「カウーカシュ」 hk'a u hk'a sheu が、真っ直ぐに立つ木を背にして建っている。「カウーカシュ」の「カウー」とは「村の上方」、「カシュ」とは「村の神」(sheu、は漢語「神」の借用である一注) で、「カウーカシュ」とは「村の上方にある村神の祠」という意味である。もっとも、村の上方に建てられる祭祀場には決まった呼び方はなく、「焼香場」 sha tu kui、や「山神」 sha sheu、と呼ばれることも多い。

資料 12-5 (インタビュー) 李姓女性 (賽罕出身で昆明在住の退職公務員、50 歳代?)、賽罕村のラフ族男性 (40 歳代?)、2012 年 04 月 18 日

<現在の祭祀>

(村に) 祭司 (焼香者 sha tu pa) はひとりだけ。その他に、モーパ maw pa (呪医) もいる。(モーパは) たくさんいる。招魂儀礼をする者とか、精霊祭祀をする者とかだ。祭祀 (焼香者) もまたモーパをする。

<佛><文字><禁忌>



写真 12-14 賽罕村大寨の佛房。上部、正面手前の建物。村を背にして立っている。 2012年03月10日



写真 12-15 賽罕村大寨の佛房。上部、正面手前の建物。ご飯と水とが供えられ、地面に焼香の跡が見える。 2012年03月10日



写真 12-16 賽罕村大寨の佛房。上部、向かって右側の建物。入口の両脇の地面に焼香の跡がある。 2012年03月10日



写真 12-17 賽罕村大寨の佛房。上部、向かって右側の建物の内部。祭壇にはご飯と水とが供えられ、その前の地面で焼香されている。 2012年03月10日

男性；(家にあるという本について)。20年、25年間も見たことがない。「雲南佛」について書いてある。女性；ここの佛 fu- の「オトウエ」aw. htu-e (意味は不明) は、男でなく女だそうだ。夫のいない女だそうだ。

(本の名前だという)「イーピン」というのは知らない。あの男は婿だが、その家に入るときに、扉を閉めてはいけぬ。閉めずに真っ直ぐに中に入って、祖割らないと行けないそうだ。そうしないとお腹が痛くなるという。ここに(婿に)来て25年になるが(本は)一度しか見たことがない。「イーピン」という。扉を閉めてはならず、入ってすぐ、囲炉裏 hk'a' ci' peh. に座らないと行けないそうだ。彼はいつも他人と喧嘩ばかりしている daw' da. hk'eh ve. ちゃんとやっていないためだろうか、知らない。彼らは線香もちゃんと点す Sha ka. hk'a deh. tu' ve. yaw' hui.

「ズメ」(本)は、彼も見ることがないそうだ。25

年住んでいるけれど。婿でやって来て一度しか見たことがないそうだ。彼は喧嘩ばかりしている。彼はアカデ村 A' Hka' Deh. 出身だ。(「イーピン」をどう漢字で書くか相談した後)本の名前は「英兵」だ。中身は知らない。見たことがないから。

<佛><文化振興><時代変化><文化大革命><禁忌>

この佛 fu- (現在村にある祭祀場)は新しく作ったものだ。昔のものは「文化大革命」の時に壊された。昔のものにはあれが多かった。花 suh' ve' を挿したあれ。「シュー」shu' (意味は不明)を作ったある、あれ。大きなもの。

近くにいた老女；ジュ ju. という名だろう。ジュも ○○ (不明)も、壊されてしまった daw' ba. peu. e ve.

李三妹；祭司(焼香者 sha tu' pa-)は殺さなかったが、今は死んでしまい、もういない。今の(祭司)は新し



写真 12-18 賽罕村大寨の村の祭祀場。木を背にして建てられている。建物と入口扉の両脇の地面にそれぞれ焼香されている。 2012年03月10日



写真 12-19 賽罕村大寨の村の祭祀場の内部。祭壇にはご飯と水とが供えられ、その前で焼香されている。 2012年03月10日

い者。

李三妹；彼が扉を閉めずに、真っ直ぐ中に入らなければならないのは、あの本があるためか分からないけど。本は前から、「先祖の時代から」chaw maw[˥] coe hta[˥]からある。(彼の)妻は末娘で、それで彼は婿に came。

資料 12-6 (インタビュー) 李姓男性 (60歳過ぎ、賽罕村在住、2012年04月18日)

<佛><時代変化>

アシャフグアン A[˥] Sha Fu[˥] Guan[˥]、ジャブ Ca[˥] Hpeu[˥]、リプン Li[˥] Peun[˥]、李ジャロ Ca[˥] Law[˥] と (佛 fu[˥] の系譜が) 続いた後は、村の中で (線香等を) 点すようになった hk'a[˥] hk'aw tu[˥] ve yo[˥]。(佛と佛房を中心とした祭祀から、それらなしの別の祭祀のやり方となったということ一注)。(昔は) fu[˥] guan pa[˥] (佛の管理者) がひとりいて、祭祀 (sha tu[˥] pa[˥]、焼香者) がいた。そして村人皆で点していた。昔は今と違っていた。

<佛><時代変化><文化大革命><文化振興><文字>

昔は、佛管理者 fu[˥] guan pa[˥] があの建物 (佛房を指して一注) の中に住んでいた yeh[˥] hk'aw cheh[˥] ve[˥]。

そして「文化大革命」のあとは (村の上方の佛房がなくなったので一注) 村の中で点している hk'a[˥] hk'aw tu[˥] ve[˥]。今やっているように。管理者 guan pa[˥] はいなかった。この1、2年でまたいるようになったけど。

アシャフグアン (アシャという佛管理者という意味一注) はここにいた。南柵にも住んでいたそう。この佛房 fu[˥] yeh[˥] にもいた。南柵にもいた。本当の最初は「ムカ」Mvuh[˥] Hka[˥] (勳卡、現在の西盟県にある一注) だよ。そして南柵を経て、ここに南下してきた ya[˥] la[˥] ve[˥]。「アシャプロプジュ A[˥] Sha pu[˥] law[˥] pu[˥] fu[˥] cu[˥]」(「老アシャ佛祖」という意味と考えられる一注) という。390あったそう、佛 fu[˥] が。「シャプロプジュフ」(「老アシャ仏祖」と同じものを、接頭辞「ア」を除いて表現していると考えられる一注) が。全部で。佛 fu[˥] が、佛地 fu[˥] ti[˥] が、場所 aw[˥] ti[˥] が。

線香をきちんと点さないと、要求してくる sha hk'a[˥] deh[˥] ma[˥] tu[˥] k'o[˥] me[˥] la[˥] ve[˥]。病気になる。きちんと点さないと、病気になる hk'a[˥] deh[˥] ma[˥] tu[˥] k'o[˥] cheh[˥] ha[˥] ve[˥]。

「文化大革命」の時に、建物を壊してしまった。本 (経典か一注) だけ残った tzuh[˥] meh[˥] caw[˥] ve ti[˥] yo[˥]。学校にした li[˥] hen[˥] kui te ve[˥] (佛房跡を学校にしたという意味か一注)。祭祀もちゃんとしなくなった bon ka[˥] hk'a[˥] deh[˥] ma[˥] ca ve[˥]。銅鑼、大きな銅鑼を壊した者が、狂って死んでしまった。南嶺の者だ。ラフ族だ。ジャティ Ca[˥] Hti[˥] という名前だった。

「文化大革命」の時には、線香を点さなかった、点すことが出来なかった sha ma[˥] tu[˥] ve[˥] ma[˥] tu[˥] hpeh[˥] ve[˥]。84年以降にやっとできるようになった。

それまでに (佛の系譜が) 10代あった。64年以前に。

アシャフグアン、ジャブ、リブン、ジャロ。ジャブ Ca. Hpeu^ˊ は盲人 meh^ˊ ju^ˊ pa- だった。李ジャブ、リブン Li^ˊ Peun^ˊ、ジャク Ca. Hkeu^ˊ と続いた。リブンの後、ジャクだ。

本 tzuh^ˊ meh^ˊ (経典か一注) があって、代々継承させてきた。

線香とともに、蠟燭も点していた peh^ˊ haw. ka. tu^ˊ ve. ……86の線香を (点していた)。

アシャグアン (「アシャグアンパ」と同じものを接尾辞「パ」pa- 抜きで表現したもの一注) はムカ (勳カ) からやってきた。そのあとそれぞれ (の佛) が南下してきた。……「ジャブパヤ」Ca. Hpeu^ˊ hpa. ya^ˊ と呼ばれる。人々を教えて各地を回る ma- to^ˊ ve という意味だ。

<現在の祭祀>

正月には「山神」shan sheu. (村の守護神一注) に玄米 ca. hk'a を捧げる。…… 蠟燭 peh^ˊ haw. を捧げ、線香 sha を捧げる。玄米を捧げる …… ご飯 aw- を捧げる。

この村の祭司 (焼香者 sha tu^ˊ pa-) はジャガ Ca. G'a^ˊ だ。

<佛><文字>

アシャフジュ A^ˊ Sha Fu. Cu^ˊ は、戦争はしなかった ma. ma^ˊ baw^ˊ。線香を点すが、戦争はしなかった sha tu^ˊ leh ma. ma^ˊ baw^ˊ。どういう人だったか、知らない。本 tzuh^ˊ meh^ˊ k'o があった。それを使って人々を教えた。彼はラフだ。見たことはない。ジャブ Ca. Hpeu^ˊ を見たこともない。…… 最初はアシャ。戦争はしなかった ma. ma^ˊ baw^ˊ。線香をきちんと点していれば、人々も増えるだろうと言った Sha hk'a deh. tu^ˊ- a k'o. shu ka. ma^ˊ la. ve ce^ˊ。…… 杖 ju^ˊ fu. を持っていたそうだ。杖をついて、この村にやって来たのだそうだ。

「佛地」fu. ti. は ……。ここは「五佛之地」5 yeh. の中の中心 jaw^ˊ maw^ˊ lon^ˊ だった。

<佛><現在の祭祀>

彼らは、宗教を教える人 bon ma- pa- だった。今はいない。(現在、村の祭司をしている) ジャガ Ca. G'a^ˊ は、唱えるべき言葉 aw. hkaw^ˊ も知らないし、字 tzuh^ˊ meh^ˊ も知らない。線香を点す sha tu^ˊ だけだ。

<佛>

64年以前は、虎日 la^ˊ nyi ごとに戒日 shi^ˊ Nyi で、焼香点蠟 sha tu^ˊ peh^ˊ tu^ˊ していた。そして豆汁 naw^ˊ g'eu. を捧げていた。

<現在の祭祀>

八月に儀礼がある。へパ Hch^ˊ Pa. (漢族) の中秋節だ。



写真 12-20 賽罕村大寨の李姓男性の家。扉を開けて中にある家の祭壇を見せてくれるところ。2012年04月18日

今は虎日 la^ˊ nyi に3回点す tu^ˊ ve. 朝、昼、晩。飯を捧げる、水を捧げる。…… そうすると人々は喧嘩や諍いをしなくなる chaw ma^ˊ ya. da. pui^ˊ ma^ˊ daw^ˊ pui^ˊ。虎日ごとに祭司 (焼香者 sha tu^ˊ pa-) がフイエ fu. yeh. に登る。ひとりで行く。

正月に豚の頭は捧げない。水牛肉、牛肉を食べることは不可。鶏肉、豚肉料理、豆汁 naw. g'eu. を飲む。肉や酒も捧げることは出来ない。肉を食べることは出来るが、水牛肉、豚肉は駄目。生理のある女も (佛房に) 行くことは出来ない。…… 上 (佛房のこと一注) に行けるのは、チョハパ chaw ha^ˊ pa. (未婚男性) だけだ (聞き違いか?一注)。女 ya^ˊ mi^ˊ は駄目だ。

<佛><シャン族>

アシャなど (佛 fu. には) 妻子はいなかった。シャン族 Pi^ˊ Chaw^ˊ の (仏教) 僧と同じだ。

<佛><タイ>

(佛房一帯には) 飯を捧げるところ、水を捧げるところ、説教するところ bon ma. kui. などがある。銅鑼がある。大きな銅鑼だ。タイから持ってきたものだろう。とても値が高い。3万 (元) 余りだという。

<現在の祭祀>

カウーサーシュ hk'a^ˊ u^ˊ sha^ˊ sheu. (村の上方に作ら



写真 12-21 賽罕村大寨の李姓男性の家の祭壇。蠟燭を点してくれた。 2012年04月18日



写真 12-22 賽罕村大寨の李姓男性の家の祭壇。 2012年04月18日



写真 12-23 賽罕村大寨の李姓男性の家の祭壇。祭壇の下部の焼香場所。 2012年04月18日



写真 12-24 賽罕村大寨へ到る道端にあった精霊祭祀の跡。 2012年04月18日

れる村の祭祀場一注)もある。佛房 *fū- yeh* の上の方にある。(カウサンシュと佛房の)2つは違うものだ。佛房はこの辺の4村、ナローアプデェ、トゥイエ、フパ、サイハンを司る。カウカシュ *hk'a' u' hk'a' sheu* (村の上方の村神の祭祀場。サーシュ [山神] とカシュ [村神] という表現の違いがあるが同じものを指す一注)はこの村と隣村のみを司る。

<現在の祭祀>

正月にはカケヴェ *k'a hk'e' ve* (ラフ族伝統の輪踊り一注)をする。戦馬坡、ナロー (不明)、瀾滄の人たちがやって来る。

<佛><現在の祭祀>

佛房 *fū- yeh* は、ジャガ *Ca. G'a* が管理している。村神 *hk'a' sheu* は李ジャブが管理している。玄米をもって、ひとりで (村神に) 登る。紅玄米だ。村神は角村に管理する者 *guan pa-* がいる。

各家にも焼香所 *sha tu' kui* がある (この「焼香所」は家の祭祀場となっている一注)。

<現在の祭祀><禁忌>

(ここで実際に李姓男性の家の「焼香所」を見せてもらうことにした。)

(線香の他に) 蠟燭も点す。酒、肉を捧げてはならない。(捧げてある) 玉蜀黍は獲れたばかりの初物を捧げたものである。正月に捧げた。

馬日 *mvuh' nyi* に各家で (家の祭祀場で) 点す。虎日 *la' nyi* に佛房 *fū- yeh* で点す。

(家の祭祀場には) 正月には玄米 *ca. hk'a* も捧げる。粳米 *ca. yaw' shi-* だ。小さめの竹籠に入れて捧げる。

<現在の祭祀><キリスト教>

(李姓男性が実際に祭壇に点して見せてくれる) 蠟燭はペアのもの (二本がくっついて一本となっている一注)を一本だけ点す。(祭祀棚の)上方にくっつける。ラフ族でもキリスト教徒は、焼香しない *sha ma' tu'*。

<現在の祭祀>

村にはモーパ *maw' pa-* (呪医) もいる。祭祀 (焼香者 *sha tu' pa-*) もモーパの仕事が出来る。(モーパの儀

礼の際には) 鶏や豚をつぶす。昔の祭司は、モーパの仕事 *maw* はしなかった。祭司はモーパのようなことをすべきでないと言って。

<佛>

アシャ *A⁻Sha* とジャプ *Ca, Hpeu[˘]* は南柵で (人々を) 教えた。かつて「佛」*fu-* がいた村は、ラフ村、ムデ村、パティショール村、シャンスー村だ。シャンスー村は向こうにある。

(佛 *fu-* は) 虎日 *la[˘] nyi* ごとに教えた。…… 戒日は虎日だった。その日には野良仕事をしない。線香を点す *sha tu⁻ ve* のは、馬日 *mvuh[˘] nyi* と虎日 *la[˘] nyi*。…… 龍日 *law[˘] nyi*、豚日 *va, nyi*、虎日、馬日には米の精白をしない。

<佛><禁忌>

(筆者; オリ *aw, li[˘]* [慣習] が多いね)。オリどおりきちんとしないと、薬を飲んで死ぬ人が出る。昔は多かった。ずっと前のことだ。…… 今は死ぬ人はいない。

<現在の祭祀>

(手首に着けている) 聖糸 *a mvuh hkehn* は正月の時(に結んだ)のもの。正月には、いろいろな村に遊びに行った。

「八月の実をもぐ」*pa yeh, shi- sha⁻ ve* という話は本当ではない。(八月のお祭りでは無礼講になり) 女の胸を触る *ya[˘] mi[˘] cu⁻ hka[˘] ve* というのは、本当ではない。

「八月十五」*pa yeh, shui ve⁻* という。遊んで楽しむ *le- g[˘]ui[˘] ve*。…… ごちそうを作って食べる。…… カウーカシュ *hk[˘]a[˘] u⁻ hk[˘]a[˘] sheu*。(村の上方の村神) に捧げ物をする。

7月、6月(の儀礼) はしない。昔はしたが、今はしない。

祭司(焼香者 *sha tu⁻ pa-*) はジャラ *Ca, La[˘]* がやっている。

13. 東主佛

海拔高度 1,640 メートル

東主は、かつて大きな「佛」*fu* があった地として、各種文献にもその名が記されている。その中には「五佛之地」のひとつとしているものも少なくない。

しかし現在の東主にはラフ族は住んでおらず、老緬族と呼ばれる人々が住んでいる。老緬族は中国の公式分類ではラフ族に含められているが、その言語はラフ語とは全く違い、相互に理解不能である。老緬族はラフ族とは民族的には別だと考えた方がいいが、老緬人たちはかつて佛運動の盛んな時代に老緬族はラフ族とともに戦ったという。

現在の東主には、かつてそこにあった佛房が再建されており、「瀾滄拉祜族自治県文物保護単位」に指定されている。

しかし小学校の敷地の中に再建された佛房は倉庫などに使用されており、祭祀の対象となっている様子は見られない。

筆者は 2012 年 04 月 09 日に東主を訪れた。村人たちにはラフ語も標準中国語も通じなかったために、佛房について聞くことはできなかった。佛房の扉は施錠されていたために中を見ることはできなかったが、隙間から覗くと、内部は空っぽだった。佛房の横には、それが「瀾滄拉祜族自治県文物保護単位」になっていることおよび佛房のいわれを記した石碑があった。

佛房が立つ村の人に直接話を聞くことはできなかったが、佛房を知る人たちから、以下のような話を聞くことができた。そのうちひとつはかつて佛房のある村に住んでいた老緬人による話で、佛房がまだ村人たちの崇拜の対象だった頃のような様子について教えてくれる。

資料 13-1(電子メール) 雲南ラフ族の間で長期フィールドワークをおこなった堀江未央(女性、28 歳)の話、2012 年 04 月 08 日

<佛>

佛房は小学校の敷地内にある……。佛房と言っても知らない人も多いと思う。あの辺りの人たちは全然ラフ語が分からない……。私が行ったとき(2012 年

02 月末一注)は、佛房の中に玉蜀黍の芯が散乱しており、全く何も佛房として使われていませんでした……。

資料 13-2(インタビュー) 瀾滄県勐朗鎮の政府のホテルのレストランで料理人をしている東主出身の老緬人(男性、50 歳代?)、2012 年 04 月 09 日、ラフ語は達者でないのか、途中から同僚のラフ人に通訳してもらいながらラフ語で話を聞いた。

<佛>

出身は東主老緬寨。村には昔「佛房」があった。祭祀場があり、線香を点していた。

石の大きな焼香壺が 2 つと小さな円筒状の祭祀道具が 4 つあった。それを触った人は病気になった。それが勝手に自分で倒れても、その頭の向いた方向にいた人が病気になった。倒れても自然に自分で起きあがって、元に戻った。

これらは自分が子供の頃のことで、今まだあるかどうか、長く村に帰っていないので知らない。

祭祀場の周りでは、草を取ったりしてもいけなかった。そのままにしてあった。

祭祀場を管理する者がいたかどうか、小さいときのことなので知らない。

<老緬族>

東主周辺には、老緬族の村がいくつかある。

資料 13-3(インタビュー) 作朗八隊の村人たち(男性、30 ~ 60 歳代?)、瀾滄県富邦郷作朗村八隊にて、2012 年 07 月 15 日

<佛>

その「パ」*hpa*。(僧)(かつて作朗にいたという「ジャフアパ」*Ca, Fa^h hpa*、一注)以前には、代々長く「パ」がいたそうだ。「ジャカーパ」*Ca^h K'a^h hpa*、とか、「ジャフア」*Ca, Fa^h* とか……。作朗にひとりいた。東主、○○(不明)、××(不明)、ムヌ(勐糯) *Meun^h Neu^h* にもいた。ムヌが「兄」*aw, u hpa^h* で、ここ(作朗)が「妹」*aw, nu^h ma*(オウパ *aw, u hpa^h* とは実際には、自分の妻の兄または弟で、その姉または妹の守護者として、



写真 13-1 再建された東主の佛房 2012 年 04 月 18 日



写真 13-2 再建された東主の佛房がその中に立つ小学校
2012 年 04 月 18 日



写真 13-3 東主佛房が瀾滄県の文物保護単位となっ
ていることを示す石碑 2012 年 04 月 18 日

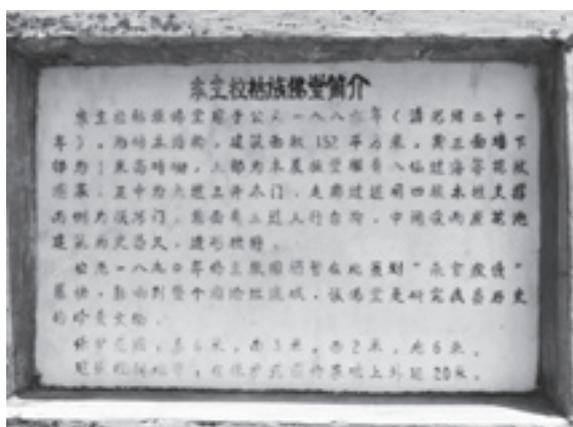


写真 13-4 石碑の裏。「東主拉祜族仏堂簡介」が彫ら
れている。 2012 年 04 月 18 日

姉または妹の夫に対し優位な立場にある一注)
東主はここ(作朗)の言うことを聞いていた cho. ka.
hkaw^h ti^h na ve。オリ aw. li^h (重要な年中祭祀一注)の
時には、ここに参りに来た。

資料 13-4 (電子メール) 堀江未央(女性、28 歳)が
瀾滄県竹塘郷のラフ族住民(男性、1941 年生れ)か
ら聞いた話、2013 年 02 月 16 日

<佛>

へパ(Heh^h Pa^h、漢族一注)にそそのかされて、誰
かが Sha lul khie (線香を点す器)に牛の骨を点した。
そしたら三佛祖は「お一、お前たちによかれと思っ
ているのに、私にこんなことをするのだな」と言っ
て、Meud khad (西盟のこと)にポイした(hpaw-e、去った
という意味一注)

東主拉祜族佛堂簡介

東主拉祜族佛堂建于公元一八八六年(清光緒二十
一年)。为砖木结构,建筑面积 152 平方米,其正面
墙下部为 1 米高砖砌,上部为木质板壁雕有八仙过海
等花纹图案,正中为六道三开木门,走廊过道用四根
木柱支撑两侧为拱形门,前面有三道人行台阶,中间
设两座花池建筑历史悠久,造形独特。

公元一八九〇年佛主张国辅曾在此策划“杀官废
债”暴动,影响到整个澜沧江流域,该佛堂是研究我
县历史的珍贵文物。

保护范围:东 6 米,南 3 米,西 2 米,北 6 米。

建设控制地带:在保护范围的基础上外延 20 米。

碑文の内容は上の通りである。碑文には西暦 1886 年(清
光緒 20 年)とあるが、実際には西暦 1886 年は光緒 12 年
である。

14. 佛房寨

海拔高度 1615 メートル

瀾滄県の各地には「佛房」やそれに類する地名が残っているが、それらはかつて大小の「佛房」があった場所だと考えられる。勐朗鎮にも「佛房」という場所があるのを地図で見つけて、2012年4月18日にそこに行ってみた。

勐朗鎮の「佛房」は、瀾滄県勐朗鎮から普洱市へ向かう幹線道路沿いにある。しかしそこには佛房跡もなければ、現在使われている祭祀場もない。ただ道路沿いにある「観景台」の名前が「南柵」や「Y口」（雅口）だったりする。これらはかつてのラフ族の佛房のあった地やゆかりの地の名前と同じである。

雲南省瀾滄拉祜族自治県志編纂委員会編（1996：46-47）によれば、民国15年（1926年）に勐朗に県政府が置かれることが決まったが、1950年代に政府機能が徐々に移されるまで、佛房に政府機能が置かれていた。



写真 14-1 佛房から望む县城・勐朗鎮 2012年4月18日



写真 14-2 「南柵」の文字が見える「観景台」 2012年4月18日



写真 14-3 「Y口」の文字が見える「観景台」 2012年4月18日

15. 勐卡佛

西盟県勐卡にあった佛房は、南下してきた仏教徒ラフ族が西方でたどり着いた最後の佛地であった。そこで仏教徒ラフ族たちは清朝軍と戦ったが敗れ、指導者李通明は投降したのち、清朝から官職を与えられた。

新中国成立後に瀾滄県で30年以上県長を務めた故李光華と普洱市の幹部を務めた張光明は、西盟県勐卡の仏教徒指導者の子孫である。今でもラフ族の村人がふたりについて述べるとき、「彼は仏祖だ」と言うことがある。

筆者は勐卡佛について、雲南滞在中にいろんな人から話を聞いた。また2012年04月09～10日に勐卡佛房を訪ね、現在の管理者（自称「ボク」paw hku[˧]）から詳しい話を聞いた。

他所の多くと異なり、勐卡の佛房では現在でも祭祀が行なわれ、信仰の対象となっている。

管理者・張さん（65歳）は、単に佛房での定期祭祀を行なうだけでなく、人々の心身の不調の原因を卜占によって判断し、治療のために儀礼を行なっている。

また張さんからは、毛沢東は「佛」の転生であり、同一であるという顕著な信仰が聞かれた。

筆者は勐卡佛房で、佛房跡の観察、馬日の定期祭祀の観察、身体の不調を訴えてやって来た住民のための卜占と治療儀礼とを観察することができた。

三佛祖佛房遺址

海拔高度2030メートル(広場)、2055メートル(上部)
「西盟佤族自治县重点文物保护单位」になっている。

資料15-1（インタビュー）西盟県幹部（男性、40歳代？）の話、2012年04月09日

<佛>

西盟にはアシャフジュ A[˧] Sha Fu. Cu[˧]、昔のグシャ G[˧]ui. sha の手下の佛 fu. があつた。今では何も残っていない。

資料15-2（インタビュー）張光明（男性、70歳代？）、西盟土司の家系で、元普洱市幹部、2012年04月09日
<時代変化>



写真15-1 西盟土司の子孫・張光明 2012年04月09日

昔は西盟も瀾滄も一緒だった。勐朗（瀾滄県の県都一注）は「ガイファン」（1949年の「解放」のこと一注）の前には人は住んでいなかった。マラリアを怖れて。ピチョ（Pi[˧] Chaw[˧]、傣族）の一村があつた以外には人はいなかった。

<移動><台湾><ワ族>

台湾にもラフがいる。昔、国民党と一緒に逃げた人たちだ。ラフの他にアヴァ（A[˧] Va[˧]、ワ族）などもいる。

資料15-3（インタビュー）瀾滄県東回郷出身で昆明在住のラフ族幹部（男性、50歳代？）、2012年04月10日

<佛>

張光明は昔のカシエロー hk[˧] a[˧] sheh. lon[˧]（大指導者、族長の意味一注）だ。

資料15-4（インタビュー）勐卡三佛祖山の管理者、張姓男性（65歳）、2012年04月15日

<現在の祭祀>

「八月十五」pa yeh. shui vu[˧]には、シャフジュイエ Sha[˧] Fu. Cu[˧] yeh.（三仏祖の家）に、ご飯を供える aw. teh tan[˧] ve. また「八月十五」には、新米を捧げる ca. suh[˧] ca. pi[˧] ve.

資料 15-5 (インタビュー、観察) 勳卡三佛祖山の管理者、張姓男性 (65 歳)、2012 年 04 月 14 日

<現在の祭祀>

名前は ××、役職は「ボク」paw hkuˊ だ。

(祭祀の際には、線香のみでなく) 蠟燭も線香も両方点す。

明日(2012年04月15日一注)は馬日 mvuhˊ nyi なので、線香を点す sha tuˊ ve。戒日 shiˊ nyi だ。

あんた(筆者のこと)は「ノロボルマ」Naw, Lawˊ Po Lonˊ Ma (大きな湖という意味一注)には行ったことがあるか? 「ノロフシェ」と「ムショースチー」村だ。2つあり、男女のペアだ aw, pa- aw, ma。グシャ Gˊui, sha が作った。「ノキィ」と「ノロ」。(住んでいる)家も多く、焼香点蠟する場所 sha tuˊ pehˊ tuˊ kui。 (村の祭祀場)がある。

<佛><毛沢東>

「アシャフジュ」Aˊ Sha Fu, Cuˊ が住んでいたのは上の方で、アシャフジュの妻が住んでいたのは下の方だ。「毛主席」の頭も祀っている。

ここには「毛主席」もやって来る。

<現在の祭祀>

ここは焼香所 sha tuˊ kui。だ。蠟燭も点す pehˊ haw, ka, tuˊ ve。明日 (2012 年 04 月 15 日の馬日一注)、下 (の祭祀場) で点す。上 (の祭祀場) では、正月、「初九」、「十五」に点す tuˊ ve。

これは「ホーシャン」(意味は不明一注)。「クワンイン・ホーシャン」の降りるところ ya, la, kui。(観音の依り代という意味か一注)。「初九」「十五」のときに降りる ya, la, ve。(その時には)踊る pawehˊ te ve。上でも下でもやる。

(フイエまで来るが)鍵がかかっている。明日 (2012 年 04 月 15 日、馬日)、ここでは点さない。

<佛><毛沢東>

「毛主席」もここにいる。毛主席とアシャフジュは同一だ。これが毛主席だ(と、毛沢東のポスターを指す一注)。これがいなかったときはアシャフジュで、後でモジュシになった。アシャフジュはここにいた。「北京」で蔣介石や日本が「老百姓」(庶民という意味の漢語一注)をたくさん殺したので、ここ「グアインホーシャク」(グアインホーシャンの場所という意味一注)に戻って、モジュシに「ピン」pinˊ して(転生してという意味か一注)、ガイファン(「解放」)したのだ。

<現在の祭祀>

9カ所に焼香所 sha tuˊ kui。がある。

<日本>

昔、日本人 tzuh, peuˊ が1人来て、写真を撮っていった。男だった。

<佛>

昔は390戸あった(?)。両方に390ずつ(三仏祖佛房跡は、真ん中に広場を挟んで2つ山が並んでいる配置になっている一注)。

<現在の祭祀>

筆者が10元布施をすると、こんなたくさんありがとうといった態度を張さんはした。その後、言葉を唱えてくれた。言葉の中には「アシャフジュ。ナボナシエマ Na Bo Na Shehˊ Ma などの呼びかけ語があった。これらの神格にたいして言葉が向けられているのである。その後、張さんは「あんたは10元も捧げた tanˊ ve から、1000元も「オシ」aw, shiˊ (御利益といった意味一注)があるだろう」と言った。

<佛>

(祭祀場には?)ラフ語の「フリ」fu, li。(佛の文字という意味一注)がある。漢字とは違う。

<現在の祭祀><禁忌>

ここではラフは肉食飲酒してはならない。戒日 shiˊ nyi に限らずいつも。

おれ(張さん)はいつもここにいる。

<佛><漢族との戦争>

昔、ラフと「ヘパ」Hehˊ Pa- (漢族)は戦争をした bawˊ da, ve。

<移動><タイ>

昔ここは大きな村だったが、○○(不明)があつて、(住民は)タイ国、南の地へ逃げてしまった。

<佛>

腕時計の高度計で測った海拔高度は2055メートル

<佛>

ここには全部で24の仏塔 kaw mvuhˊ がある。アシャフジュの仏塔だ。焼香所 sha tuˊ kuil。が8カ所ある。

<佛><超自然的な力>

アシャフジュは老いることがない maˊ mawˊ puiˊ。ヒーヴァコヒーができる Hiˊ va, kˊawˊ hiˊ te puiˊ ve (意味は不明一注)。……何でもできる mvuhˊ sha mvuh ye, laiˊ yan, te puiˊ ve。

<佛>

これは焼香所 sha tuˊ kui。これは「北京」Peu, Kin 方面 hpawˊ のものだ。(東西南北)四方にある。

これも焼香所だ。全部で24ある。

これは「地の創造主」 mi. gui. te sheh. hpã. グシャ・シャフジュ G'ui. sha Sha Fu. Cũ (三仏祖グシャという意味一注) だ。

<佛><超自然的な力>

アシャフジュ Ã Sha Fu. Cũ はラフだ。へパ Heh̃ Pa. (漢族) ではない。いろいろな言語を知っていた。空を飛べた(?)。

<佛>

昔、焼香所・点蠟所 sha tũ kui. peh̃ tũ kui. は8カ所あった。

<民族関係><シャン族><漢族>

この辺は、シャン族 Pĩ Chaw̃ は少なく、へパ Heh̃ Pa. (漢族) が多い。

<佛>

かつてアシャフジュは上(佛房一注)に、妻子は下(村の中一注)に住んでいた。

これも仏塔 kaw mũ だ。24ある。アシャフジュの仏塔 Ã Sha Fu. Cũ kaw mũ だ。

これは「パシャー」という(傘型の儀礼具一注)。ここで線香を点す sha tũ ve.

ここにあるのは(アシャフジュの)オヴィオニ aw. vĩ aw. nyi (一族、親戚)の墓だ。

これは「公主」のもの。アシャフジュの孫の「李事蘭」の墓。(墓標には、「1997 建立1896 年生れで」。アシャフジュの「二孫女」(二人目の孫娘)、李通明的二公主(李通明の次女)、1942年(?)日本侵略の時には「.....」と書かれている一注)。この人は佛管理者 fu. guan pa. をしていた。張光明の母だ。

李光華も昔ここに住んでいた。娘は〇〇(不明)に住んでいる。「ナファ Na Fã 公主」という。漢語名は「張シュジュ」という。

湖だ。昔はなかったものだ。アシャフジュが呼んで、水がやってきて、できたものだ。

これは鳥(の像)だ。

動物 to nũ to sha. でも何でもアシャフジュが支配している。水も、彼が呼べばやって来る。

(アシャフジュの)妻は「水の娘」ĩ kã yã mĩ だ。彼らは人間ではない(グシャだ、という意味一注)。

(ボイエ bon yeh. 近くの仏塔 kaw mũ で)これは龍の頭の角(?)、これは龍の舌だ。点蠟焼香 peh̃ tũ sha tũ ve する。

線香を作って乾かしている。

資料 15-6 (インタビュー) 勐卡三佛祖山の管理者、

張姓男性(65歳)、2012年04月14日

<現在の祭祀>

「八月十五」には新米祭もおこなう。

「十月十五」にはアシャフジュの馬(馬型の石)を祀る祭祀が行なわれる。

<佛>

アシャフジュは、人々に「仲良くしろ」と教えた。

<佛><毛沢東>

昔ここにアシャフジュが住んでいた。後に「毛主席」となり、さらに天に昇った(?)。アシャフジュは不死である。

<現在の祭祀>

村人は戒日 shĩ nyi にも仕事をする。

張さんは、ここ(佛房)に住んで5年になる。佛房 fu. yeh. は、新しく再建されて6年になる。「老百姓」が食べ物を捧げてくれる tañ ve.

俺(張さん)は、「森の薬」 heh puĩ hk'aw na. tsuh̃ (生薬)も知っている。

(佛房で捧げる供物としては)飯、おかずがあり、茶や煙草は捧げない。酒と肉は捧げてはならない。グシャは菜食である。

資料 15-7 (インタビュー) 勐卡三佛祖山の管理者、張姓男性(65歳)、2012年04月14日

<佛>

(アシャフジュは)馬に乗って、南に去った。

「李土司」は、南の「ミティシェヴィ」から来て、グシャをした。アシャフジュの娘婿だ。李通明だ。妻は「ナゴ」 Na K'aw, 「ナゴテ」 Na K'aw Teh. といった。父は「ハプコエ」といった。タイ国の南の「ミティシェヴィ」だ。ラフ女はそこに皆行く。

<現在の祭祀><佛>

孟連に今いくつも佛がある。オロフ、パトー(班朵)、レーヌウ、リーシャ佛、ガホ佛、ヴァロー、アーカー佛、ショーカホなどである。

<佛><超自然的な力>

彼(アシャフジュ)がいなければ、できない。彼は何でもできる。こんな小さなものにでもなれる(?)。

<佛><民族関係><白人>

(アシャフジュは)死後には.....(不明).....初めは「ガラ」Kã Lã (西洋人)のところにいた。.....「ガラ」は娘 yã mĩ で、「へパ」Heh̃ Pa. (漢族)は「老大」(長子)のようなものだ。

<佛><毛沢東>

(アシャフジュは)ここにいたときには「アシャフジュ」で、向こう(「北京」の方一注)にいたときは「毛主席」だった。「毛主席」にもアシャフジュにも、口の下のところにほくろ hpeh˥ na˥ shi˥。(アシャフジュは)後に「毛主席」になったのだ。同一人物だ yaw˥ te˥ g'a˥ ti˥)。

アシャフジュがここに住む前には水 i˥ ka˥ (湖)はなかった。彼が呼んで、水がやってきたのだ。グシャが石を踏んだ足跡が、石に残っている。マシャ村(にある)。……アシャフジュは何でもできる。

<佛><民族関係><白人>

「アジュ」(何を挿すのか不明一注)……ガラ Ka˥ La˥ (西洋人)がアシャフジュに頼んで作ってもらった(?)……どの民族もアシャフジュを頼みにしていた。彼でなければ、頼ることはできない。

<佛><予言><民族関係><漢族><ワ族>

アシャフジュは2030年に帰ってくるという。ヘパ Heh˥ Pa˥ (漢族)も自分の国 mvuh˥ mi˥ に帰る。ラフだけになる。アヴァ A˥ Va˥ (ワ族)も。平和で仲良くなる ma˥ ya˥ da˥。それぞれがそれぞれの国 mvuh˥ mi˥ に寸で。(アシャフジュが)帰ってくるときには……だそうだ(アシャフジュ再臨前の予兆について述べられているが、内容不明一注)。そうグシャは教えた。

<佛><伝承><ワ族><文字>

昔、ワ族 A˥ Va˥ がグシャの馬を盗んだそう。馬を盗んだ。(それが)後で石になった。……(馬だった石は)水で洗うと、字 tzuh˥ meh˥ が浮かんでくる。中国の文字が、3つの文字が(漢字のことであろうが、「漢族の文字」ではなく、「中国の文字」Co Kaw, li, と表現している一注)。「イマズ、ズマシェ」と書いてあるそう。 (意味は)「大学」da˥ shaw, (博士、博学者という意味一注)でも分からない。佛の文字 fu˥ li˥ だ。」

<佛><時代変化>

(2つある祭祀場のうち)上は「フイエ」fu˥ yeh˥ で、下は「ボイエ」bo yeh˥ だ。かつて解放軍が上に○○(不明)を5つ作った。

資料 15-8(インタビュー、観察)勐卡三佛祖山の管理者、張姓男性(65歳)、2012年04月14日

<佛>

(李通明は)「ロープシェヴィ」から北上してここに来た。父の名は「ハプコエ」と言ったそう。

<現在の祭祀><佛>

「オロフ」は孟連の佛 fu˥ だ。アトアネ・ムタイシェ

パ、ミグコシェパ(「アトアネ」は不明、「ムタイシェパ」は「雷の主」という意味か、「ミグコシェパ」mi˥ gui˥ kaw˥ sheh˥ hpa˥ は「地の創造主」という意味一注)だ。「アシャフジュの子供」A˥ Sha Fu, Cu˥ ya˥ だ。アシャフジュには子供が4人いた。各人が(東西南北の)4方面にいた。(ここで言う「子供」ya˥ は文字通りの子供という意味の可能性もあるが、むしろ「アシャフジュの信者/忠実な手下」という意味だと考えられる一注)。

<現在の祭祀>

今晚(2012年04月14日)はまだ点さない。明日(04月15日、馬日)の朝から、点す。

グシャは、(線香や蠟燭を点して祭祀をすると)そのエッセンスだけを食べる aw˥ sha˥ cch˥ ca˥ ve˥。

「老百姓」だと、満月と新月の他に(?), 虎日 la˥ nyi˥、馬日 mvuh˥ nyi˥ の日だけ戒日 shi˥ Nyi˥ を過ごす。

資料 15-9 (インタビュー) 勐卡三佛祖山の管理者、張姓男性(65歳)、2012年04月14日

<佛><時代変化><文化大革命>

「事蘭公主」(李事蘭)は「文化大革命」の時に亡くなった。ラフ族もワ族も、各族少しずつ「批判」した。当時は、持っている者は「批判」された。当時、金持ちだとされて。

<佛><時代変化><毛沢東><超自然的な力>

昔はここ「ロズナス」からタイ国までを、彼らは支配していた。「ズマスー」からタイまでのところを。彼はここの「土司」だった。

今は張光明があちに住んでいる。(三仏祖の主要な末裔としては)張光明しかいない。李光華は死んだ。

当時、張光明も李光華も○○で(不明)、勐卡の人々が(李事蘭を)殺した。ガイファー(「解放」)××で(不明)、(張光明は)昆明に3年にて、北京に「毛主席」を訪ねた。留守のあいだに母は殺されてしまった。

後に「ガイファー」(「開放」、改革開放のこと一注)になって、もう手を出す人はいなくなった。皆死んでしまった。30年も生きていなかった。(文化大革命時に李事蘭らを迫害した人々も、神罰にあって死んでしまったという意味一注)。

ここの仏塔 kaw mu˥ の石を盗んで売った人々も皆死んでしまった。悪いことはできない。狂って死んでしまった。山のなかをさまよい歩いて(死んでしまった)。今はもういない。農業しても食えなかったから(石をぬ死んだ理由について述べていると思われる一注)。

李事蘭を殺した人たちも皆死んでしまった。狂い、さまよい歩き、家にいずに、死んでしまった。妻や子供がいるところはいず、さまよい、森で死んだ。

<佛><現在の祭祀>

ここ(佛房)にも、60歳以上でないのと済むことが出来ない。李事蘭の子供たちも、向こうに住んでいる。ここに住んでいず、オリ aw. liː (祭祀や年中行事のこと一注)の時だけ来る。正月だけ。

<佛><超自然的な力>

毎年ひとりずつ死んだ。手足が○○(不明)になって死んだ。心が邪悪で、浮気や盗みなどしたために死んだ。空から雷が落ちてきたりして(?)。年にひとりずつ死んだ。9人いた。薬を飲んでも医者に行っても治らない。ここでは悪いことはできない。こういうことが起きるから。

<佛><時代変化><超自然的な力>

「ガイクファー」(「解放」)にもここにいた。その後、あっちに登った(?)。あっちにも焼香所 sha tuː kui. がある。仏塔 kaw muː もある。そこでは木を取ったりしてはいけぬ。…… 焼香所 sha tuː kui.、踊る場所 k'a hkchː kui. pawehː te kui. もある。(反対側の丘を指して一注) 向こうの上の方だ。…… あっちから登る。…… 上には仏塔が1つある。

資料 15-10 (インタビュー) 勐卡三佛祖山の管理者、張姓男性(65歳)、2012年04月14日

<佛>

「リショラバ」(地名一注)には、仏塔 kaw muː がある。「水の娘」iː kaː yaː miː の居所だ。フイエ fu. yeh. はない。仏塔のみ。…… 昔、ナボマ Na Bo Ma がいた。「ナキマ」Na Hkiː Ma という名の(女がいた)。アシャフジュの妻ではない。アシャフジュがここにここにいた時、妻もここにいた。しかし、彼らは一族のもの aw. viː aw. nyi だった。孟連の方からやって来た。

アシャフジュは人間でなく、グシャだ。ナキマも人間でなく「水の娘」iː kaː yaː miː。ナボマは「水の娘」で、アシャフジュの妻。実体はない aw. sheh. pa. maː caw. (身体はなく精神のみだ一注)。グシャの妻 Gːui. sha miː ma も、衣服も同じようなものを着ていた。妻もラフで、ひとりはグシャの娘で、一人は「水の娘」iː kaː yaː miː。

<佛><伝承>

昔アシャフジュがここにいた時、弩を射って、ずっと向こうのタイ国、サルウィン河(ナクグ Na Hkonː

gːui.、中国側は「怒江」と呼ばれる一注)の大木にまで届いて、そこに刺さっていたそうだ。ナクグはテレビに出ていた。今は橋があるそうだ。…… アシャフジュはその教えを聞かない人には厳しかった。教えを聞く人に対しては何も悪いことはしなかった Yaw hkawː na ve chaw maː ya.。

<毛沢東><蒋介石><伝承><台湾>

「蒋介石」と「毛主席」は兄弟だ。蒋介石が兄で、毛主席が弟。毛主席は人々を愛した。蒋介石は大商人(「老闆」)。毛主席に勝てずに、台湾に去った。……

<佛><台湾>

張光明の父の写真も台湾からもってきた。台湾に置いてあった。当時「国民党」が(もっていた)。今は張光明の妹のところにある。父の写真。「ジャヨダーター」ちう名前だった。

<佛><毛沢東>

アシャフジュの写真はない。孟連のシャン族 Piː Chawː のキリスト教徒 bon yaː のところに張○○(不明)、李通明の写真がある。

(毛沢東のポスターを指して)これがアシャフジュの写真だ。「毛主席」だ。ここのおごのところにほくろがある。アシャフジュにもあったそうだ。

資料 15-11 (インタビュー) 勐卡三佛祖山の管理者、張姓男性(65歳)、2012年04月14日

<佛><毛沢東><超自然的な力><白人><予言>

佛 fu. の系譜は次のようなものだ。「南柵佛」は最初の佛 fu. の地だ。グシャの文字/本 Gːui. sha li. がある。「北京」Peu. Kin の文字 li. で書かれている。アシャフジュは「北京」で学び li. henː ve、ここにやって来た cho. hkːaw. ya. leh. 当時ここにはラフ族が3800戸住んでいた。しかし日本人(中国に侵攻してきた日本軍のこと一注)がたくさん人を殺したので、○○(地名、不明)に戻って、向こうで「ガイクファン」(「解放」)した(新中国を作ったということ一注)。「毛主席」となって(毛沢東に転生したということ一注)。俺はそこには行ったことはない。

次の佛 fu. の地は「作朗佛」だ。(現在の富邦郷作朗村にあったと考えられる一注)。

次の佛 fu. の地は「トラフ」Tawː Laː fu.。(「東朗佛」だと思われる。位置不明一注)。

次の佛 fu. の地は「ブルフ」だ(漢字表記、位置不明一注)。「アシャフ」A. Sha fu. とも言う。今でも「佛房」fu. yeh. がある。

次の佛 fu- の地は「拉巴佛」La^ˋ Ba^ˋ fu- だ。西盟県と瀾滄県の境界地域にある。焼香所 sha tu^ˋ kui- がある。「佛房」fu- yeh- は小さい。

最後の佛 fu- の地は「勳卡」だ。

アシャフジュは（実体は）一人だけだ aw, sheh- hpa^ˋ te^ˋ g'a^ˋ ti^ˋ yo- 。たくさんの場所に住んだが、人々が仲良くしないので、移った。（佛 fu- の地は）9カ所ある。（現在孟連にある）「オロフ」を入れると、10カ所だ。

アシャフジュは、石を踏んでも、跡がついた。

8つ……アシャフジュの馬の岩があるところ。……「ジャモ」という……アシャフジュの友人だ。

アシャフジュの本名は「ジャヘアヘア、つまりジャヘア」Ca, Heh A^ˋ Heh Pa-, Ca, Heh と書いた。

友人は「テバブ」（意味不明一注）で高僧をしていて死んでしまった。木を伐って、佛房 fu- yeh- を作るうとしたところ、山の精霊に咬まれてしまったそうだ hk'aw, sheh- hpa^ˋ che, she, ve ce^ˋ 。……水が涸れた……彼も「ロチャー」（地名一注）、ロチャーにもアシャフジュの佛 fu- （仏像か一注）がある。勳朗 meun^ˋ la^ˋ （瀾滄県の県都一注）の近くだ。

昔「ガラ」Ka^ˋ La^ˋ （白人、ここではイギリスの植民地勢力のことを指す一注）がロチャーを求めて、2～3度やってきたが、（アシャフジュは）あげなかった。（白人は）アシャフジュに勝てなかった。

（アシャフジュは）アテシャフジュ A^ˋ Teh, Sha Fu- Cu^ˋ とも言う。同じ者だ。

（アシャフジュは）2030年に再臨する。……人々が仲良くして、夫婦も一緒になり、民族にかかわらず団結する。「グシャの日」G'ui, sha ve aw, nyi だ。

焼香点蠟 sha tu^ˋ peh^ˋ tu^ˋ しないと、盗みや悪いことがはびこる。（そういう期間が）3年あるという。大風、洪水、地震、月蝕、日蝕、火災が起こる。するべき祭祀をきちんとしないと aw, li^ˋ ma^ˋ yu, k'o, 恐ろしいことになる。

<現在の祭祀><キリスト教><禁忌>

あんたら（日本人）も（線香や蠟燭を）点す tu^ˋ ve か？

村には祭祀（焼香者 sha tu^ˋ pa-）がひとりいて、村神の祭祀場（カシュ hk'a^ˋ sheu-）がある。家にも「焼香所」sha tu^ˋ kui- がある。ラフはこうして生きている。

ラフで線香も蠟燭も点さないのは sha ma^ˋ tu^ˋ peh^ˋ ma^ˋ tu^ˋ leh-、班利のキリスト教徒だけだ bon ya^ˋ hpa- sa- ceh, yo- 。班利の宗教 hpa- sa- だと、歌を歌い、握手する。7日を一週 te^ˋ shin^ˋ とする。俺たちは虎日 la^ˋ nyi、豚日 va, nyi、馬日 mvuh^ˋ nyi、満月 ha pa taw-、新月 ha pa che、

も戒日 shin^ˋ nyi だ。（しかし、戒日といっても一日中休んでいるわけではなく）「老百姓」（庶民という意味の漢語一注）は焼香点蠟 sha tu^ˋ peh^ˋ tu^ˋ したら、野良に行く。

「老百姓」は肉食飲酒する。ここ（佛房）にいる者は肉食飲酒してはいけない。

（張さんの呼び方について）呪医 maw^ˋ、大祭司 paw hku^ˋ、先生 sa- la- と呼んでよい。

資料 15-12（インタビュー）勳卡三佛祖山の管理者、張姓男性（65歳）、2012年04月14日

<佛><伝承><シャン族>

「故事」（昔話）がある。シャン族 Pi^ˋ Chaw^ˋ はグシャにご飯を食べさせなかった。（追い払うために）グシャのお尻を火で焼いた（具体的には、火のついた薪をグシャのお尻に押しつけたなどの行為を指すのだから一注）。それでシャン族は病気になり、死んでしまった。グシャの方は（シャン族が死んだことを）知らない（つまりグシャが故意にシャン族を殺したのでなく、グシャに不敬な行為をしたシャン族はそのために、グシャの知らないところで死んでしまったという意味である一注）。

<佛><シャン族>

「湖」nawn^ˋ g'ui- はシャン語だ。「ノロノシエ」nawn^ˋ law, nawn^ˋ sheh^ˋ とは湖の大きなものだ。

資料 15-13（観察、インタビュー）勳卡三佛祖山の管理者、張姓男性（65歳）、馬日の朝にボイエ bon yeh- で祭祀する bon yeh, tu^ˋ ve 様子、2012年04月15日 <佛><現在の信仰>

「これがミグテシエマ mi, g'ui, te sheh- ma （地を創造した女神一注）。片方に手が10本ずつある。……16手ある。銀だ。」

「（祭壇には）飯椀4つ、豆汁 naw, g'ui, 3つを捧げる。」

筆者に向かって張さんが「オボ aw, bon が欲しいならば」とお布施を促した。20元を捧げると、大金と思ったのか、張さんは「これで病気にならないよ ma^ˋ na, pui^ˋ ve yo- 。」

張さんの唱える言葉の一部に、「アシャフジュ A^ˋ Sha Fu, Cu^ˋ、ナボナシエマ Na Bon Na Sheh- Ma よ、帰って来てください hko, la, 」という文句が聞こえる。祭祀はこの2つの神格に向けられているのである。

祭壇には、以前の年中祭祀で粃米 ca, yaw^ˋ を捧げたのが残っている。播種前に、粃米を捧げて、豊作への

祝福を願ったものと考えられる。

「グシャに捧げた水は、「グシャの薬」G'ui, sha na, tsuh' として、後で人間がいただく。」

資料 15-14 (インタビュー) 勳卡三佛祖山の管理者、張姓男性 (65 歳)、2012 年 04 月 15 日

<現在の祭祀><佛>

フイエ fu, yeh, には「八月十五」の祭祀の時に、供物を捧げる tan' ve. 新米も供えて食べてもらう ca, suh' ca, pi' ve. 正月には餅を捧げる。正月には人も多い。

<現在の祭祀><佛><文字>

アシャフジュの馬の祭祀は、「シャイエングアイ」でやる。市場があるところだ。「十月十五」、旧暦十月の満月日にやる。アシャフジュの馬には字も書かれている。「佛の文字」fu, li, だ。水で洗うと現れる。(旧暦十月の) 満月日に、豚も一頭つぶして、皆で食べる。「シャンイエングアイ・ヒーマ・モー」という村だ。そこには馬のかたちをした石がある。大きな市場があり、人も多い。へパ Heh' Pa, (漢族) の「老闆」(金持ち) も来る。自分はそこに行くと、(祭祀に加わり) 言葉を唱えてあげる aw, hkaw' yaw, pi' ve. 十月十五の満月日におこなう。ここ(佛房)では、捧げ物はしない ma' tan'. 焼香するだけだ。向こうでは、豚をつぶして、ごちそうを捧げる tan' ve. (アシャフジュの) 馬のあるところは、下方の遠いところにある。アシャフジュの犬が踏んだ跡が、石の上に残っている。

<現在の祭祀><佛><禁忌>

大きな木がある。(ラフ語で)「ヤクジェ」と言う木だ。枝が2つに分れていて、一方には実がなり、もう一方にはならない。この木を切ったり、取ったりしてはならない。漢語では「ターチュンシュ」(「大椿樹」か一注) と言い、シャン語では「マイガンロー」と言う種類の木だ。その辺りにはシャン族も多い。物売りも多い。

<現在の祭祀><佛>

今日 (2012 年 04 月 15 日、馬日) は、下方のボイエ bon yeh, のみ供物を捧げる tan' ve. 上方 (のボイエ haw' yeh,) では捧げない ma' tan' ve. 今晩はボイエ bon yeh, には水だけ捧げ tan' ve, 後日その水をいただいて飲む (お下がりをいただく一注)。

12 月は新米祭をおこなう。

<民族関係><シャン族><台湾>

この辺にもシャン族 Pi' Chaw' は多い。ムシヨ (勳卡の町一注) もシャン族が多い。ムシヨには湖がある。

その湖の水は台湾に続いている。老人 chaw maw' (長

老) が入って台湾に行くことが出来た。湖の中に入ってゆける。

ムシヨ mu, shaw' (勳卡の町) は、村の中だ。新県城の北にある。

<伝承><時代変化><超自然的な力><禁忌><シャン族><未亡人>

(ムシヨにある湖には)「合作社」していた時代に、〇〇(不明)が入って、「七晩七日」7 ha' 7 nyi 出てこなかった。大きな龍が住んでいるという 遊んではいけない (軽んじて不敬なことをしてはいけないという意味一注)。グシャが作ったものだ。とても深い。周辺には人も多い。いろいろな民族がいる。観光地になっている。入るのに 10 元かかる。一日かけても全部見ることができないぐらいのところだ。

シャン族も 100 人狂って (その湖に) 入っていった。アシャフジュの尻に火 (の棒) を突っ込んだので。..... 仲良くしなければならぬ。どんな民族であっても。(お腹が空いている人には) ご飯を食べさせてあげなければならぬ。食べさせるものがなければ、ないと言うべきだ。

子供が多い未亡人 meh' chaw' ma がグシャの果物を 1 つ食べて子供を産んだ。(産んだ子供は) 鳥だった。シャン族はその鳥をとって食べて、大きな湖になった。ノロノシェ Nawn' Law, Nawn' Sheh' だ。

<移動><伝承>

昔ラフ族が住んでいたのは、湖のノシェノロ Nawn' Sheh' Nawn' Law, だ (ノロノシェと同じものを指すとされる一注)。字も書いてある (ノシェノロ付近に碑文があるということか、あるいは、歴史書のなかにラフ族がかつてノシェノロ付近に住んでいたと書いてあるということか不明一注)。

<現在の祭祀><禁忌><伝承>

悪いことをすると、何でも起こりかねない Te ma' haw, leh a hto ma ka, te pui' hpeh, pui' ve yo, 。

下方にあるノイエ Nawn' Yeh, では、子供が孫を背負って、魚を少し獲って食べた ノイエになってしまった。ノイエとノロー Nawn' Lon' と 2 つ (の湖) がある。(ノイエは「小さい湖」、ノローは「大きな湖」という意味である。ラフ族が神聖な山や湖などの地形を語るとき、しばしば一対のものとして存在していると言う一注)。

資料 15-15 (インタビュー) 勳卡三佛祖山の管理者、張姓男性 (65 歳)、2012 年 04 月 15 日

<現在の祭祀><佛><超自然的な力>

(筆者；ノロノシエには昨日行かなかった)。(ノロノシエは) 見るところが多い。道もできた。ムシヨ村だ。新泉城の北にある。大きな市場もある。

ノシエ湖も〇〇(不明)もアシャフジュが作った。ここにしかないものだ。

豚日 va, nyi、龍日 law nyi にシャン族は〇〇(不明)する。ご飯を捧げる tan ve。焼香点蠟 sha tu peh tu する。

<民族関係><シャン族><漢族><ワ族>

シャン族 Pi Chaw は昔からラフと一緒に住んでいた。ワ族 A Va もだ。争ったことがない ma ya, da meu。仲良くしていた。

昔はへパ Heh Pa (漢族)はいなかった。〇〇(不明)の他は、へパはいなかった。「解放」後にへパはやって来た。その前はラフ族、ワ族、シャン族だけだった。

資料 15-16 (インタビュー) 勳卡三佛祖山の管理者、張姓男性 (65 歳)、2012 年 04 月 15 日

<佛><移動><タイ><現在の祭祀><伝承><台湾><超自然的な力><毛沢東>

菓草を酒に入れて飲むと、膝によい。グシャの菓 G'ui, sha na, tsuh だ。…… 勳卡にだけある。

アシャフジュがいた時、彼ら(佛房周辺に住んでいた住民たち一注)は向こう(タイの方)へ行ってしまった。

俺はここ(佛房)に住んで5年になる。その前は誰もいなかった。建物もぼろぼろで、祭祀もしていなかった。

李事蘭がいた時は家が多かった。ラフ族の家が 3070 戸あった。

グシャがへムミ Heh Mvuh Mi。(へパムミ Heh Pa Mvuh Mi、と同じ。中国、漢族の国、漢族の地などの意味一注)に行ってしまう、人々は去った。張光明の父母だけ住んでいた。「事蘭公主」だ。

初めは、ジャゴ・ナゴ、アシャフジュ、ジャゴナゴ、リトウシ(李土司、つまり李通明一注)と言われている。李アシャと呼ばれた。後には、李ジャシェー Ca Sheh。ジャシェーも向こう(南の方)からやってきた。ジャシェーもジャゴも向こうからやって来た。ムティシェヴィーからやってきた。ここに来て、妻を娶って住んでいた。父母はハプコエと言ったそうだ。

ジャゴナゴは向こう(南の方)からやってきた。アシャフジュの娘婿だ。「李土司」とも呼ばれる。

「事蘭公主」は、ジャゴナゴ(李通明一注)の子だ。

「事蘭公主」の夫(?)、ジャシェー、ジャシェー・ナロー(ジャシェー、あるいはジャシェー・ナローと呼ばれる者という意味。ある男に言及する際にしばしばその人物の名前の後に、妻の名を加えて、特定される一注)は、李土司の後の者(李土司の次の佛管理者ということ一注)。

ジャシェー・ナローの次は、ジャジョ・ダイパン。

アシャフジュが一代目、ジャゴナゴが二代目、ジャシェー・ナローが三代目、ジャヨ・ジョモが四代目(ジョモ jaw maw は王、主などの意味なので、ジャヨ・ジョモと前出のジャヨ・ダイパンは同一人物と考えられる一注)、ジャコニ(張光明)が五代目、俺の代を含めると六代になる。

ジャシェー・ナローもムティシェヴィーからやって来た。ナローも李通明の娘だ。姉妹だ。

ジャヨ・ジョモは張光明の父だ。その写真を台湾人が撮っていった。台湾人もやってきた。(台湾の)ラフ人が来た。タイ国のラフ人もやって来た。

ジャヨ・ジョモは、ジャシェー・ナローの子。佛の管理者 fu guan pa だった。代々管理してきた。

みんな婿だ。アシャフジュの婿だ。

李光華は、「リジュシ」(意味は不明一注)で、(すぐ近くだが)向こう側に住んでいた。もう死んだ。瀾滄で死んだ。

「ジャティ・ダーショエ」の子だ。ジャティ・ダーショエの父は「リチャ・ジョモ」だ。ふたりとも勳卡にいた。「ラク・ゲーリィ」(意味は不明一注)。

タイに行った者たちが、昔のムメミメ Mvuh Meh Mi, Meh と呼ぶのはここだ。オリ aw, li をここから〇〇(不明)したというところだ。(タイのラフ族の一部も、ムメミメをラフ族の故地とする。ラフ族をラフ族たらしめるオリ(祭祀、法、生活一般の様式)は先祖の時代から伝えられ来たものとされる一注)。

ナローは李通明(ジャゴナゴ)の妹。子供ではない。いや違った、李通明の娘だ。

アシャフジュに娘はいない。アシャフジュに子供はいない。ここには住んでなかった。ム〇〇(不明)に行ってしまった。ここにいたのは李通明の子供だけ。

李通明つまり李土司は、大ボス hku lon だった。大老闆 law pa lon だった。

ジャコスジャ(ジャシェー・ナローのこと一注)、ジャヨ・ジョモ、リフカス(不明)……数多い。

アシャフジュの後、特に力が大きかったのは、ジャゴナゴ(李土司)という人。後継者はジャシェー・ナ

ローで、その後継者は張光明の父(ジャヨ・ジョモ)で、その後継者は張光明だ。

張光明の佛管理者 fu. guan pa. をしていた。この焼香所 sha tu⁻ kui. (佛房一帯を指す一注)は彼らの土地だ。(張光明は)ここで生まれた。

張光明のような佛管理者は、戦っても、〇〇しない fu. guan pa. leh., ma. baw[^] ka. ma^ˇ tsuh^ˇ le^ˇ。国民党でも誰でも、彼には勝てなかった。国民党と戦った。負けなかった。彼のような者は、銃撃しても、弾が当たらないのだ yaw^ˇ na^ˇ shi. ka., ma^ˇ heu^ˇ pui⁻ ve (超自然的な力の加護によって守られているということ一注)。

李光華と張光明は同じ一族 aw. vi⁻ aw. nyi だ。李光華は將軍 ma. ya^ˇ hku⁻ で、張光明は佛管理者 fu. guan pa. だった。李光華は酒も飲むし肉も食べる tzuh. daw. sha. ca^ˇ ので、佛房から離れて住んでいた。張光明は酒も飲まず、肉も食べない。

李光華は瀾滄に住んでいた。「毛主席」と握手したことがある。こっち(勐卡)には、「ラフ・マシャー」、つまり一族の者 aw. vi⁻ aw. nyi がすんでいる。こっちには家はない。

老人 chaw maw^ˇ (物知りの長老)によると、李光華の父母もまた、李土司の婿だったという。ジャコの。一族 aw. vi⁻ aw. nyi だ。

片方(李光華)は軍人 ma. ya^ˇ で、酒をたくさんのみ肉もたくさん食べたので、向こう側にいて、もう一方(張光明)は酒も飲まず肉も食べなかった。佛管理者 fu. guan pa. だったから。

資料 15-17 (インタビュー) 勐卡三佛祖山の管理者、張姓男性 (65 歳)、2012 年 04 月 15 日

<佛><文字><時代変化><文化大革命>

「アシャフジュの本」は、張光明の妹で、ジャン・スジョイ(中国語名)、「ナカ」(ラフ語名)のところにある。彼らはふたりだけの兄弟だ。

「アシャフジュの本」は昔はたくさんあった。しかし「文化大革命」の時に多くは失われてしまった(破壊された一注)。

資料 15-18 (インタビュー) 勐卡三佛祖山の管理者、張姓男性 (65 歳)、2012 年 04 月 15 日

<佛><時代変化><白人><国民党><漢族><禁忌><超自然的な力>

(張さんは)「ガイファン」(解放)の時には、ムシヨ

(勐カの町)に住んでいた。「ガイファン」のまえには、ここで戦争があった baw[^] da. ve。誰が攻めてきても、ここには勝てなかった。「ガラ」Ka^ˇ La^ˇ (白人、ここでは英国植民地勢力を指す一注)とは戦争しなかった ma^ˇ baw[^] が、「リーチャ・ジョモ」のところに来た。「ムシヨノシエ」と「ロチャ」を求めてやってきたが、(リーチャ・ジョモ)はあげなかった。リーチャ・ジョモの領地だったから。「ガラ」は3度やってきた。「シェリー・リーチャ・ジョモ」は与えなかった。「ジャシェー」(ジャシェー・ナローのこと一注)があげなかった。瀾滄の「ロジャ」も求めてきた。「ムシヨノシエ」も「ガラ」だけが欲しかったのではない。(19世紀末から西盟の勐卡周辺は、英国植民地勢力と中国とがその領有を求めて争う場所になっていた一注)。

(勐カの佛 fu. には)国民党も勝てなかった。(勐カの佛 fu.)の方は)戦いはしなかった。グシャが(戦いは)するな、仲良くしろ、と教えたから。戦うと夫婦であっても一緒にいられない、どちらか片方が亡くなることになる。よくない。(この地の)ワ族 A⁻ Va. も(勐カの佛 fu. が)統治していた。

「ガイファン」(「解放」)後にはへパ Heh⁻ Pa. (漢族、ここでは政府を含めた漢族勢力ということ一注)が来た。そして、漢族の言うことを聞いている Heh⁻ Pa. hkaw^ˇ na ve (漢族による政府の支配下に入ったということ一注)。

昔はこういう家はなかった。竹の家ばかりだった。「ガイファン」(「解放」)後に……

「ガイファン」(「解放」)後、ここにいた人たちは向こうに(町の方へ一注)降りていった。ここにいたら、狂ってしまう人 chaw g^ˇ u^ˇ が多かったから。(森から)木 suh^ˇ を取ったりして狂って g^ˇ u^ˇ しまうことが多くあって、住めない cheh^ˇ ma^ˇ hpeh.、ということで、降りていった。「ロシュジェ」に降りていった。そしてここには人がいなくなった。

「合作社」は、下(の町)にあった。李事蘭たちはここにいて、佛を管理していた fu. ha. sha⁻ ve。……グシャが作ったものだ。……

昔、ここでは馬で往来していた。自動車はなかったから。

ここにいと肉は食べない。魚は食べるが。

資料 15-19 (インタビュー) 勐卡三佛祖山の管理者、張姓男性 (65 歳)、2012 年 04 月 15 日

<佛>

李光華は3人兄弟だ。1人は「漢族の地」Heh[˥] mvuh[˥] mi[˥]に住んでいる。1人は「アカチェ」に住んでいる。怒江 Na Hkon[˥] g[˥]ui (サルウィン川)の方だ。妻 aw. mi[˥] ma を娶って、農業をしている。ジャスー Ca. Suh[˥] という名前だ。李光華は(兄弟のうち)何番目かは知らない。

(李光華の)子供は瀾滄にいる。ここにも来たことがある。李光華は死んでから3~4年ぐらい経つ。.....昔はここに住んでいた。ここで生まれた。リーチャ・ジョモ.....李光華は軍人側 ma. ya[˥] hpaw[˥] で、もうひとり(張光明)は祭祀を司る側だった。(李光華はサメを飲み肉も食べるので、佛房から離れたところに住んでいた。張光明は「佛」fu. の方の担当だった一注)。

資料 15-20 (インタビュー) 勐卡三佛祖山の管理者、張姓男性(65歳)、2012年04月15日

<佛><現在の祭祀><孟連>

このパイプは、孟連の市場で40元で買った。孟連には毎年行く。オリ aw. li[˥] (祭祀)の時に行く。孟連周辺には、点蠟焼香場所 peh[˥] tu[˥] sha tu[˥] kui. (宗教的な中心地という意味一注)が8カ所ある。ここの配下だ。

パートー(班朵)、レーヌウ、オロフ、リーシャフ、ガホフ、ワロフ、アーカーホ、ショーカホだ。

(孟連での祭祀には)南嶺(の人々)、○○(不明)も来る。アイェ村(の人々)も来る。道はよい。ここから孟連まで40元、孟連から勐吗まで15元、勐吗から勐啊まで20元だ(実際には、孟連から勐吗までは「農村客運で9~10元、で勐吗から勐啊までも20元はかからないはずである一注)。勐啊からは向こう(ミャンマー側の)パサンにすぐ行ける(近くだ一注)。

勐啊の北にパト(班朵)村がある。レーヌウ村は国境近くにある。

オロフにいるグシャはジャラ Ca. La[˥] という名前だ。(オロフは)勐吗の近くだ。(ジャラは)蠟燭 peh[˥] haw[˥] をたくさんもっている(つまり、いつも熱心に祭祀をしているということ一注)。ご飯は少ししか食べない。農業はせず、いつもホイェ haw[˥] yeh[˥] (祭祀場)にいる。40歳だ。



写真 15-2 勐卡佛房 2012年04月14日



写真 15-3 勐卡佛房。石碑（前面）と管理者の居所。
2012年04月14日



写真 15-4 勐卡佛房。「三佛祖佛房遺址」と彫られた石碑。
2012年04月14日

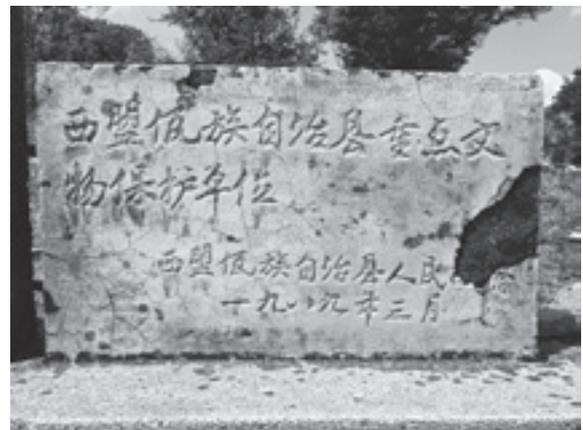


写真 15-5 勐卡佛房。「西盟佤族自治县重点文物保护单位」
と彫られた石碑。 2012年04月14日



写真 15-6 勐卡佛房の池。 2012年04月14日



写真 15-7 勐卡佛房。管理者の居所（左）と祭祀場ボイエ
（右）。手前は仏塔跡。 2012年04月14日



写真 15-8 勅卡佛房。乾かしてある手作りの線香。 2012年04月14日



写真 2-1 双江県ラフ族研究会の設立会議 2012年04月25日



写真 15-10 勅卡佛房。祭祀場ホイエのある丘への入口。 2012年04月14日



写真 15-11 勅卡佛房。祭祀場ホイエのある丘の地面の焼香場。 2012年04月14日



写真 15-12 勅卡佛房。祭祀場ホイエ。前には仏塔と傘が並ぶ。 2012年04月14日



写真 15-13 勅卡佛房。仏塔跡。 2012年04月14日



写真 15-14 勐卡佛房。祭祀場ホイエの内部。祭壇が見える。
2012年04月14日



写真 15-15 勐卡佛房。仏塔跡。仏塔の四方に焼香場が作られている。 2012年04月14日



写真 15-16 勐卡佛房。仏塔前の焼香場。 2012年04月14日



写真 15-17 勐卡佛房。かつての管理者「李事蘭」の墓。
2012年04月14日



写真 15-18 勐卡佛房。「佛主」の墓。 2012年04月14日



写真 15-19 勐卡佛房。佛房近くに作られた「西盟烈士陵园」。
2012年04月14日



写真 15-20 勳卡佛房。ホイェ・ボイエと反対側の丘にある仏塔跡。 2012年04月14日



写真 15-21 勳卡佛房。向いの丘から管理者の居所を望む。 2012年04月14日



写真 15-22 勳卡佛房。現在の管理者「張さん」とその居所。 2012年04月14日



写真 15-23 勳卡佛房。現在の管理者のテレビ。ラフ族の文化イベントが映されていた。 2012年04月14日



写真 15-24 勳卡佛房。儀礼用の蠟燭を作る管理者（左）。 2012年04月14日



写真 15-25 孟連県「オロフ」にいるという宗教者ジャロ。
2012年04月14日、撮影者不明の写真を筆者撮影。



写真 15-26 勐卡佛房。「アシャフジュの遺物」(管理者談)。
2012年04月14日



写真 15-27 勐卡佛房。「アシャフジュの遺物」(管理者談)。
2012年04月14日



写真 15-28 勐卡佛房。「アシャフジュの遺物」(管理者談)。
2012年04月14日



写真 15-29 勐卡佛房。「アシャフジュの遺物」(管理者談)。
文字が書かれているという。 2012年04月
14日



写真 15-30 勸卡佛房。「アシャフジュの遺物」(管理者談)。
2012年04月14日



写真 15-31 勸卡佛房。管理者の寢室の祭壇。 2012年
04月14日



写真 15-32 勸卡佛房。管理者の張さん(65歳)。 2012
年04月15日



写真 15-33 勸卡佛房。管理者の居所に貼られた毛沢東像。
毛沢東はアシャフジュの転生だという。
2012年04月15日



写真 15-34 勐卡佛房。管理者・張さんは薬草にも詳しい。
2012年04月15日



写真 15-35 勐卡佛房。馬日の朝に祭祀場ポイエへ点蠟焼香に向かう張さん。 2012年04月15日



写真 15-36 勐卡佛房。祭祀場ポイエの祭壇。毛沢東像の
前に作られている。 2012年04月15日



写真 15-37 勐卡佛房。祭祀場ポイエに供え物を捧げる管
理者・張さん。 2012年04月15日



写真 15-38 勐卡佛房。祭祀場ポイエの祭壇に点蠟焼香し
て祈る管理者・張さん。 2012年04月15
日



写真 15-39 勐卡佛房。馬日の朝、祭祀場ポイエでの点蠟
焼香の後、寝室の祭壇に点蠟焼香する管理者・
張さん。 2012年04月15日



写真 15-40 勸卡佛房。佛房近くの林の中。かつて李光華の生家があったという。 2012年04月15日



写真 15-41 勸卡佛房。病気を訴えてやって来た男のために卵で原因を占う管理者・張さん。 2012年04月15日

李事兰公主之墓

儿 张光明 张琼秀
李娜娥 孙 张海燕
女 张秀贞 张剑敏
张勇

李事兰 女拉祜族，生于一八九六年。系三佛主的二孙女，李通明的二公主。一九四二年曾动员佤山各民族抗击日本侵略者。解放战争初，她反对国民党统治代领佤山民族投到共产党怀里。她热爱党是爱国者之一。文革中不幸逝世享年七十三岁

公元一九九七年十二月一日立

図 15-1 勸卡佛房の「李事蘭公主」の墓碑に記された内容

16. 南段佛

南段は「五佛之地」のひとつに数えられることもある佛の大きな居所であった。雲南省南端のミャンマー国境に近いところにある村である。そのうち南段老寨には、筆者が訪問した2007年現在も「フシェパ」fu-sheh-hpa^ˊがいて、周辺の数ヶ村の信仰と祭祀の中心であった。

筆者は2007年に南段老寨と新寨を訪ねて、祭司たちに話を聞いた。南段村は黄ラフ(La^ˊHu-Sheh、ラフシ)の村で、黒ラフ語で話を聞いたが、出てくる言葉の中には黒ラフ語と語彙や発音の違うものもあった。

資料 16-1 (インタビュー) 南段老寨の「フシェパ」fu-sheh-hpa^ˊ、南段老寨の祭祀場ホイエhaw^ˊyeh^ˊにて、2007年09月01日
 <現在の祭祀>

村の儀礼の場所としては、上方から「カシュ」hk^ˊa^ˊsheu^ˊ、「シュイエ」shui^ˊyeh^ˊ、「ホイエ」haw^ˊyeh^ˊがある。

フシェパはホイエに住んでいる。

ホイエの祭壇は3つあり、向かって左から、「nga-ve」(自分のための祭壇)、「女のための祭壇」ya^ˊmi^ˊpa^ˊ、「男のための祭壇」haw^ˊhkawn^ˊpa^ˊである。右側のふたつ(男女の祭壇)は、「村全体のための」shu^ˊhk^ˊa^ˊk^ˊa^ˊpeu^ˊ-e^ˊve^ˊ祭壇である。

「家の祭壇」yeh^ˊnyi^ˊ(yeh^ˊne^ˊ)またはti^ˊva^ˊla^ˊは、「どの家にもある」。しかし、若者には持たない者もある。(つまり、ある程度の年になり、立派な世帯を形成したものの家にはあるという意味である一注)。

フシェパは「戒日」shin^ˊnyi^ˊにはホイエの祭壇で蠟燭を点す(中国の多くのラフ族村落と異なり、線香でなく蠟燭が実践の中心となっている一注)。

(魚の形をした儀礼具には)水を注いで入れるi^ˊka^ˊkeu^ˊve^ˊ。病気がいると、水の精霊に告げるChaw^ˊya^ˊna^ˊk^ˊo^ˊi^ˊka^ˊne^ˊhto^ˊpi^ˊve^ˊ。

人が病気だと、グシャに(回復を)お願いするG^ˊui^ˊsha^ˊhkaw^ˊve^ˊhkaw^ˊhto^ˊve^ˊ。

山の精霊祭祀は、誰でも、できる(技能がある)人がやる。頼まれれば、俺もやる。(ホイエでなく)外でやる。「森」heh^ˊpui^ˊhk^ˊaw^ˊ(村の外れや外側という意

味一注)でやる。

(祭祀をしてもらう際には)ジョバ(jaw^ˊba^ˊ、黄ラフ族の村祭司一注)にはお金を8元入れる(keu^ˊve^ˊ、払うという意味一注)。俺(フシェパ)には入れることはできない(keu^ˊma^ˊhpeh^ˊ、お金を払ってはいけないという意味一注)。

(フシェパの祭祀では)蠟燭を点して(グシャに)お願いする。病気が治らないなら、病気にならないように、身体の調子が悪ければ、調子が悪いことがないように、よくなりますように、浄化されますように、ここでは災いなどがありませんようにMa^ˊna^ˊg^ˊa^ˊve^ˊk^ˊo^ˊna^ˊve^ˊta^ˊcaw^ˊpi^ˊcheh^ˊha^ˊve^ˊk^ˊo^ˊcheh^ˊha^ˊta^ˊteuh^ˊda^ˊpi^ˊkeh^ˊpi^ˊve^ˊcheh^ˊma^ˊda^ˊve^ˊtaw^ˊhkaw^ˊcho^ˊka^ˊma^ˊyaw^ˊkeu^ˊve^ˊとグシャに対して言う。グシャは見えないけれど、そう言うのだ。

<現在の祭祀><佛>

(筆者; 言葉を唱える時はアテフジュA^ˊTeh^ˊFu^ˊCu^ˊに対して唱えるのか?)アテフジュに対しては唱えない。シャジャSha^ˊCa^ˊ(黒ラフ語の発音Sha^ˊCa^ˊとアクセントが異なる一注)に対して唱える(2007年09月01日に、南段老寨の祭祀面での配下にある付近の八索多小組の祭司ジョバが、アテフジュとアシャフジュとは同一で、アシャフジュはグシャであり、祈りの対象であると言ったのとは異なる発言である一注)。

<毛沢東><佛><伝承>

昔は「毛主席」が、ラフのポクpaw^ˊhku^ˊ(大司祭であり政治的リーダーでもある存在一注)だった。ポクとは俺のような存在だ。「毛主席」、つまり「毛沢東」だ。昔、戦争の時には「毛○○」(不明)と呼んでいた、あの毛沢東のことだ。(筆者; 漢族と戦った奴か?)彼らはこの地上を「ガイファン」(「解放」の雲南語発音一注)するとき、戦っていた。蒋介石と彼らが……(不明)……。

毛沢東は昔、俺のようなラフについて、「蠟燭を点す者」peh^ˊtu^ˊsheh^ˊhpa^ˊと呼んだ。俺のような者を「点蠟者」peh^ˊtu^ˊpa^ˊと呼んだ。

毛沢東は人々に、他人の妻を盗んではいけない等、道徳倫理を教えた。そうでないと「へパ」(Heh^ˊPa^ˊ、

漢族)は傲慢だからだ nyi ma ui- ve law。

彼(毛沢東)はポク paw hku˥ だ。他人の妻を盗ってはならない。……してはならない等と教えた。しかし年少者 ya˥ geu˥ は、彼の言うことを聞かなかった。それで彼が死ぬ日 cameたら、死後にはお前たちは……(不明)という言葉を残した。そういう漢語(の言葉)があった。

<時代変化><文化大革命>

「文化大革命」時には、我々のチョモ(chaw maw˥、老人、長老、祖先の意味—注)の言葉 taw˥ hpeu˥ (黒ラフ語で通常 taw˥ hkaw˥ とされるものと同じと考えられる。「老人の言葉」chaw maw˥ taw˥ hkaw˥ は、ラフ族の慣習や決まりという意味である—注)があった(文化大革命当時には民族の慣習が生きていたという意味だと考えられる—注)。

<佛><現在の祭祀>

ポク(paw hku˥、しばしば超自然的な力を有する大祭司で、政治・軍事的な指導者として活躍することも多い—注)はもういない。昔の言葉 taw˥ hpeu˥ を語っているのだ。ポクとフシェパ fu- sheh˥ hpa˥ とは同じだ。

現在、フシェパは、ナボティ Na Bon Ti˥、ワノー Va. Naw˥、バカノ Va. Hka˥ Naw˥、ワムプ Va. Meu˥ Hpeu˥ にもいる。ワムプとは(漢語では)ロジョブ(「龍竹蓬」と表記か?—注)だ。へパ(Heh˥ Pa˥、漢族)が(この辺に来ると)そこばかりに行く。(南段でも)新寨、老寨に(フシェパが)いる。ワムプには人がよく来る。一ヶ月滞在する人もいる。

「シャジャ」はここにいる。ワムプだと(祭祀の対象は)「ペアイエン」と言う。「ペアイエン」とは、毛主席のような存在だ。「ムコミコシェパ」mvuh˥ kaw-mi. kaw- sheh˥ hpa˥ (天地の造り主)と言う。蒋介石と戦い、……「録像」(録画、ビデオのこと。ここでは映画かテレビドラマのことと考えられる)の中に出ている。俺もそれを見た。(「ペアイエン」とは何か不明である—注)。

<毛沢東><佛>

「ガイファン」(「解放」)は毛主席がやった。当時は、国民党と毛主席と二手に分かれて戦っていた。そして(毛主席は)我々に……(不明)してきた。そのことを言っているのだ。

<時代変化><文化大革命>

(儀礼具である銅鑼 bon lo k'o- について) 去年作ったものだ。先祖の時代 chew maw˥ coe hta˥ にあったが、○○の時には××して、そして後でまた作ったのだ。「文

化大革命」の時にはこれは使えなかった。ラフの慣習 La˥ Hu- aw. li˥ も用いなかった。

<現在の祭祀><禁忌>

戒日 shin˥ nyi˥ は、ha pa taw- (満月)と ha pa che- (新月)で、二日間安息する(nyi˥ nyi˥ cheh˥ ve) (これは村人全体でなく、フシェパのみの場合か?)。村人もやってきてホイエに寝るが、今ではあまりやってこない。戒日にも肉を食べる。ホイエの中で食べてもよい。戒日には豚をつぶしてはならない va. ma˥ ti˥ ve が、他の日に屠ったものを食べることは構わない。酒は飲まない。ホイエに酒を持ち込んではいけない。

病気の時には「ケブチェヴェ」hkeh hpfuh˥ che. ve という(両親に不孝を詫びて許しを乞う)儀礼をおこなうことがある。

資料 16-2 (インタビュー) 瀾滄県幹部(女性、40歳代?)、勐朗のレストランにて、2012年08月03日

<佛>

(ラフ族の佛 fu- について、他の人たちを含めて話していた時に、筆者に向かって聞いた) 糯福の南段には行ったことがあるか?(そこには「佛」がいて、「フイエ」があるという示唆)。



写真 16-1 南段老寨。 2007年09月01日



写真 16-2 南段老寨。村の門。 2007年09月01日



写真 16-3 南段老寨。村の広場の儀礼具。 2007年09月01日



写真 16-4 南段老寨。祭祀場ホイエ(右)とシュイエ(左)。手前は案内の村幹部。 2007年09月01日



写真 16-5 南段老寨。祭祀場ホイエの内部。 2007年09月01日



写真 16-6 南段老寨。祭祀場ホイエの内部。祭司フシェパが住んでいる。 2007年09月01日



写真 16-7 南段老寨。祭祀場ホイエの長太鼓 ci k'o_。
2007年09月01日



写真 16-8 南段老寨。祭祀場ホイエの儀礼具。 2007年
09月01日



写真 16-9 南段老寨。祭祀場ホイエの祭壇。 2007年09
月01日



写真 16-10 南段老寨。祭祀場ホイエの蠟燭。 2007年
09月01日



写真 16-11 南段老寨。祭祀場ホイエの長太鼓 ci k'o_。
2007年09月01日



写真 16-12 南段老寨。祭祀場ホイエの瓢箪笙 naw_。
2007年09月01日



写真 16-13 南段老寨。祭祀場シュイエ。 2007年09月
01日



写真 16-14 南段老寨。祭祀場シュイエの祭壇。 2007年
09月01日



写真 16-15 南段老寨。祭祀場カシュ。 2007年09月01
日



写真 16-16 南段老寨。祭祀場カシュの祭壇。 2007年
09月01日

17. 破弄佛

瀾滄県拉巴郷太平掌村の破弄と哈節は、知るかぎり、文献に「佛地」としては出てこない。しかし、東回郷の阿永村や班利村で、そこには佛 *fu-* があるとか、アシャフジュの品々があると村人たちが語ってくれた。

筆者は2012年08月12日に、車で現地に連れて行ってもらったが、佛や「アシャフジュの品々」を見ることはできなかった。したがって以下は、破弄と哈節にあったという佛や「アシャフジュの品々」についての住民からの聞き取り資料である。

資料 17-1 (インタビュー) 瀾滄県東回郷班利村のジャプ *Ca. Hpeu* 牧師 (男性、79歳)、2012年08月05日
 <佛>

〇〇 (不明) の他にも、アテフジュ *A⁻ Teh Fu. Cu⁻* の品々を保存しているところがある。班利村からもそう遠くない、瀾滄県内の「ポルー」*Paw⁻ Lu⁻* (地図を見ると、漢字表記は「破弄」であるようだ一注) という村だ。ロキ *law⁻ ki-* (非キリスト教徒) の村である。

自分がかつてそこを訪ね、一晩泊まってゆっくり話してきたことがある。

アテフジュの石弓、肘から手までの長さぐらいの細い刀、おおきな米の粃殻がある。

資料 17-2 (インタビュー) 瀾滄県東回郷阿永村幹部の義母 (女性、自称90歳) とその長女 (女性、40歳代?)、2012年08月07日

<佛>

「アテフジュ」「アシャフジュ」について老女 (書記の義母) に聞いたら、「ナシャー」*Na Sha⁻* (南哈村) を越えた向こうに、「ポルー」*Paw⁻ Lu⁻* (破弄) という村があり、そこに「アシャフグアンパ」*A⁻ Sha Fu. guan pa-* (アシャ佛の管理者という意味一注) がいるという。「佛」のひとつであるらしい。「ムピ」*Meun⁻ Pi⁻* (勳濱村) に住む老女の息子のひとりで、「ラポ」*La. Paw⁻* という男は、毎年そこに参りに行っているそうである。新年には豆汁 *naw, g⁻ eu,* や白米 *ca. shi-* を捧げる。

老女は「そういうところはへパ *Heh⁻ Pa-* (漢族、こ

こでは政府という意味一注) が嫌がるだろう」(*Heh⁻ Pa. ma⁻ heu, ga⁻ ve*) という。なぜかと聞いてみたが、「知らない」*ma⁻ shi-* というだけだった。

「ポルー」*Paw⁻ Lu⁻* (破弄) は、(阿永村から) ナシャー *Na Sha⁻* (南哈村) を経て行くより、勳濱村から北へ行く別の道があるようである。

ちょうど阿永村に遊びに来ていた、勳濱村在住の老女の長女に聞くと、漢族は「ポルー」(破弄) を、「観音佛山」と呼んでいるそうである。(後で、市販の地図やインターネットの地図で探したり、検索してみたが、見つけれなかった一注)。

資料 17-3 (インタビュー) 唐姓男性 (瀾滄県東回郷阿永村、63歳)、その夫人 (60歳)、2012年08月07日

<佛><時代変化><文化大革命>

昔は「ムラー」*Meun⁻ La⁻* (勳朗) の北の方に「佛」*fu-* があり、年に1度、八月や正月に、この村からも参拝していた *aw. li⁻ yu. ve*。村からは1~2人行った。ピーナツツ *mi. naw⁻ shi-* と玄米 *ca. hk⁻ a* を少しずつ持っていった。すると、向こうに「佛の管理者」*fu. guan pa-* がいて、それを料理して出してくれた。

帰りには水を持って帰ってきた。村人たちはその水を少しずつ飲んだ。その水は「佛」*fu-* の体を洗った水だった。

後に「文化大革命」の時代になって、「へパ」*Heh⁻ Pa-* (漢族、ここでは政府の意味一注) が「佛」*fu-* を捕らえて、連れて行った。

今は、「佛」*fu-* がいる。「ポルー」*Paw⁻ Lu⁻* (破弄) というところにいる。「フイエ」*fu. yeh-* (佛房) もあるだろうが、よく知らない。

昔、「佛」*fu-* は「ポルー」*Paw⁻ Lu⁻* (破弄) と富邦の方にあった。富邦の「佛」は大きかった。

資料 17-4 (インタビュー) 瀾滄県東回郷班利村の牧師 (男性、79歳)、2012年08月10日

<佛>

「ポルー」*Paw⁻ Lu⁻* には、1956年に行ったことがあ

る（しかしその同じ日に後で聞くと、1968年だと言った一注）。近くの森に生薬を探しに行つて。当時は、祠 yeh. も何もなかった。

（筆者；今は？）老女 a pi. k'u. が1人いて、管理 ha. sha. している。老女は豚肉も鶏肉も食はず、豆汁 naw^ g'ui. しか飲まない。

傣族の仏像 sha. ho. のような「佛」 fu. が置かれている。今は建物 yeh. （祠や廟のこと一注）も作つてあるだろう。

昔とは違つているだろうから、今はよい道ができていくかも知れない。班利村を越えて歩いて行くこともできる（18キロぐらいだろう）が、勐瀆から北へ行く方が、道はよいだろう。

「ポルー」 Paw Lu. （破弄）は、竹塘郷にある。

資料 17-5（インタビュー） 瀾滄県東回郷班利村の傣族男性（40歳代？）、2012年08月11日

<佛>

傣族男性さんに、「ポルー」 Paw Lu. （破弄）へ連れて行つてもらふように頼んだ。傣族男性さんによると、他に「ハージョ」（哈節）、「タービジャ」（大平掌）にも、「アシャフジュの品」 A. Sha Fu. Cu. maw. があると言う。

資料 17-6（インタビュー） 瀾滄県東回郷班利村の傣族男性（40歳代？）、2012年08月12日

<佛>

太平掌村哈節寨は「ロキ」 law ki. （非キリスト教徒）の村だ。

昔、銀があつたが、持つて行かれてしまった。

「佛」 fu. の品を保管してある。大刀、鋏、槍、おおきな鉄砲がある。

（米国にいるラフ人の）ジャハー Ca. Ha. の父の友人が、「地主」だったために、金貨を埋めて、タイに逃げた。ずっと後に、ジャハー Ca. Ha. が見に来たが、なかった。誰かが持つていったのだ。

資料 17-7（インタビュー） 瀾滄県拉巴郷大平掌村哈節寨に住むラフ族女性（30歳代？）、2012年08月12日

<佛>

「佛」 fu. の品を管理していたジャロ Ca. Law. は、数日前に死んだ。酒を飲み過ぎて死んだ。彼は「佛」 fu. でなく、普通のラフ人（管理者）だ。「ハーク」（不明、ha. k'u. と表記か？鍾乳石のことか一注）をたくさん

作つていた。（管理者が亡くなり、佛の品々の行方も分からないとのことで、見ることはできなかった）。



写真 17-1 哈節寨。アテフジュの品々があったという。
2012年08月12日



写真 17-2 破弄寨。アテフジュの品々があったという。政
府が作った新しい集落に移動中だった。 2012
年08月12日



写真 17-3 破弄寨の幹部の家の祭壇。 2012年08月12
日



写真 17-4 破弄寨の村の祭祀場。 2012年08月12日



写真 17-5 破弄寨の村の祭祀場の祭壇。 2012年08月
12日